

すこやかな毎日、
ゆたかな人生

Glico

CSRレポート 2025

Glicoグループ

目次・編集方針

社長メッセージ	03
CSRの考え方・推進体制	04
マテリアリティ（重要課題）	05
地球とともに	
【環境ビジョン・環境マネジメント】	
Glicoグループ環境ビジョン2050	10
環境方針・体制	13
環境マネジメント	15
【分野別取り組み】	
1.気候変動への対応・温室効果ガスの削減	17
2.持続可能な水資源の活用	30
3.持続可能な容器包装資源の活用	33
4.食品廃棄物の削減	38
社会とともに	
【品質保証】品質への想い・こだわり	43
【品質保証】安全・安心への取り組み	46
お客様満足のために	51
お客様の声を活かした改善	56
人的資本	65
ダイバーシティ&インクルージョン推進	70
働きやすい職場づくり	74
健康経営	79
安全衛生	86
人権の尊重	87
サプライチェーンマネジメント	91
地域貢献	100
事業活動の基盤	
コーポレート・ガバナンス	110
コンプライアンス	115
外部イニシアティブへの参画	116

編集方針

当CSRレポートは、ステークホルダーの皆さまに、GlicoグループのCSR（Corporate Social Responsibility）に対する考え方や取り組み姿勢、具体的な活動についてご理解いただくことを目的に発行いたしました。

報告対象組織

江崎グリコ株式会社ならびにGlicoグループ各社

報告対象期間

2024年度（2024年1月1日～2024年12月31日）

※一部2023年度以前および2025年の活動も含まれています。

発行月

2025年6月（年1回発行）

※情報については、発行時点での最新のものを掲載しています。

※記載されている会社名、商品名等は、各社の登録商標または商標です。

参考にしたガイドライン等

GRIスタンダード

環境省発行「環境報告ガイドライン（2018年版）」

発行

江崎グリコ株式会社

サステナビリティ戦略室

※2025年4月に「CSR推進室」から「サステナビリティ戦略室」に組織名を変更しました。

お問い合わせ先

グリコお客様センター：☎ 0120-917-111

※平日のみ



お客様の高まる期待に こたえるために、 新たな価値を生み出し続けます

近年の世界的な公衆衛生に関する危機は、生活者に価値観や生活様式を見直す機会をもたらし、健康管理や免疫への意識を急速に高めました。健康的な生活を送るため、運動・栄養・休息の重要性についても再認識されたように感じます。そこで当社は、生活者の健康を維持・向上させたり、乳幼児の成長を促したりする製品の開発や、機能性素材の研究開発に力を入れ、お客様の生活になくてはならない商品の充実に努めています。また、さらなる成長を目指し、アジア地域で菓子や飲料などの食品事業に注力するなど、グローバル展開も加速させています。

100周年にあたる2022年には、存在意義（パーパス）を「すこやかな毎日、ゆたかな人生」と決めました。この言葉には、生活者の皆さまがそれぞれの「すこやかな毎日」を送り、その日々の積み重ねによって「ゆたかな人生」を実現できるよう、事業を通じて貢献していくのだという当社の強い意志を込めています。そしてその原点は、Glicoグループ創業の精神にあります。

創業者・江崎利一は、今から100年以上も前、人々がまだ栄養不良・不足の状態であった時代に、牡蠣の煮汁に含まれる栄養素「グリコーゲン」と出会いました。そして、その栄養を摂取することで病気の予防に役立ててもらいたいと考え、創意工夫による試行錯誤を重ね、栄養菓子『グリコ』を創製しました。かねて事業を通じて社会に貢献したいと考えていた創業者は、その想いを当時の社是となった「食品による国民の体位向上」という言葉で表現しました。その後、創立70周年にあたる1992年には、企業理念を「おいしさと健康」へと改訂しています。

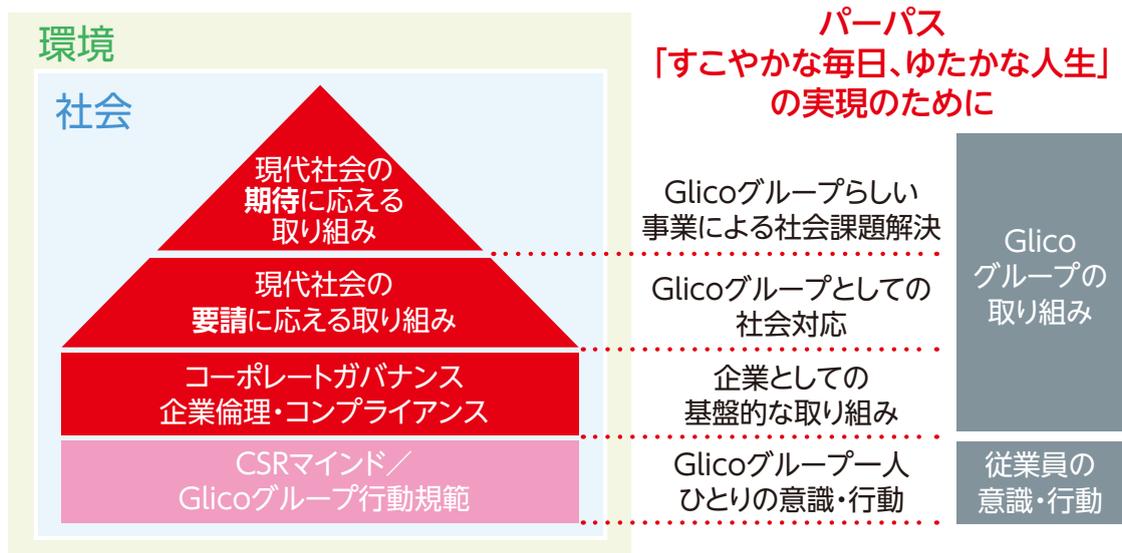
会社としての歴史が一世紀を超えた今も、「人々の健康に貢献する」との精神は変わることはありません。一方で、社会変化のスピードが速い現代においては、変わりゆく人々の期待に応え続けていくことも必要です。これからも新たな価値を創出し、社会に役立つ存在であり続けるため、グループが一丸となり積極果敢に行動を起こしていく所存です。そして、より良い社会の実現のため、さまざまな組織や活動とも連携を深めながら、中長期視点で「事業を通じて社会に貢献する」経営に取り組んでまいります。今後ともより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

江崎グリコ株式会社
代表取締役社長
江崎 悦朗

CSRの考え方・推進体制

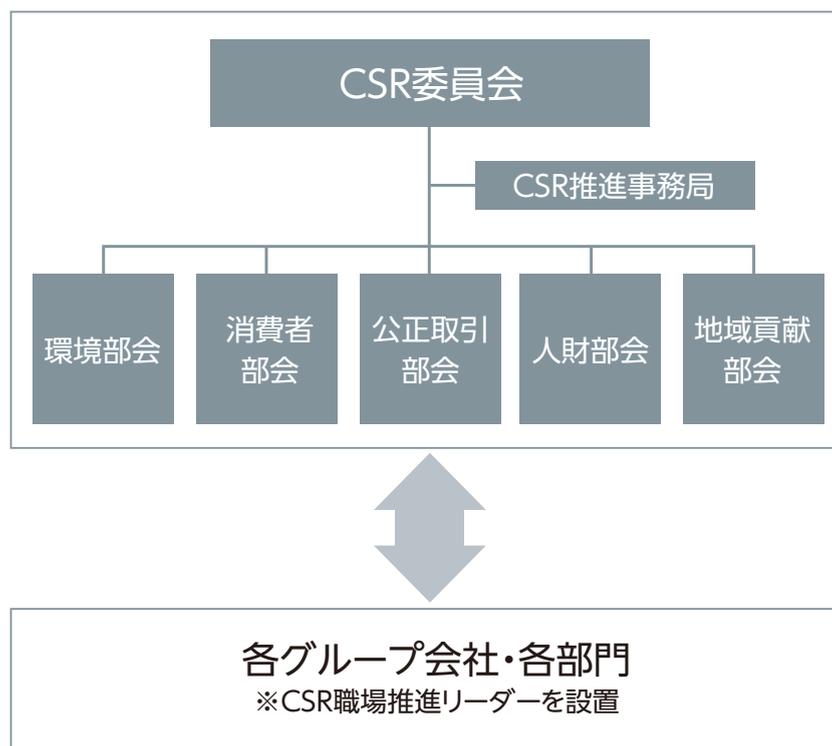
GlicoグループのCSRの考え方

Glicoグループは、創業者・江崎利一が、「食品を通じて国民の体位向上に貢献したい」という信念のもと、グリコーゲン入りの栄養菓子グリコを創製したことに始まります。私たちは、この創業者の想いを受け継ぎ、パーパス「すこやかな毎日、ゆたかな人生」を実現し、世界の人々が豊かで笑顔あふれる人生を歩めるように、ココロとカラダの健康に貢献することを使命として活動してまいりました。これからの時代においても、世界でこの使命を果たし続けていくため、変わりゆく時代の要請や期待に応え、新たな価値の創出にチャレンジし、社会とともに発展してまいります。



CSR推進体制

Glicoグループでは、CSRの推進を重要な経営課題と捉えており、江崎グリコの代表取締役を最高責任者とするCSR委員会を設置して、グループ全体でCSRを推進する体制を敷いています。CSR委員会は議題ごとに年に数回実施し、CSR推進の方向性の策定や進捗状況の確認等を行っています。CSR委員会の活動状況については、江崎グリコの取締役会等にて報告を行い、CSRを経営に反映させながらグループ一体となって推進する体制を取っています。



マテリアリティ（重要課題）

Glicoグループは、事業を通じて社会に貢献し続けていくために、取り組むべきマテリアリティ（重要課題）を明確にした上での活動が重要であると考えています。

2019年6月には、消費者、取引先、従業員、株主・投資家等のステークホルダーの声を踏まえ、マテリアリティの特定を実施しました（「CSRレポート2019」参照）。今回は、さらに持続可能な社会の実現に貢献していくことを目指して、グローバルにおける社会課題の視点を強化し、社外の有識者からもご意見をいただきながら、マテリアリティの見直しを行いました。

この度特定したマテリアリティの内容をもとに、中長期における目標・KPIを策定し、活動を推進していきます。

マテリアリティ（20項目）		関連する主なSDGs
製品安全・消費者・コミュニティ課題	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な商品・サービスの提供 ・人々の健康への貢献 ・公正で誠実なマーケティング ・貧困解消への貢献 ・消費者のプライバシーの保護 ・持続可能な消費とライフスタイルの提案 	        
労働・人権課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人財の育成 ・ダイバーシティ & インクルージョン ・労働安全衛生 	
環境・社会共通課題	<ul style="list-style-type: none"> ・共創とイノベーションの推進 ・商品・サービスのライフサイクル全体での環境社会配慮 ・サプライチェーンの環境社会配慮 	
環境課題	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動の緩和と適応 ・資源循環と廃棄物削減 ・水資源の管理 ・生物多様性の保全 	
コンプライアンス・ガバナンス課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート・ガバナンス ・人権尊重のマネジメント ・情報開示と対話の推進 ・企業倫理の実践と腐敗防止 	

- 製品安全・消費者・コミュニティ課題
- 労働・人権課題
- 環境・社会共通課題
- 環境課題
- コンプライアンス・ガバナンス課題



マテリアリティの特定プロセス

取り組むべきマテリアリティを明らかにするために、調査・分析を行いました。分析の際は、国連グローバル・コンパクトの10原則、持続可能な開発目標（SDGs）、ISO26000の他、GRIスタンダードやSASB等の示す非財務情報開示基準、FTSEやMSCIをはじめとするESG評価機関の評価項目等を参照しています。具体的な特定プロセスは以下の通りです。





①マテリアリティ候補案作成

Glicoグループの企業理念・行動規範・経営計画等をもとに、国連グローバル・コンパクトの10原則やSDGs等の国際的な枠組み、ISO26000・GRIスタンダード・SASB等のガイドライン、各種ESG評価項目等の視点も加え、マテリアリティの候補項目をリストアップしました。



②ワーキンググループで検討

関係部署を交えたワーキンググループによる検討を実施。①でリストアップしたマテリアリティ候補項目を、「ステークホルダーの要請・期待」と「事業への影響度」の2軸でマッピングし、優先して取り組むべきマテリアリティ候補の案を抽出しました。



③CSR委員会で議論

②で抽出したマッピング案・優先して取り組むべきマテリアリティ候補の案について、経営層が参加するCSR委員会において議論を実施しました。



④有識者ヒアリング

③で議論されたマテリアリティ候補案について、妥当性を確認するため、外部の有識者にヒアリングを実施。いただいた提案・指摘内容をもとにマテリアリティ案を再評価しました。

<ご意見をいただいた有識者>



IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表
川北 秀人 氏



グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事
河口 真理子 氏



2020年6月に実施した有識者ヒアリングの様子

<主なご意見>

◆商品・サービスを通じた価値提供について

・『安全・安心な商品・サービスの提供』は、食品企業として重要です。「食の安全」を確保するため、さまざまな取り組みが行われていると思いますが、それだけでは消費者が「安心」できるとは限りません。これからの時代は、人権や動物福祉（アニマルウェルフェア）※1に配慮されていることも「安心」に大きく関係すると考えます。Glicoグループがこれからの時代に提供する「安全・安心」を深掘りした上で活動を推進し、その情報を積極的に開示することを推奨します。

・『人々の健康への貢献』のためには、取りすぎると健康を損なうリスクのある成分（糖類、塩分等）を減らすだけでなく、取り続けることで健康になる機能性を持つような付加価値の高い商品・サービスの拡大を期待します。

◆人権課題について

SDGsの目標である2030年に向けて、人権課題に対するステークホルダーの関心はさらに高まると考えます。例えば、発展途上国からの原材料調達において、児童労働や強制労働が行われていないか等の『サプライチェーンの環境社会配慮』が重要になります。また、長時間労働が行われていないか等、従業員の『労働安全衛生』が十分に担保されているのかということも、人権課題の一つとして重要です。事業活動や取引関係を通じた人権への負の影響を特定し、防止し、軽減し、対処する『人権尊重のマネジメント』を推進し、その活動を積極的に情報開示すべきです。

◆環境課題について

『気候変動の緩和と適応』『生物多様性※2の保全』はグローバルにおいて重要な課題です。これまでは、気候変動の「緩和」に関する活動が注目されていましたが、気候変動の影響が拡大し、異常気象が多発している中、「適応」に関する活動の重要性が高まっています。このことは、商品・サービスに不可欠な原材料の調達等にも直結します。環境負荷を下げ、気候変動への「適応」も進めるべきです。

◆今後について

・Glicoグループの商品・サービスを使用し続けることで、「健康に良い」だけでなく、人権、環境、消費者課題の解決にもつながることを期待します。

・時代の変化や今後の事業活動を踏まえ、3～5年後にマテリアリティやポートフォリオを見直すことを推奨します。

※1 動物福祉（アニマルウェルフェア）とは

動物が健康で、快適で、十分な栄養が与えられ、安全で、動物本来の行動が可能であり、痛み、恐怖、苦痛等の不快な状態に苦しんでいない状況で飼育されていることを意味します。

※2 生物多様性とは

地球上の生態系、種、遺伝子の「多様さ」を示します。私たちの暮らしは食料や水の供給、気候の安定等、生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みによって支えられています。



⑤取締役会での議論を経て策定

④で再評価・整理された課題およびGlicoグループにおける位置付けについて、2020年7月15日に江崎グリコにおける取締役会での議論を経て、Glicoグループのマテリアリティを策定しました。

今後の取り組み

◆商品・サービスを通じた価値提供について

世界の人々がおいしくて健康な食と生活習慣を取り入れ、よりよい毎日を送るための商品・サービスを拡大します。また、食品企業として、商品・サービスの安全・安心はもちろんのこと、バリューチェーン全体の安全・安心を高めていきます。

◆人権課題について

「Glicoグループ人権方針」のもと、ステークホルダーの皆さまとともに活動を推進します。

◆環境課題について

「Glicoグループ環境ビジョン」を策定し、気候変動の緩和と適応、生物多様性等に関する長期的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みます。

このように、事業を通じて人々の健康に寄与するとともに、さまざまな社会課題の解決に取り組み、持続可能な社会に貢献することを目指して活動していきます。

なお、2023年にマテリアリティ項目に関する社会動向調査を行い、現在の課題項目が引き続き重要であることを確認しつつ、見直しの必要性についてCSR委員会にて議論を行いました。

2024年からはマテリアリティの見直しの議論を開始しており、見直しの結果については、2025年～2026年に本ホームページにて公開します。

地球とともに

豊かな地球環境を未来に繋いでいくために企業活動を推進します。



Glicoグループ環境ビジョン2050

Glicoグループ環境ビジョン2050の策定

2021年3月、Glicoグループは重要課題に基づいた4つの分野について、2050年をゴールとした中長期ビジョンを設定しました。豊かな地球環境を未来につないでいくため、活動を推進していきます。

Glicoグループ環境ビジョン2050

資源循環社会の実現に向けて、企業市民としての責務を果たします



Glicoグループ中長期環境定量目標・取り組み内容

環境ビジョンをもとに、中長期における目標・KPIを策定しました。今後は設定したKPIの達成に向けて取り組み、持続可能な社会に貢献することを目指して活動していきます。



<取り組み内容>

1 気候変動への対応 温室効果ガスの削減

Glicoグループでは、企業活動で使用する電気、ガス等の使用量を管理し、CO₂の排出量を削減しているほか、工場等で新しい設備を導入する際には、省エネルギーやノンフロンなど環境面に十分に配慮した設備への切り替えを進めています。2050年までに、再生可能エネルギーへの切り替えやコージェネレーションシステムによる効率化、冷凍機の更新等を通じ、温室効果ガス（CO₂やフロンガス等）を100%削減することを目指します。

2 持続可能な 水資源の活用

Glicoグループでは、一部の工場において、排水を冷凍設備の冷却に再利用する等、水資源の使用量削減に取り組んでいます。2050年までに、空冷式システムの採用や水処理技術の向上等を通じ、水の使用量原単位を20%削減および水質汚染ゼロ化を目指します。

3 持続可能な 容器包装資源の活用

Glicoグループでは、容器・包装の機能を追求するとともに、減量化による環境負荷の低減にも取り組んでいます。2050年までに、生産技術向上および規格見直しによる減量化やバイオマス素材への転換等を通じ、プラスチックをリサイクル原料に、紙を森林認証紙にそれぞれ100%切り替えることを目指します。

4 食品廃棄物の 削減

Glicoグループでは、製造工程での廃棄物の削減に注力するとともに、需給予測の精度向上による過剰在庫を持たない仕組みを通じて、食品廃棄物の削減に取り組んでいます。2050年までに、サプライチェーンの効率化や需給予測精度の向上等、廃棄が発生しない取り組みに注力する他、商品の微細な欠け等、品質に問題がない商品を不揃い品としてアウトレット販売を行う等により、食品廃棄物を95%削減することを目指します。

環境ビジョン・中長期環境定量目標の策定プロセス

CSR委員会環境部会を中心に、専門家のアドバイスを得ながら、長期軸の環境評価の分析を行い、環境ビジョン案および中長期目標案を作成しました。その上で、CSR委員会、取締役会の議論を経て、2021年3月に策定しました。



Glicoグループ環境方針

環境取り組みに関するGlicoグループの姿勢を明確にし、活動の指針とするため、環境方針を定めています。お客様や取引先をはじめとするステークホルダーのご理解とご協力をいただきながら、活動を推進しています。

Glicoグループ環境方針

Glicoグループは、温室効果ガスの排出削減や持続可能な資源の活用等をはじめとした環境負荷低減を通じて自然環境の保全に貢献し、地球に生きる様々な生物との共生を実現します。

1. 私たちは、お客様に高品質で安全・安心な製品やサービスをお届けすると共に、原材料の調達から生産や供給、最終的に容器包装が廃棄されるまでの過程において、環境負荷の低減に取り組めます。
2. 私たちは、環境汚染の予防や生態系への配慮、地球温暖化防止に取り組む、また資源の有効活用を通じて大切な地球が持続可能な社会となるように、法令などのルールを順守し、企業としての社会的責任を果たします。
3. 私たちは、企業活動の質的向上につなげるため、業務の見直しや効率化に取り組みながら、環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境パフォーマンスの向上に努めます。
4. 私たちは、環境保全への意識向上を図ると共に、従業員が安全に、そして安心して働けるような事業所を追求していきます。
5. 私たちは、お客様をはじめとする社会とのつながりを大切にしながら、様々なコミュニケーションや社会貢献の活動を推進します。

制定 2000年2月

改訂 2016年4月

改訂 2021年2月

改訂 2023年1月

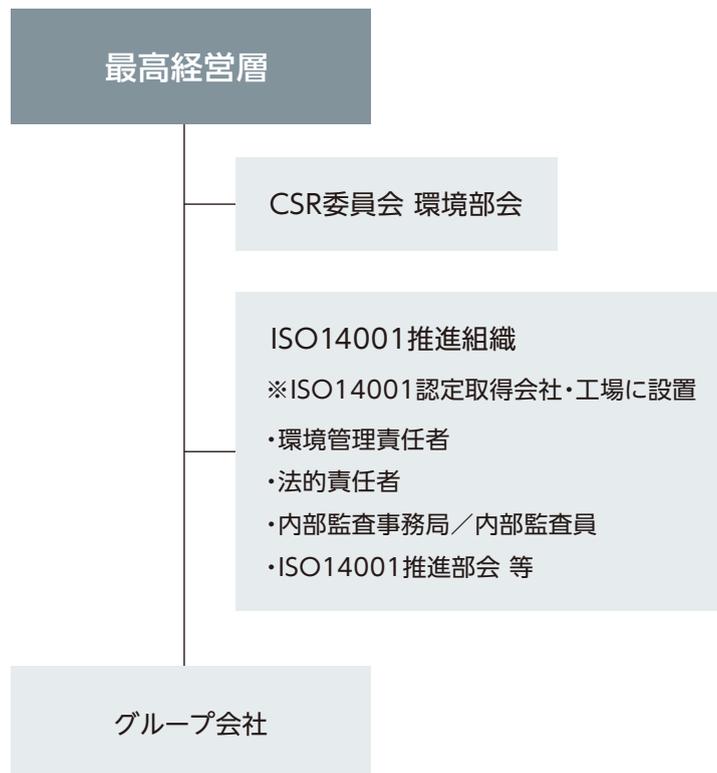
Glicoグループ環境活動指標

- 商品・サービスへの環境負荷低減
- 地球温暖化防止
- 環境汚染の防止
- 資源の有効活用
- 業務の効率化や見直しによる企業活動の質的向上
- 環境教育や安全取り組み
- 環境コミュニケーションの推進



バリューチェーン全体において、環境にやさしい企業活動を推進しています。

環境活動推進体制



環境マネジメント

環境マネジメントシステム

Glicoグループは、古くから公害対策や省エネルギー・省資源に取り組んできました。2002年2月からは「環境方針」を制定し、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の要求事項に基づいて、継続的に環境負荷の低減や環境保全に取り組んでいます。

ISO14001の認証取得会社・工場（2023年度）

- 江崎グリコ
- 那須工場
- 千葉工場
- 東京工場
- 三重工場
- 神戸工場
- 柏原工場（2024年4月閉鎖）
- 佐賀工場
- 江崎格力高関発食品（上海）有限公司
- Bangkadi Factory, Thai Glico Co., Ltd.
- 仙台工場
- 茨城工場
- 北本工場
- 岐阜工場
- 大阪工場
- 兵庫工場
- 鳥取工場
- 上海江崎格力高食品有限公司関行第一分公司（2024年7月閉鎖）
- 江崎格力高南奉食品（上海）有限公司
- Rangsit Factory, Thai Glico Co., Ltd.

環境教育

環境教育や地域社会との共生、コミュニケーション

Glicoグループは、環境教育や地域貢献活動を通じ、地域社会との共生や良好なコミュニケーションを築くよう取り組みを推進しています。

環境教育・環境活動

従業員が公私を通じて環境への意識を高め、環境保全活動に積極的に取り組むように、eラーニングのシステムを活用し、教育内容の理解度を確保するためのテストを実施する等、定期的に環境教育を行っています。

また、ISO14001に関するより専門的な知識を習得し、内部監査員として活動するメンバーの養成講座も開催しています。

環境ISO関連教育研修コース



A【過去分】定期環境教育

タイプ： eラーニング



B【対象者のみ】内部監査員養成 セミナーフォローアップ講習

タイプ： eラーニング

ISO14001目標と実績（国内）

2024年度の目標	結果・達成率	評価
環境教育（社外教育含む）を2件実施する	2件実施	○
環境活動を21件実施する	36件実施	○

行政指導・ご指摘等

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
行政処分や勧告、訴訟等、重要な案件	0件	0件	1件	0件
行政等からの注意、指導等、軽微な案件	0件	1件	1件	1件

Glicoグループでは、2024年度、環境に関する行政処分や訴訟等はありませんでしたが、以下の通り、該当の行政窓口より書面による1件の指導を受けました。

兵庫工場において、2024年6月に岡山県備中県民局より、産業廃棄物の県内搬入事前協議制度にて申請した搬入量に対して、過去2年間超過していた旨の指導を受けました。

本件については、行政窓口に連絡、報告を行うと共に、事前協議内容の変更を申請し、承認を受けています。

1.気候変動への対応・温室効果ガスの削減

Glicoグループ環境ビジョン2050中長期環境定量目標

気候変動への対応 温室効果ガスの削減



環境ビジョン2050進捗（グローバル）

1 気候変動への対応 温室効果ガスの削減	CO ₂ 総排出量 (Scope1+2) の削減率	基準年	実績				目標	
		2013年	2021年	2022年	2023年	2024年	2030年	2050年
			-11%	-23%	-22%	-34%	-50%	-100%

2024年度、CO₂総排出量は2013年比34%削減しました。（※現時点では換算係数が未更新のため暫定）引き続き燃料転換やCO₂フリー電力※への切り替えを推進し、2030年までに50%削減達成を目標に取り組みます。さらに、2050年までに、CO₂フリー電力の幅広い活用や省エネ・創エネなどの新技術、冷凍機の更新等を通じ、温室効果ガス（CO₂やフロンガス等）を100%削減することを目指します。

代替フロンについては、グローバルにおける使用状況を確認し、対象機器のリストを作成し、対象機器の計画的な更新を計画・実行しています。日本における「セブンティーンアイス」専用の自動販売機についても、R22冷媒使用機の撤廃は、2024年12月時点で残り7台まで進捗しています。

※CO₂フリー電力とは、再生可能エネルギー由来を主体とする電力になります。Glicoでは、電力供給事業者との契約の中で、使用電力のCO₂排出量をゼロ（＝フリー）と換算できる環境価値を付加したプランを選択した場合をCO₂フリー電力と位置付けています。

エネルギー等の使用実績の推移

グローバル※1

主なエネルギー・物質	2022年度	2023年度	2024年度
原単位 (kl/億円)	30.2	29.2	28.3
電気 (千kWh) ※3	181,820	197,858	193,920
都市ガス (千m ³)	14,046	14,862	14,550
LPガス (t)	272	356	324
LNガス (t)	926	919	772
重油 (千kl)	2.2	1.9	1.6
ガソリン (千kl)	0.7	0.7	0.7

日本※2

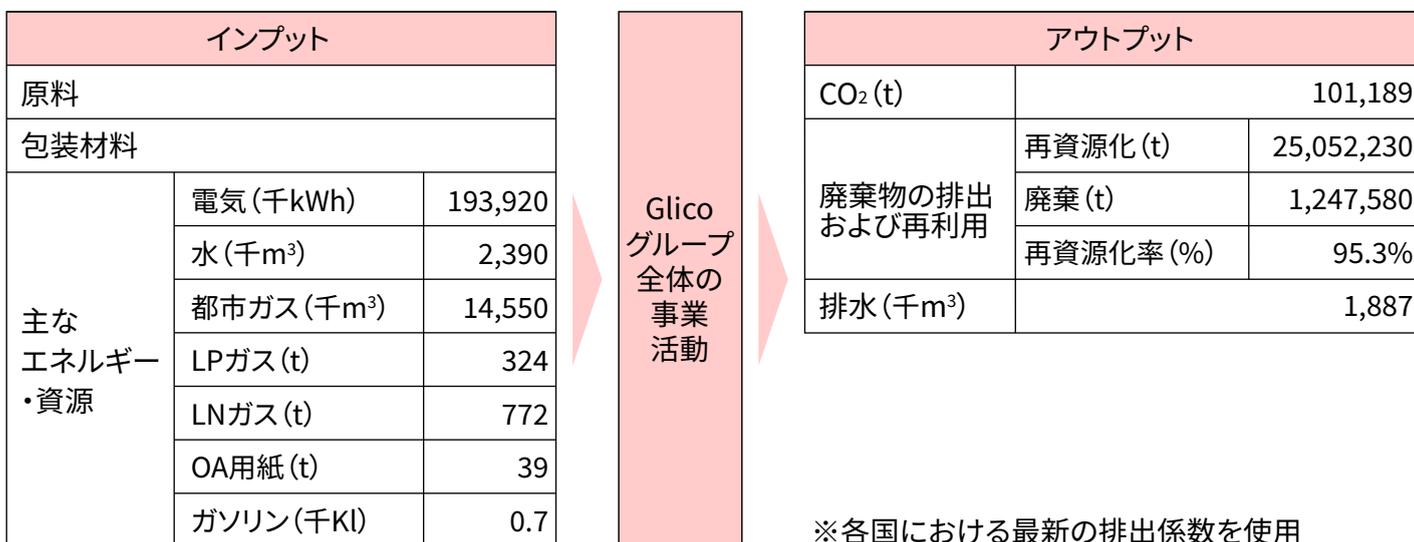
主なエネルギー・物質	2022年度	2023年度	2024年度
原単位 (Kl/億円)	26.9	28.8	30.0
電気 (千kWh) ※3	147,855	141,713	137,645
都市ガス (千m ³)	11,617	11,404	10,745
LPガス (t)	99	212	205
LNガス (t)	926	919	772
重油 (千kl)	2.2	1.9	1.6
ガソリン (千kl)	0.7	0.7	0.7

※1 Glicoグループ連結会社（日本・海外。一部グループ会社・事業所を除く。）

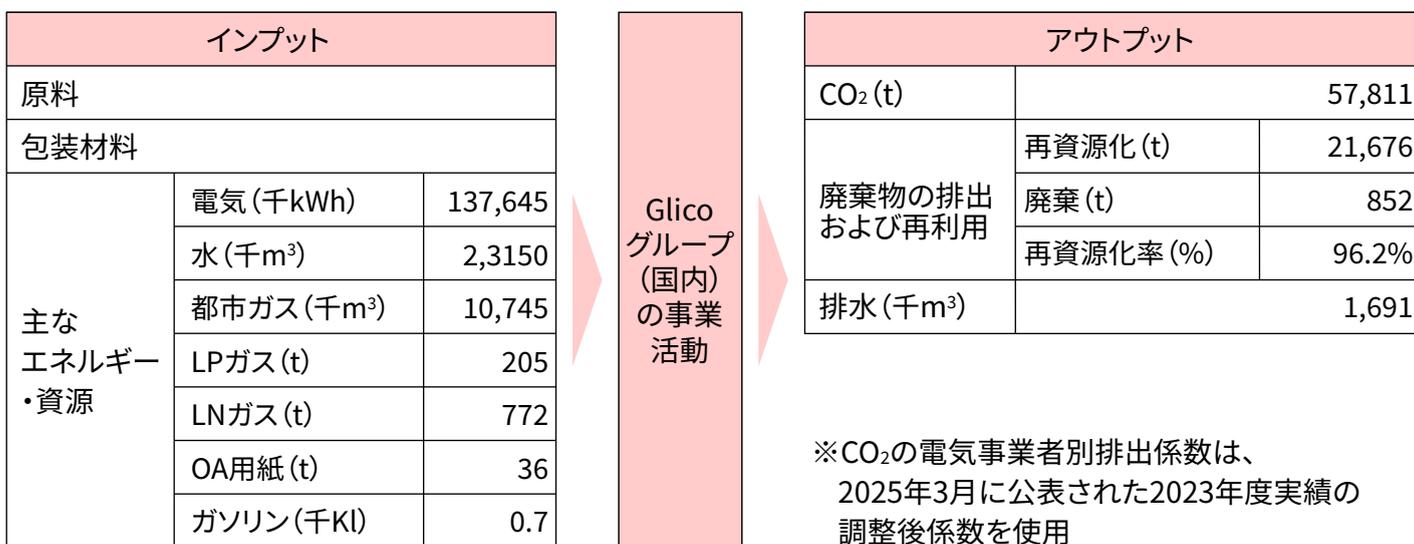
※2 Glicoグループ連結会社（一部グループ会社を除く。）

※3 コージェネレーションシステムによる発電量を除く。

グローバル※1



日本※2



※1 Glicoグループ連結会社（日本・海外。一部グループ会社・事業所を除く。）

※2 Glicoグループ連結会社（一部グループ会社を除く。）

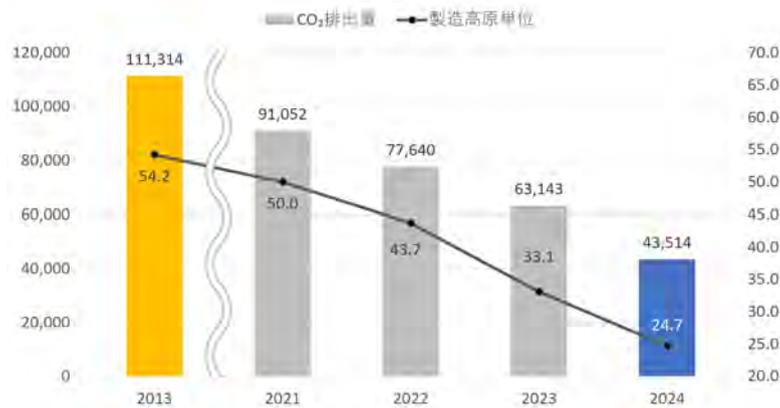
製造工場における取り組み

製造工場では、電気やガスだけでなくさまざまなエネルギーを使用していますが、業務の効率化を図り、省エネを推進しています。また、エネルギーを使用する設備は、計画的に省エネタイプに更新しています。CO₂の排出量が多い重油を使用する設備は、効率を考慮しながら計画的にガス化する等、エネルギー転換を行います。

CO₂排出量の推移

2024年度のCO₂排出量は、前年度よりさらに減少し、2030年目標に近づきました。従来からの省エネ活動に加えて、工場で使用する電力をCO₂フリー電力（CO₂を排出しない再生可能エネルギー電源に由来する環境価値付きの電力）に計画的に切り替えていることが大きな削減につながっています。

製造工場におけるCO₂排出量の推移



※各年度の電気事業者別の調整後排出係数を使用。
※原単位は、t-CO₂/生産高(億円)。
※2019年より、1月～12月の年間実績に換算。

CO₂フリー電力比率の向上

東日本6工場（仙台、那須、茨城、千葉、北本、東京）については、2023年4月より、工場で使用する電力の100%をCO₂フリー電力の購入に切り替えました。これにより、国内工場の電力使用量の約50%が再生エネルギー由来の電力となっています。2024年には新たに岐阜工場、三重工場、兵庫工場、佐賀工場も100%CO₂フリー電力に切り替え、2025年度中にはグリコマニュファクチャリングジャパン（株）の全13工場を切り替える予定です。今後も計画的にCO₂フリー電力へ切り替えることで電力利用に伴うCO₂排出の抑制に取り組めます。

設備更新によるエネルギー効率化

神戸工場では、2020年2月に、コージェネレーションシステムを更新しました。更新前に比べ、年間約960tのCO₂削減（神戸工場の総排出量の約4%）に貢献しています。那須工場と茨城工場では、2021年2月より従来のA重油から液化天然ガスに、兵庫工場は、2025年2月よりA重油からLPガスにそれぞれ燃料転換したボイラーに更新しました。年間約1,550tのCO₂削減につながっています。



神戸工場コージェネレーションシステム



液化天然ガスに燃料転換したボイラー

太陽光パネルの設置・発電

江崎格力高南奉食品（上海）有限公司の取り組み

江崎格力高南奉食品(上海)有限公司では2021年12月より、太陽光パネルによる発電（第1期）を開始し、年間約46万kWhの発電が実現しました。2022年、第2期パネル設置工事をスタートし、2023年2月から発電を開始しました。第1期・第2期合わせて2023年度は64.5万kWhの発電量、270tのCO₂排出削減の実績となりました。2024年は、2025年開始に向け、第3期の準備を進めました。



江崎格力高南奉食品(上海)有限公司

Glico Manufacturing Indonesiaの取り組み



『Pocky』の最新鋭技術が詰まった新工場、Glico Manufacturing Indonesia が2022年3月末に完成しました。敷地面積は約6万㎡、建物の延床面積は約5万7,000㎡で、『Pocky』の自社工場として過去最大規模です。太陽光パネルを屋根に設置し、2024年度の発電量は119万kWh、年間で約1,038tのCO₂排出削減に貢献しました。

Glico Manufacturing Indonesia

新技術へのチャレンジ

焼き菓子製造における水素燃料取り組み

『Bisco』のビスケットや『Pocky』の芯に当たるプレツェル部分などの焼き菓子は、電化オーブンでは熱量が足りずに従来のおいしさを担保しにくいと言われています。このため、現在は都市ガスを使用していますが、将来の技術革新を見据えて水素エネルギー協会に唯一の食品企業として加盟しています。水素由来の燃料で焼き菓子を作ることを想定した研究を続けています。

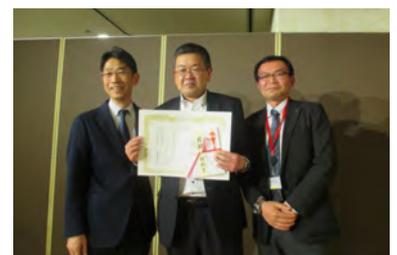
岐阜工場に「水素」を利用した燃料電池フォークリフトを導入、脱炭素社会への実現へ

次世代エネルギーとして注目される水素の実用性を検証するため、食品業界で初めて燃料電池フォークリフトを導入しました。燃料電池フォークリフトは、利用時に水しか排出しないため、CO₂の削減となるとともに、短時間での充填が可能のため作業環境の改善に役立ちます。このような取り組みを進めることで、今後の脱炭素化と水素利用の拡大に向けた準備を進めています。さらに、地域全体での脱炭素取り組みを加速化するため、岐阜県安八町と「脱炭素包括連携協定」を締結しました。本協定のもと、自治体と協力しながら、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを強化していきます。



製造会社におけるVC活動表彰

製造ラインを安定させることで高品質・低コストな生産体制や安全性の高い職場環境を実現するため、VC（Value Creation）活動を行っています。Glicoグループの製造会社等が集まり、VC活動の報告会を実施し、年1回優秀事例を表彰しています。



VC活動の報告会の様子

物流における取り組み

Glicoグループでは、商品の輸送時のエネルギー使用量や積載効率等にも配慮して、CO₂の削減を進めています。

- 物流全体の効率を踏まえた物流拠点の展開・見直し
- 同業他社との共同配送の拡充による配送効率の向上
- 増トン車・トレーラー活用による積載量の向上
- 鉄道輸送・船舶輸送へのモーダルシフトの推進

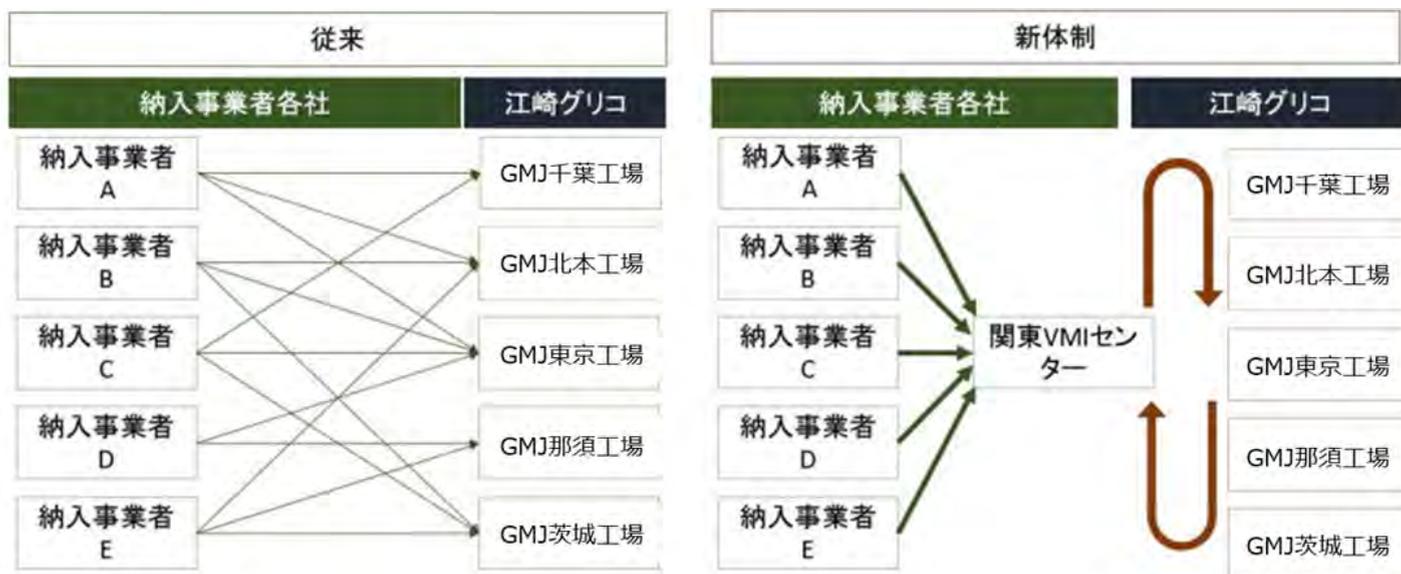
「ホワイト物流」推進運動への参加

江崎グリコは、国土交通省・経済産業省・農林水産省が提唱する「ホワイト物流」推進運動の趣旨に賛同し、「ホワイト物流」推進運動事務局に自主行動宣言を提出しています。「ホワイト物流」推進運動とは、深刻化する運転手不足に対応し、国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保するとともに、経済の成長に寄与することを目的とし、①トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化②女性や60代の運転者等も働きやすい「ホワイト」な労働環境の実現に取り組むものです。今後も、物流事業者の皆さまとの相互理解の下に連携して、物流の効率化や生産性向上に向けた取り組みを進めていきます。

取組項目	取組内容
物流の改善提案と協力	長時間待機の削減や附帯作業の是正等の物流改善について、物流事業者から要請があった場合には、真摯に協議に応じるとともに、着荷主（取引先）への働きかけを積極的に行います。
予約受付システムの導入	トラックの予約受付システムを導入し、荷待ち時間を短縮します。
パレット等の活用	パレット、カゴ台車、折りたたみコンテナ、通い箱等を活用し、荷役時間を削減します。
発荷主からの入出荷情報等の事前提供	発荷主として貨物を発送する場合に、物流事業者や着荷主の準備時間を確保するため、入荷情報等を早めに提供します。
リードタイムの延長	配車業務の安定化を図るため、着荷主（取引先）と協力し、受注から納品までのリードタイムの延長に取り組めます。
船舶や鉄道へのモーダルシフト	長距離輸送について、トラックからフェリー、RORO船や鉄道の利用への転換を行います。この際に、運送内容や費用負担についても必要な見直しを行います。
運送契約の書面化の推進	運送契約の書面化を推進します。
異常気象時等の運行の中止・中断等	台風、豪雨、豪雪等の異常気象が発生した際やその発生が見込まれる際には、無理な運送依頼を行いません。また、運転者の安全を確保するため、運行の中止・中断等が必要と物流事業者が判断した場合は、その判断を尊重します。
トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化	<ul style="list-style-type: none">● パレットへの積付け改善や増パレット車等のトラックの大型化により輸送の生産性を高めま● 物流部門だけではなく、調達、生産、セールス部門と連携し、End to Endの物流の効率化を図ります
共同配送の推進	共同配送の展開を進め、積載率の向上、配送先の集約、配送頻度の削減等、配送の効率化に取り組めます。

VMI (Vendor Managed Inventory) 倉庫の活用

江崎グリコは、2019年10月より、物流における社会課題への取り組みとして、食品製造に必要な原料をサプライヤー各社と共同で一括管理する新たな物流体制「VMI (Vendor Managed Inventory/ベンダーによる在庫管理)」を構築しています。2019年10月より「関東VMIセンター」(埼玉県加須市)を、2022年3月より「関西VMIセンター」(兵庫県神戸市)を稼働させました。これにより、トラック走行距離が圧縮され、荷下ろし渋滞が解消されることでCO₂削減にもつながっています。VMI倉庫の活用でCO₂を年間518t、従来比で75%を削減しました。



ダブル連結トラックの共同運行開始



株式会社キューソー流通システム、NEXT Logistics Japan株式会社と2024年9月2日(月)より、ダブル連結トラックを活用し、江崎グリコの菓子と異業種の荷物の同時輸送を開始しています。ダブル連結トラックは、ドライバー1人で大型トラック2台分の輸送力を確保できるため、ドライバー不足の対策として期待されます。また、中継拠点でドライバー交替することで、ドライバーの日帰り運行が可能となり、労働環境の改善を見込んでいます。本運行により、CO₂排出量を年間約20%※削減できる見込みです。

※ NLJ 調べ (大型トラック2台で運行した場合の比較)

商品企画・販売・セールス活動における取り組み

環境に配慮した商品企画・設計、製品原料の集約化 (効率的な調達・使用)

Glicoグループでは、安全・安心な商品を提供するため、原材料をはじめとするさまざまな資源を使用しています。原材料の調達から製造、消費に至るまでの環境負荷を低減するため、開発・企画段階から環境に配慮した商品設計を行っています。「おいしさ」や「健康」にこだわり、品質を追求するための原料研究を進める一方で、効率的で無駄のない製造を行うために、原料数の集約も進めています。

インターカーボンプライシング（ICP）制度導入

江崎グリコは、Glicoグループの設備投資を対象に、インターナルカーボンプライシング（ICP）制度※を導入しています。CO₂排出量の増減を伴う設備投資計画について、設定した社内炭素価格を適用し、仮想的な費用に換算して、投資の判断基準のひとつとして運用しています。ICP制度の導入を通じて、低炭素投資や気候変動対策を推進します。

※ICP制度：社内における炭素価格を設定し、CO₂排出量を費用換算することで、排出量削減に対する経済的インセンティブを創出し、社内で気候変動への対応を促す仕組み。

■GlicoグループのICP制度

社内炭素価格 63USドル/t-CO₂（※2025年1月時点）

ICP制度対象 CO₂排出量の増減を伴う設備投資

適用方法 対象となる設備投資に伴うCO₂排出量に対し、社内炭素価格の適用により費用換算したものを、投資判断の参考とする。設備投資を行う判断基準のひとつとして、ICP制度を活用し、低炭素投資や気候変動対策を推進します。

自動販売機における取り組み

『セブentyーンアイス』や飲料・デザートは、自動販売機でも販売しています。自動販売機への真空断熱材の使用やLED照明に切り替える等して、計画的に省エネタイプに切り替えています。



省エネタイプの自動販売機

業務の効率化や見直しによる企業活動の質的向上

業務の効率化や見直しによる企業活動の質的向上が環境負荷低減につながるという考えのもと、事業活動の生産性向上やロス削減等に取り組んでいます。



オフィスにおける省エネ取り組み

オフィスで最もエネルギーを使用するのは空調設備です。電気の使用量を削減するために、クールビズ・ウォームビズを推奨し、来社されるお客様にも趣旨をご理解いただけるよう案内を行っています。施設面においては、オフィスの照明や電子機器を省エネ型に切り替え、不要時の電源オフ徹底を呼び掛けています。また、オフィスで使用するコピー用紙、名刺については全て森林認証紙を使用しています。

セールスにおけるエコドライブ取り組み

セールス部門では、業務の効率化や省エネ、エコドライブを推進しています。CO₂の排出が少ないハイブリッド車への入れ替えを進めるとともに効率的な運用にも取り組んでいます。また、グリコチャネルクリエイトでは、走行時のCO₂排出が少ない電気自動車を導入しています。

表彰・認定等

Glicoグループでは、複数の事業所所在の行政機関から環境に関する表彰や認定をいただいています。

エコレールマーク取り組み企業認定

江崎グリコは、エコレール取り組み企業として認定されています。

<エコレールマーク認定商品>



「令和3年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」において、「国土交通大臣表彰」を受賞

NEXT Logistics Japanほか15社との取り組みとして「『ドライバー不足によりモノが運べなくなる』という社会課題解決に向けた高効率輸送スキームの構築」を実現しました。同取り組みでは、異業種・業態の複数の企業が個社で便を立てて行っていた輸送を、NEXT Logistics Japanのクロスドックセンターに荷を集め、25mダブル連結トラックで束ねて輸送することで、輸送効率を向上させ、省人化や労働環境の改善を図りました。

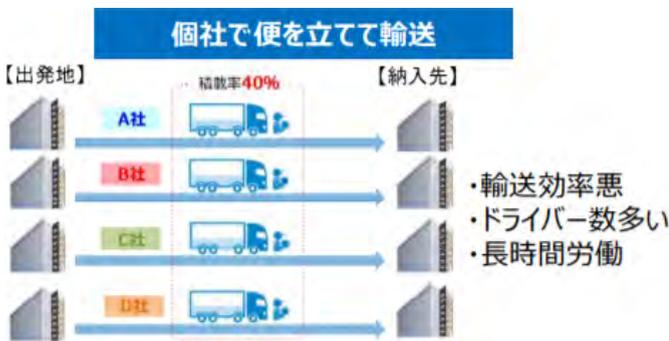
事業者

NEXT Logistics Japan (株)、アサヒグループホールディングス (株)、江崎グリコ (株)、(株)ギオン、鴻池運輸 (株)、鈴与 (株)、千代田運輸 (株)、トランコム (株)、(株)ニチレイロジグループ本社、日清食品ホールディングス (株)、日本梱包運輸倉庫 (株)、日本製紙物流 (株)、日野自動車 (株)、(株)ブリヂストン、三菱HCキャピタル (株)、(株)ユーネットランス

事業概要

事業業態を超えたパートナー各社のノウハウや、CASE技術を活用しオープンな高効率幹線輸送スキームを構築、これを物流に関わる多くの方々より活用いただくことで社会課題の解決を目指す。

実施前



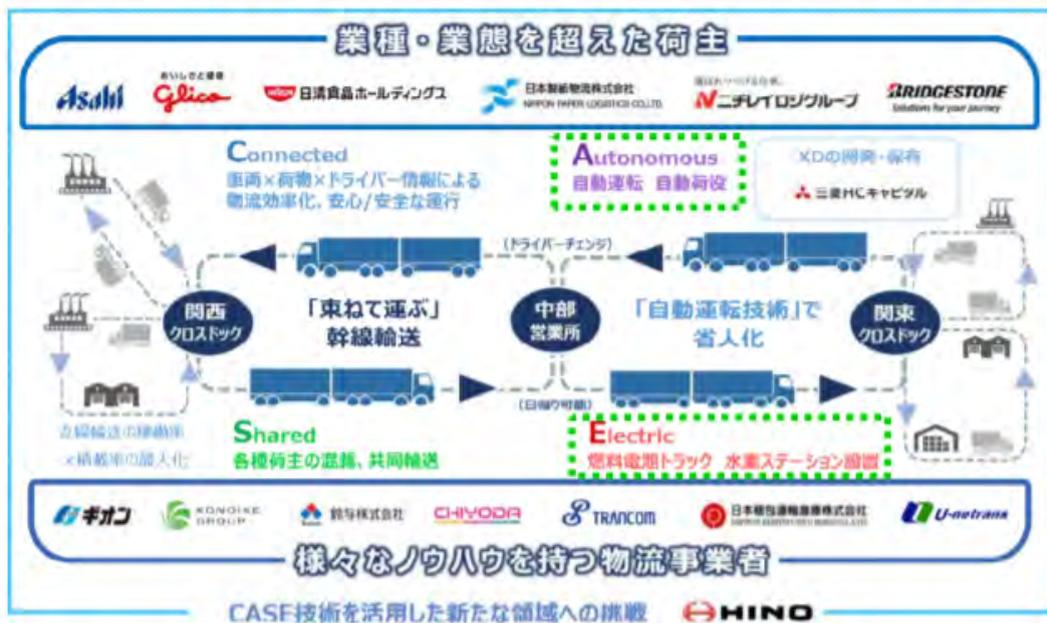
実施後



概要図

※ = 実現に向け、現在推進中の将来構想

業種業態を超えた荷主の荷物を、様々な物流事業者のノウハウを活用して輸送
幹線-支線をトータルでコントロールし、究極の省人化 / 効率化 / CO2低減を目指す



「令和4年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」において、「物流DX・標準化表彰」を受賞

チルド販売物流でのAI配車を活用した適正化モデルが「令和4年度 物流DX・標準化表彰」を受賞しました。配送車両の効率化による積載率UP、CO₂削減、労働時間の短縮を目指し、ライナロジクス社・ゼンリンデータコム社とAI配車を導入しました。物量・配送リードタイム・納品時間などの配送条件を基にAIが高積載・効率的な配送ルートを設定、納品時間の微調整を経て大幅なCO₂削減、車両台数の削減、労働時間の短縮を実現しました。

事業名: チルド販売物流における三者一体での協働効率化



～物流危機を乗り越えるAI配車を活用した適正化モデルの実現～

事業者

- 江崎グリコ株式会社
- 株式会社ゼンリンデータコム
- 鴻池運輸株式会社
- 株式会社ライナロジクス
- 株式会社誠和
- ダイセーエブリー二十四株式会社

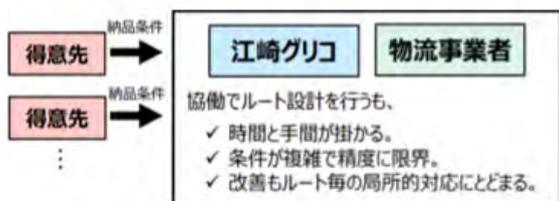
事業概要

納品条件が厳しく効率化が難しいチルド販売物流において、**配送ルート最適化設計の方法を、人間の経験と勘のみではなく、AI配車システムを導入し活用。**

得意先への納品条件の見直し、車両変更や付帯作業削減によるドライバー作業負荷の軽減を合わせて実施することにより、**AIの提示した適正モデルを参考に実運用できる状態に整備し**、CO₂削減、車両台数削減、労働時間削減、積載率向上を実現。

実施前

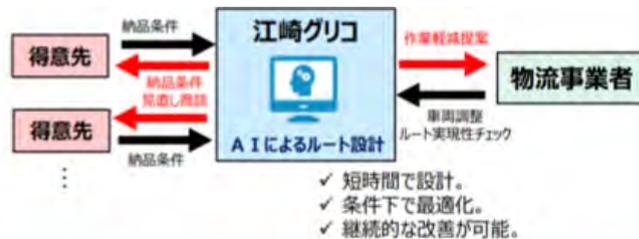
- チルド販売物流は、賞味期限・納品リードタイムが短く、納品条件が厳しい。
- 得意先毎に提示される納品条件に合わせ、**経験と勘による人力のルート設計。**



部分的ルート再編 ⇒低積載・非効率な配送	積載率 52%
	車両台数 47台/日
	労働時間 376時間/日

実施後

- AIによるルート最適化モデルを参考に、実運用できる状態に整備。
- 最適モデル実現のため、得意先と納品条件見直しを商談。



全体的ルート再編 ⇒高積載・効率的な配送	積載率 71%	+19%
	車両台数 34台/日	▲28%
	労働時間 307時間/日	▲18%

特徴

- システム導入と現場の運用改善を合わせ、関係三者一体での協働効率化実現。
- AI活用による**継続的な改善が可能**で、チルド販売物流全体に波及することで今後も大きな効果を期待できる。
- 配送車両の適正化、ドライバー作業負荷軽減を行うことで、物流事業者の労働環境改善にも寄与。

効果

- CO₂削減量：379.0t-CO₂/年（18%削減）
- 車両台数削減：4,745台/年（28%削減）
- 労働時間削減：25,185時間/年（18%削減）
- 年間積載率：71%（19%向上）

事業名:【商習慣の改革】納品リードタイム延長による拠点集約、一貫パレット輸送の実現



事業者

- 江崎グリコ株式会社
- 株式会社キューソー流通システム
- ヤマト運輸株式会社
- プレミアムウォーター株式会社

事業概要

江崎グリコ製品の納品先であるプレミアムウォーターに対し、納品リードタイムの延長を実施（D+1→D+10）。それにより在庫拠点の集約化を図り、在庫の偏在やデポ間転送のゼロ化を実現。

また納品形態をバラ積み、バラ降ろしから一貫パレット輸送に変更したことでドライバー拘束時間の削減に成功した。

実施前

全国の販売先に納品する際に6か所のDC※から納品。リードタイムはD+1で前日確定。そのため在庫を全国6か所に配置していた。

また工場からDCまではパレット輸送できていたがDC→DCやDC→納品先はバラ積み、バラ降ろしであった。

※ DC：ディストリビューションセンター

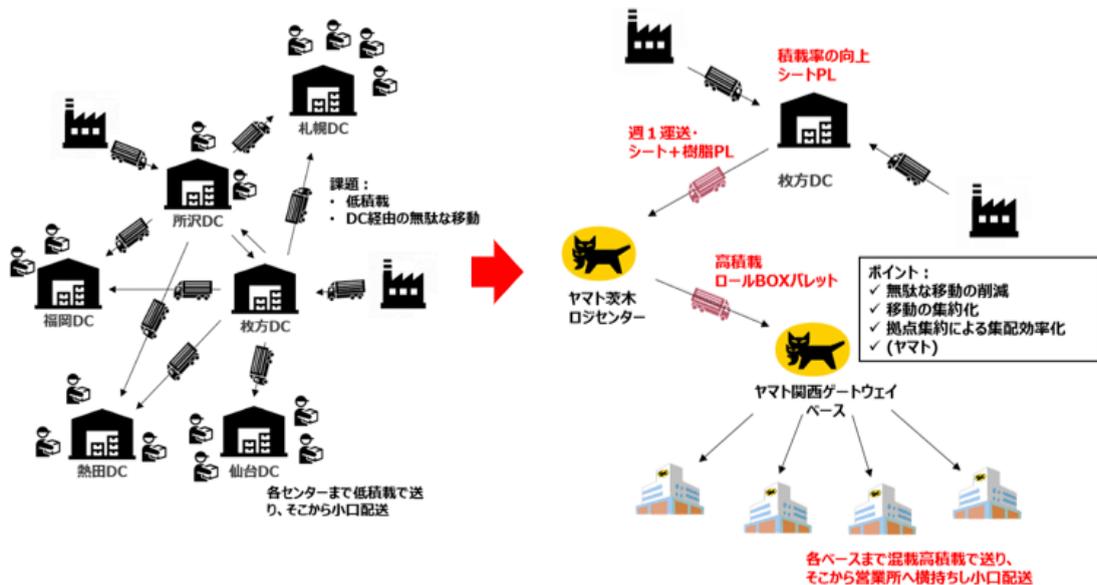
実施後

納品先をヤマト運輸茨木ロジセンターに集約。リードタイムをD+10とした。

また1か月前に予定データを江崎グリコ、キューソー、ヤマトの3社にて共有することで配送車両の確保や在庫の確保も容易になった。拠点を1か所にしたことでDC⇒DCの転送便をゼロにした。

併せてキューソー、ヤマト、プレミアムウォーターの物流をバラ積み、バラ降ろしからパレットに変更したことで荷役の効率化を図り、ドライバー拘束時間の削減に成功した。

概要図



特徴

- 着荷主の協力により納品リードタイムの延長を実現できた（D+1→D+10）。
- 在庫拠点を6か所→1か所に集約したことで拠点間転送がゼロになり、不要な幹線輸送便をゼロにすることができた。
- 納品に際し、バラ積み、バラ降ろしの商習慣をなくし、パレット納品にすることができた。
- 4社にて持続可能な物流の構築という目的に沿った四位一体となるスキームを構築した。

効果

- CO₂削減量：93.7t-CO₂/年（39%）削減
- 車両台数：1,550台（81%）削減
- 納品リードタイム：9日間延長

事業名: メーカーの垣根を超えた物流データ活用によるイノベーション



創出

事業者

- 江崎グリコ株式会社
- コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
- ハコベル株式会社

事業概要

ハコベルの紹介によりコカ・コーラ ボトラーズジャパンと江崎グリコにて情報共有を実施。荷主同士で課題と配送網を共有することで課題を補い合うパートナーシップを確立。社会課題となっているドライバーの長時間労働、重筋労働の削減を実現し、さらに空回送やトラック輸送で発生していたCO₂の削減にも成功。また、荷主間でパートナーシップを組むことにより、繁閑の物量差を相互に補完することで物流事業者と荷主間でもWIN-WINの関係を構築。

実施前

- 江崎グリコの九州エリアは100km以上離れた小ロット生産工場と大ロット生産工場を組み合わせ2カ所での積込みの運行を実施。集荷工場の製品カテゴリーが異なるため、関西と関東のDC※1も2カ所での荷下ろしが必要となっており、1台のトラックが4カ所経由するオペレーションとなっていた。
- 一方でCCBJI※2では、需要に対してトラックを確保した際に、九州エリア内での空回送便が発生することがあった。
- 山陰エリアは定期便数を季節毎に変動する形で車両手配を依頼しており安定した輸送力の確保に両社で課題を感じていた。

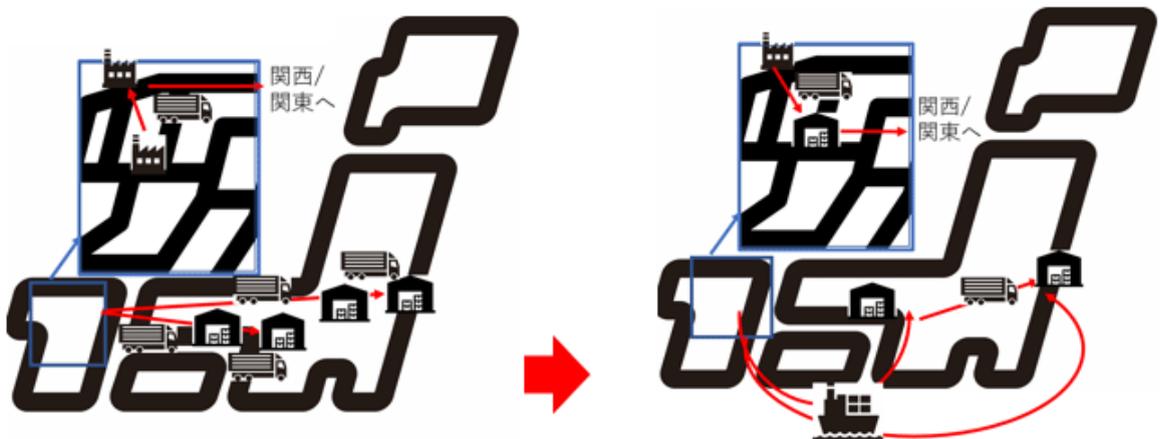
※1 DC：ディストリビューションセンター

※2 CCBJI：コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社の略称

実施後

- CCBJIの空回送便を活用して小ロット生産工場からの製品を鳥栖の物流拠点に配送。鳥栖の物流拠点から船舶を活用して関西、関東の物流拠点への共同輸送を実施した。
- 山陰エリアでは鳥取から関西向けに江崎グリコの繁忙期は10-3月の時期で使用していた便をCCBJIの繁忙期4-9月で活用することで、物流事業者は年間で安定した荷物を確保、荷主は年間で安定した輸送力の確保を実現した。

概要図



- 小ロットのため九州内で同一トラックが2工場集荷
- 集荷工場の製品カテゴリーが異なるため関西エリア、関東エリアそれぞれ2倉庫に配送

- 九州内でCCBJI空回送便にて集荷
- 鳥栖の物流拠点から乗務員交代し、関西行、関東行の船舶で配送



- グリコだけでは閑散期の物量がまとまらず、本数が繁忙期の1/4しか活用できない



- グリコ閑散期はCCBJI繁忙期のためCCBJIにて山陰→関東便の物量を割り振り

特徴

- 荷主間の情報共有を通じて江崎グリコの課題とCCBJIの課題を相互補完する形で輸送スキームを確立。
- 九州発便は既存の複数カ所立ち寄るトラック輸送から空回送便と船舶の活用によりCO₂削減に貢献。
- 繁忙期と閑散期の物量差の影響で確保が難しかった荷主の繁忙期の輸送力と物流事業者の閑散期の物量を荷主の相互情報交換により確保が実現。

効果

- CO₂削減量：138.5t-CO₂/年（77%）削減
- 空回送車両活用：100台
- パレット化
- 労働環境改善

地球温暖化対策の推進に優れた「トップレベル事業所」として認定

埼玉県では、目標設定型排出量取引制度の対象事業所のうち、地球温暖化対策の推進の程度が特に優れた事業所を「優良大規模事業所（トップレベル事業所等）」として認定しています。

GMJ北本工場は、従来工場に比べてCO₂排出量を25%削減する設計で建設された工場です。主要商品として『Pocky』と『プリッツ』を製造しています。今回、熱源ポンプ及びエアコンプレッサーの高効率化及び井水熱を利用した中温冷水利用システムの導入により電力使用量を削減したことが評価され、平成29年度に「トップレベル事業所」として認定されて以降、令和4年度に更新認定されました。



表彰式の様子

公益社団法人 国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付

江崎グリコでは、エコパウチを使用したガムの販売代金の一部から公益社団法人 国土緑化推進機構の「緑の募金」に寄付をしています。東京都の2050年CO₂排出実質ゼロを目指す「ゼロエミッション東京」の取り組みに賛同し、CO₂削減クレジット10,836tを東京都に寄付しました。（2020年1月）



エコパウチを使用したガム
『POs-Ca（ポスカ）』

2.持続可能な水資源の活用

Glicoグループ環境ビジョン2050中長期環境定量目標

持続可能な
水資源の活用



2030年度目標

-10%原単位
(使用水t/生産重量)

2050年度目標

-20%原単位
+水質汚染ゼロ化

数値はいずれも対2013年比

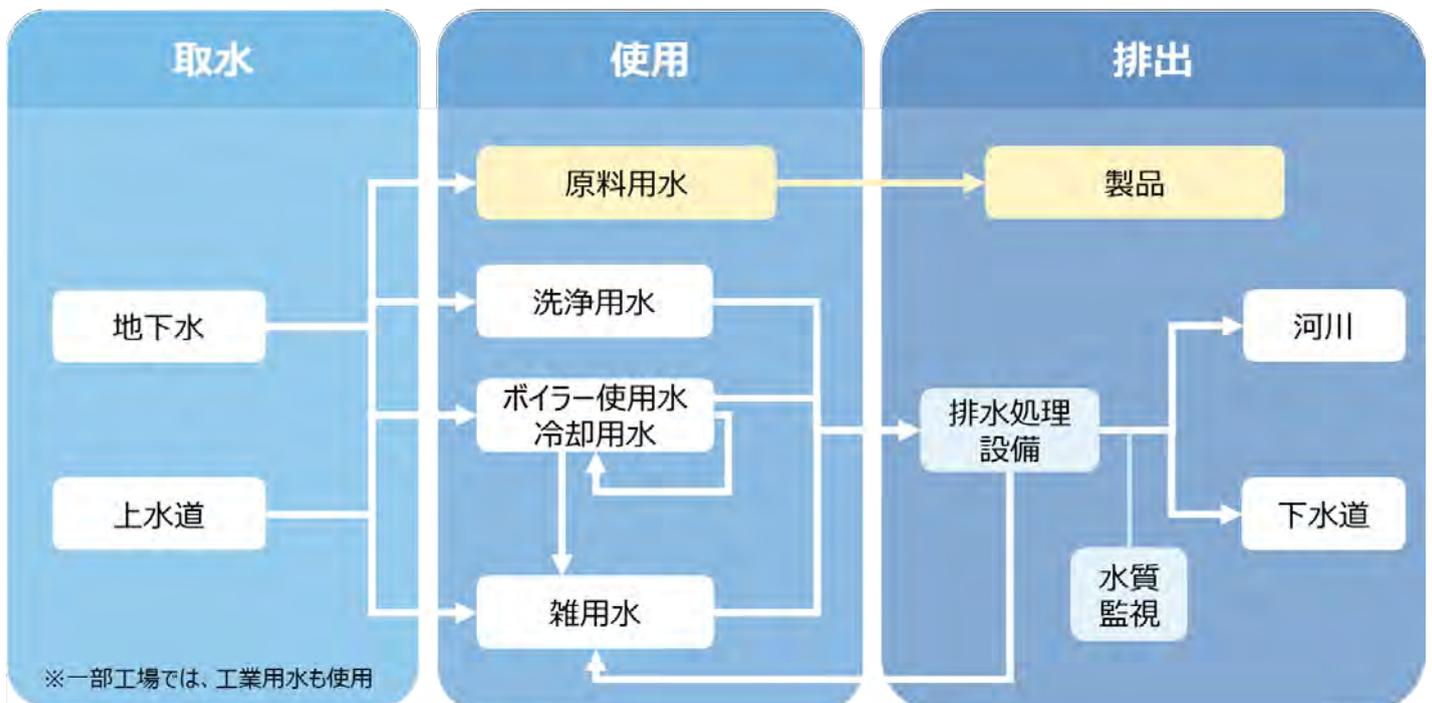
環境ビジョン2050進捗（グローバル）

2 持続可能な 水資源の活用	水使用量原単位 (生産重量あたりの使 用量)の削減率	基準年 2013年	実績				目標	
			2021年	2022年	2023年	2024年	2030年	2050年
			-3.0%	-0.3%	2.2%	8.3%	-10%	-20%

2024年度、基幹システム障害トラブルに伴うチルド製品の出荷停止や生産数量の低下により、原単位となる生産重量が大幅に減少しましたが、一方でチルド製品の生産には殺菌冷却や洗浄工程などの品質面で生産数に関わらず必要な水使用量が多いため、2013年比原単位+8.3%という結果になりました。

2050年までに、空冷式システムの採用や水処理技術の向上等を通じ、水の使用量原単位を20%削減および水質汚染ゼロ化を目指します。

取水量・排水量実績



取水量

		単位	2021年	2022年	2023年	2024年
取水量合計	グローバル	千m ³	2,821	2,773	2,768	2,390
地下水		千m ³	2,118	2,132	1,983	1,654
上水		千m ³	438	397	478	462
工業用水		千m ³	265	244	307	274
取水量合計	日本	千m ³	2,590	2,571	2,512	2,150
地下水		千m ³	2,118	2,132	1,983	1,654
上水		千m ³	208	199	283	259
工業用水		千m ³	265	240	247	237

排水量

		単位	2021年	2022年	2023年	2024年
排水量合計	グローバル	千m ³	2,203	2,156	2,109	1,887
河川放流		千m ³	1,493	1,459	1,441	1,266
下水道		千m ³	710	696	668	621
排水量合計	日本	千m ³	2,011	1,986	1,904	1,691
河川放流		千m ³	1,488	1,452	1,434	1,258
下水道		千m ³	523	534	471	433

※原料水としての使用を除く

製造工場における水使用量削減の取り組み

Glicoグループの生産工場では、大地の恵みである地下水や、公共の上水道などを利用して生産活動を行っています。日々の生産活動においては、水の3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進し、生産活動により発生する排水は、排水処理設備にて浄化し、放流先の水質基準を満たしたうえで、河川や下水道に放流しています。持続可能な水資源の活用に向けて、節水や品質に関する従業員の意識向上も徹底しながら取り組んでいます。

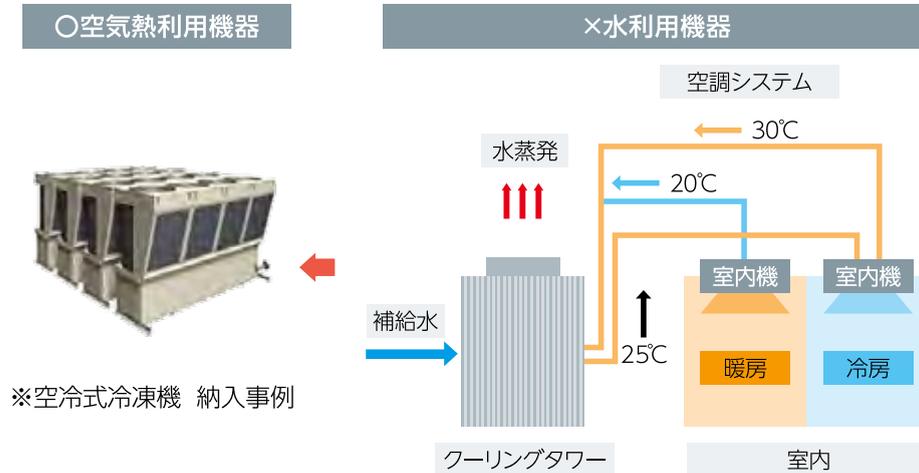
恒常的な水の3R取り組み

- 配管内の洗浄方法を見直すことで、品質面を確認しながら洗浄水の使用削減を行っています。
- 水冷式空調設備の運転管理を見直し、節水と省エネに努めています。
- 殺菌用の熱水やドレン水（結露水）を可能な限り回収して再利用しています。
- 節水機能の高い設備への切り替え導入を計画的に行っています。

設備導入等による水使用量の削減

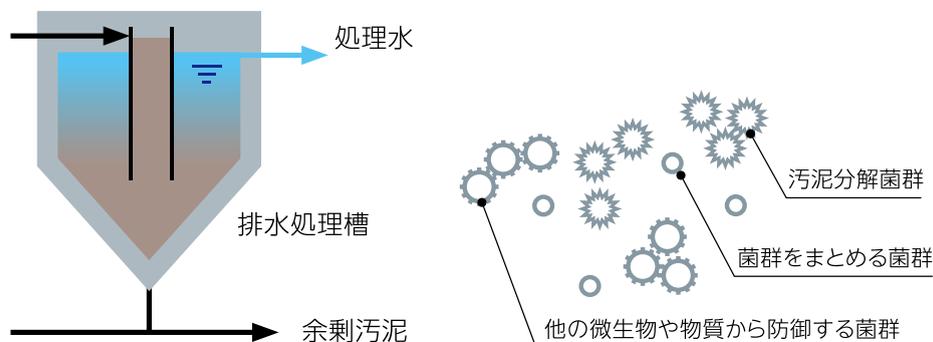
冷却水使用の管理精度の向上

生産工程では、冷却水使用量の管理精度を向上させることで水使用を削減しています。水による冷却を必要とするシステムを搭載した空調機器は、クーリングタワーと呼ばれる設備で気化熱を利用し熱交換を行うため、供給した水が蒸発してしまいます。菓子工場では、上水使用量の約半分がクーリングタワーの補給水です。そこで2020年度より、工場での空調機器の選定時には、水による冷却を必要としない「高効率空冷式冷凍機」の採用を推奨し、設備投資計画での老朽化更新や新設時には空冷式を積極的に採用しています。



排水処理技術の向上

工場で発生した污水は各工場の排水処理場で放流基準値まで浄化し放流しています。工場では好気性微生物を利用した活性汚泥法を用いて水中の有機物を処理しているため、余剰汚泥が産業廃棄物として発生します（約3,000t/年）。2020年度より、高度な水処理技術を研究し導入することで、排水処理時の産業廃棄物である汚泥の発生抑制および排水処理能力向上につなげています。また、2021年度より各工場への展開を進めています。



排水処理設備の自動運転化

那須工場では、排水処理設備に水量や水質を常時監視できるよう独自でセンサーを設置し、状況に応じた流量や曝気量などを自動で制御できるプログラムを導入することにより、従来の手動操作による運用管理から、自動運転に切り替えました。これにより、さらに安定的な排水管理ができるようになりました。今後は他の工場への展開も検討しています。

3.持続可能な容器包装資源の活用

Glicoグループ環境ビジョン2050中長期環境定量目標



環境ビジョン2050進捗 (グローバル)

3 持続可能な容器包装資源の活用	1WAYプラスチック使用量原単位 (対象製品売上高あたりの1WAYプラスチック購入量(t))の削減率	基準年	実績			目標	
		2017年	2022年	2023年	2024年	2024年	2030年
			-9.9%	-16.6%	-19.2%	-25%	-25%

1WAYプラスチックは、2024年度までに-25%削減を目標として取り組みましたが、結果として-19.2%の削減にとどまりました。これは、原材料の高騰によりバイオマスプラスチック包材の採用が困難になったこと等が主な要因と考えています。2025年度以降も-25%削減を目標に取り組んでいきます。

3 持続可能な容器包装資源の活用	森林認証紙使用率	基準年	実績				目標	
		2017年	2021年	2022年	2023年	2024年	2030年	2050年
			50%	67%	99%	100%	100%	100%

2024年末時点で全ての紙器包材（段ボール含む）で、森林認証紙への切り替えを完了しました。

考え方

環境に配慮した商品・企画設計、包装材料の調達

Glicoグループでは、安全・安心な商品を提供するため、原材料をはじめとするさまざまな資源を使用しています。原材料の調達から製造、消費に至るまでの環境負荷を低減するため、開発・企画段階から環境に配慮した商品設計を行っています。環境配慮された原材料の調達を進めるとともに、原材料が納入される際の梱包材についても環境配慮されたものを使用しています。また、環境配慮型プラスチックや紙、インクの採用も進めています。お客様が容器・包装を捨てる際に分別しやすいよう、商品には包装材料の種類やリサイクルマークを表示しています。また、箱型商品については、小さくするための加工を行い、家庭から排出されるゴミの体積を減らす工夫を行っています。

プラスチック使用量削減取り組み

WWFジャパン「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025」に参画

江崎グリコは、2023年6月から、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(以下、WWFジャパン)が掲げる「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ 2025」に参画しています。容器包装や使い捨てプラスチックによる海洋を含む環境汚染と気候変動の課題に対し、持続可能な社会の実現を目指します。



「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ 2025」は、WWFジャパンが「サーキュラー・エコノミー（循環型経済）」の実現に向け、プラスチックの削減と再利用を推進するために2022年2月に発足した枠組みで、プラスチックによる海洋を含む環境汚染をなくし、気候変動への影響を抑えることを狙いとしています。参画企業は2025年までに5つの取り組みを約束します。

1. 問題のあるもの、および、必ずしも必要のないものの使用を取り止める。さらに環境負荷低減に向けて削減目標を設定した上で取り組む。代替素材への切り替えの際はその持続可能性を十分考慮する
2. 可能な限り、リユース（他の素材のリユースを含む）へと切り替える
3. 可能な限り、リユース、リサイクル可能なデザインとする
4. リサイクル素材の意欲的な使用目標を設定する
5. リユース、リサイクル率を向上させるためにステークホルダーと協力する

容器包装の減量化、環境対応型包材の導入

品質向上を目指し、容器・包装の機能を追求するとともに、減量化による環境負荷の低減にも取り組んでいます。

<トレー>

2018年より『アーモンドピーク』や『神戸ローストショコラ』のプラスチックトレーの軽量化に取り組み、従来比年間約4tを削減しています。



軽量化したプラスチックトレー

<外包装>

『リベラ』の外包装プラスチック削減に取り組み、2024年8月より旧製品から3%削減しています。



『リベラ』

2022年より『Pocky<8袋>』や『プリッツ<8袋>』の外包装の薄化に取り組み、従来比年間約42tを削減しています。



『Pocky<8袋>』 『プリッツ<8袋>』

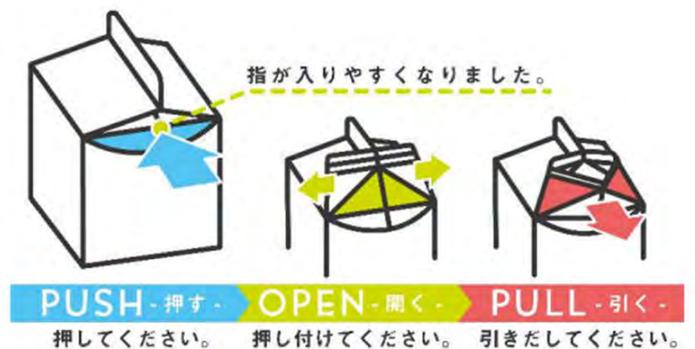
<ストロー>

石油系樹脂を原料としたストローから植物由来原料を5%配合したストローに変更したり、ストローを廃止し直接飲みやすい容器に変更したりして、環境対応型包材の導入を進めています。2022年からは、すべてのストローにおいて、植物由来素材を5%以上使用したストローを採用しています。



植物由来原料を配合したストローを導入

江崎グリコは2022年4月から、学校給食で提供する牛乳のストローを廃止しました。ストローが無くても飲みやすく、開封しやすい紙パックに切り替えています。学校給食用牛乳のストローを廃止することで、2023年に2021年比で年間約2500万本、二酸化炭素（CO₂）の排出量に換算すると約25tの削減につながっています。また、ストローが必要な児童・生徒にも対応するため、従来通り、ストロー穴を残しています。



<シュリンクフィルム>

2021年3月より、『朝食りんごヨーグルト』のプラスチックカップ容器にラミネートしていたシュリンクフィルムを外し、容器に直接印刷する仕様に変えたことで、プラスチックの使用量を削減しています。また、2021年5月からは容器の一部原料をバイオプラスチックに置き換えています。この取り組みにより、年間約24tのプラスチック使用量削減につながる見込みです。



シュリンクフィルムを外したプラスチックカップ容器

<アイススティック>

『セブンティーンアイス』のスティックの組成の10%を、植物由来のバイオマスプラスチックに置換しています。『セブンティーンアイス』のスティックには、サトウキビから作ったポリエチレンを使用しています。



バイオマスプラスチック化

紙使用量の削減・環境配慮紙使用取り組み

森林認証紙の使用

世界的に森林破壊が問題になっており、適正に管理された森林から産出・加工された紙を使用することも企業として重要な取り組みの一つです。Glicoグループでは、FSC®※1やPEFC※2などの国際的な森林認証団体から認証された環境配慮紙の使用しており、2024年末時点で全ての紙器包材（段ボール含む）で、森林認証紙への切り替えを完了しました。



責任ある森林管理のマーク

FSC® 認証紙を利用した商品（一部）



PEFC 認証紙を利用した商品（一部）



※1 FSC®（Forest Stewardship Council®：森林管理協議会）とは、責任ある森林管理の普及を目指し、責任ある森林管理の規格を定め、国際的な森林認証制度を運営している非営利団体です。

※2 PEFC（PEFC森林認証プログラム）とは、「環境・森林を保護しつつ、同時に産業を繁栄させること」を目的に発足された森林認証システムです。

ペーパーレス・電子化

業務効率化と生産性向上、資源の有効活用を目的とし、ペーパーレス化に取り組むとともに、電子化を推進しています。オフィスでの働き方の見直しやペーパーレス取り組みを進めながら、使用する紙の削減に取り組んでいます。

その他のゼロエミッション推進

事業活動により発生した廃棄物については、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の観点でゼロエミッションを推進しています。

※焼却時に廃熱回収、あるいは焼却灰が有効利用された場合は再資源化に含みます。廃棄物リサイクル率99.5%以上をもってゼロエミッション達成としています。

分別の促進

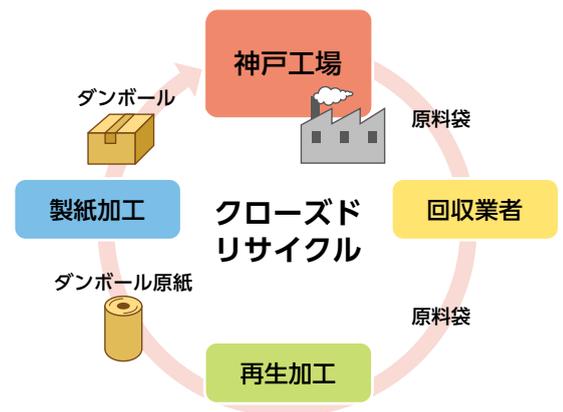
詳細な分別基準に基づく分別ステーションの設置により、「ゴミ」を捨てるという意識から、再資源化の分別をするという意識で分別を徹底しています。

梱包材の削減

工場に納入される原材料はその特性に応じてさまざまな包材で梱包されています。Glicoグループは取引先と協力して、原材料を輸送する際の容器のリユース化や過剰包装の廃止に取り組み、原材料の品質を確保しながら梱包材を削減する努力をしています。

神戸工場における包材のクローズドリサイクル

神戸工場では、従来RPF（ボイラー用固形燃料）としてリサイクルしていた「ビニール重袋」を段ボールメーカーと協力し自社製品の段ボール原紙の一部に再利用しています。また2022年1月からは工場が発生したダンボールも同様に再生処理されたものを神戸工場で使用するリサイクルループを開始しています。



4.食品廃棄物の削減

Glicoグループ環境ビジョン2050中長期環境定量目標



環境ビジョン2050進捗（グローバル）

4 食品廃棄物の削減	食品廃棄物 総廃棄量の削減率	基準年	実績				目標	
		2015年	2021年	2022年	2023年	2024年	2030年	2050年
			-94%	-88%	-83%	379%	-95%	-95%

2024年度、食品廃棄物総廃棄物の削減率は+379%と大幅に増加する結果となりました。これは2024年4月からの基幹システム更新、稼働時のトラブルに伴いチルド製品が販売休止となった際に、使用できなかった原料や製品の廃棄量が大幅に増加し、適切に食品リサイクルできなかったためです。今回の結果を教訓として、今後も引き続き2030年の95%削減に向けて、食品廃棄物の削減や発生抑制に努めていきます。サプライチェーンの効率化や需給予測精度の向上、トラブルの防止等、廃棄が発生しない取り組みに注力するほか、商品の微細な欠け等、品質に問題がない商品をふぞろい品としてアウトレット販売や、飼料や肥料へのリサイクル、メタンガス発酵によるバイオマス発電など循環再資源化の取り組みを行うことにより、2050年までに食品廃棄物を95%削減することを目指します。

考え方

フードロスとフードウェイスト

Glicoでは食品廃棄物を、工場などの生産設備から生じる「フードロス」と、製品の売れ残りや食べ残しから出る「フードウェイスト」の2つに分けて、それぞれ削減に向けた取り組みをしています。

フードロス削減策として、例えば新商品の量産に向けて生産設備を立ち上げる際のロスを減らすなど、まずは廃棄を減らすことに優先的に取り組んでいます。また、全工場をあげてリサイクルレベルの質的向上に取り組んでおり、これまで熱源としてリサイクル（サーマルリサイクル＝廃棄物を焼却する際の熱エネルギーを利用するリサイクル）していたものを食品リサイクルとして炭化処理やメタンガス発酵により再利用するほか、肥料や家畜の飼料として再利用しています。

一方、フードウェイスト削減については、製品の売れ残りが出ないように需給業務の精度向上に努めているほか、製法や包材を工夫して賞味期限の延長を実現することによって、廃棄される商品を減らす取り組みを行っています。さらに、家庭から出る食品廃棄物（生ごみ）を社員が自らコンポストを活用して堆肥化するプログラムを実施するなど、循環社会の実現に向けて取り組んでいます。

フードロス削減取り組み

ふぞろい品の販売



Glicoグループでは、工場での製造過程で、出荷良品基準を満たさなかった部分については、飼料や堆肥にリサイクルしたり、溶かして製品原料として再利用したりするなどして、フードロス削減に取り組んでいます。さらに、風味などの基本的な品質は満たしているものの、形状に欠けや割れ、折れがあるなどの規格外商品を「ふぞろい品」としてアウトレット販売しています。

※販売場所・時期については不定です。

製造工場における取り組み

Glicoグループでは従来から、工場における「ゼロエミッション（生産活動から出る廃棄物のうち最終埋め立て処分にする量をゼロにすること）」を目標に取り組んでいます。日本の食品リサイクル法で食品製造業のリサイクル率目標は現在95%と定められていますが、Glicoグループの国内工場の平均リサイクル率は、2013年以降95%達成を継続しています。工場はロスの発生抑制が最優先ですが、発生した食品廃棄物についてはその性質を考慮しながら適切なりサイクル方法を検討し、飼料・堆肥等の原材料としての利用や、メタン発酵によるガスや発電エネルギーの利用等、さまざまな形で循環資源として活用されています。



神戸工場 食品リサイクル・ループ

神戸工場では、工場から出る廃棄物を活かして新たな資源や食品を生み出し、それを再びGlicoが活用する「食品リサイクル・ループ」取り組みを定期的に行い、従業員の廃棄物対策への意識向上につなげています。

神戸工場で廃棄となったビスコを工場内で粉砕し、豚のエサとして飼料会社に提供しています。その飼料を食べて育った豚の一部を私たちが買い付け、神戸工場の従業員向け食堂や隣接する保育園「こどもびあ」の給食メニューとして出しています。また、廃棄物として発生したカカオの皮を肥料化し、「こどもびあ」園内で子どもたちが育てている家庭菜園で使用し、採れた野菜を保育園の昼食で提供しています。こうした取り組みが評価され、2020年には第14回キッズデザイン賞を受賞しました。



飼料化した廃棄ビスコを食べて育った豚肉のメニュー（左）・隣接保育園「こどもびあ」で採れた野菜（右）

フードバンクへの寄贈

食品メーカーとして、廃棄される食品を削減するため、製造工程で発生する廃棄物の削減に注力する等の取り組みの他、フードバンクへの商品寄贈を行っています。

2024年度は連携するフードバンクを増加しました。今後もさらに食品ロス削減に取り組んでいきます。

フードウェイスト削減取り組み

賞味期限の延長と年月表示化

賞味期限とは、おいしく食べられる期限のことを表します。この期限を過ぎたらすぐに食べられなくなるというものではありません。Glicoグループでは製造管理、品質管理を徹底し、賞味期限を設定しています。

賞味期限が長い商品については、品質劣化のスピードが遅く、消費段階で日付管理をする意味が乏しいと考えられるため、日付で表示してきた賞味期限を年月表示に切り替えることに、Glicoグループは早くから取り組んできました。商品グループごとに賞味期限を設定し、菓子・食品カテゴリーのほぼすべての商品について、年月表示へ切り替えました。この取り組みは、食品ロス削減だけでなく、商品配送時・管理時の業務効率化にもつながっています。



カレー商品の賞味期限表示

Glicoの保存食「賞味期限お知らせシステム」

Glicoの保存食（ビスコ保存缶、カレー職人）の賞味期限が切れる前にメールでお知らせするサービスを提供しています。いざという時に必要な保存食を、賞味期限が切れる前に消費していただくよう促します。



セールスにおけるリサイクル促進

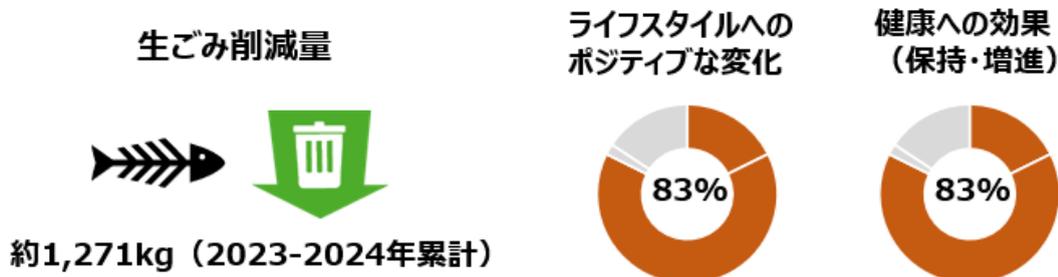
江崎グリコセールス部門で発生する廃棄商品については、2002年度から再資源化に取り組み、飼料や肥料へのリサイクルを進めています。

コンポストで生ごみから堆肥づくり「食の循環」を社員が実践

食品廃棄物削減と「食の循環」を社員が自ら体感するプログラムを2023年より実施しています。



コンポストを活用し自宅で食品廃棄物（生ごみ）から堆肥をつくる→その堆肥を地域の農家と連携し使用いただく→育てていただいた農作物を社員が収穫に行く→自宅で料理に使いた生ごみをコンポストへ、といったプログラムに2023年からの2年間で100名の社員が参加しました。プログラムを通じて生ごみを約1,271kg削減するとともに、参加者の80%以上がライフスタイルへのポジティブな変化や健康への効果（保持・増進）を感じる結果となりました。



参加者からは「自分で作った堆肥を栄養に、野菜が育っているのを見て感動した」「五感をフルに使って自然と触れ合う経験が子どもたちの心のゆたかさに寄与していると感じた」「生ごみは、焼却される廃棄物ではなく、資源になりうるものであることに気づかされた」といった声が寄せられました。今後も社員が自ら体感することで、事業への理解深耕と行動につながるプログラムを目指していきます。

食品ロス削減啓発コミュニケーション

食品ロス削減をテーマにしたレシピ募集

「レシピクラブ」は、「美味しく、健康に。毎日を彩るゆたかな食事」をコンセプトに、Glico商品を活用したレシピをWEB上で掲載している人気コンテンツです。「食品ロス対策」レシピも多数掲載しており、継続して食品ロス削減を実践していただく機会を提供しています。



食品ロス削減を学ぶイベント「WITH GLICO もったいない広場」を開催



Glicoの会員制コミュニティサイト「with Glico（ウイズグリコ）」において、「食品ロスの削減」についてより多くの方に興味を持っていただくため、2日間にわたり、おいしく、楽しく、食品ロス削減に関して学ぶことができるイベント「with Glico もったいない広場」を開催しました。イベントでは、味や安全性に問題がないものの、形が不揃いであったり小さな傷があったりするために一般流通しない「規格外野菜」を具材とした「ふぞろい野菜のカレー」を数量限定にてご提供したほか、食品ロスの現状やGlicoグループの食品廃棄物削減に関する取り組みをご紹介したパネル展示を行いました。今後もGlicoグループでは消費者の方にも楽しく食品廃棄物削減に取り組んでいただけるような活動を目指していきます。



国連WFP協会「#ごちそうさまチャレンジ」協賛

国連WFP協会「#ごちそうさまチャレンジ」は、「食品ロス」と「飢餓」という2つの食料問題への関心を促し、さらに食品ロス削減の取り組みを通じて「寄付」ができるSNSキャンペーンです。ごちそうさまポーズや食品ロス削減の取り組みを指定ハッシュタグ「#ごちそうさまチャレンジで飢餓をなくそう」を付けてSNS（X、Instagram、Facebook）に投稿し拡散する取り組みで、2024年は155,404件の寄付対象アクションが集まり、21万人に学校給食を届けられることとなりました。（国連WFP協会）Glicoグループはこの取り組みに賛同し、協賛しています。

社会とともに

事業を通じて、笑顔あふれる社会の実現に貢献します。



【品質保証】品質への想い・こだわり

Glicoグループの「品質」へのこだわりは、原料調達から生産・流通を通じて製品がお客様に届くまで一貫して安全・安心を保証すること、またお客様満足を意識した製品やサービスの品質向上を日々行うことにあります。

そのためには、私たち従業員一人ひとりが高い問題意識を持ち、自発的に日々の改善に努め、そしてそれを継続することが重要であり、品質方針である『品質最優先』の具現化を愚直に行っていくことでGlico品質を実現していきます。

Glicoグループ品質方針

Glicoグループでは、世界中のお客様により安全で安心できる商品・サービスをお届けするうえで、グループの姿勢を明確にし、活動の指針とするため品質方針を定めています。全社員のみならず、お客様や取引先をはじめとする全てのステークホルダーのご理解とご協力をいただきながら、活動を推進しています。

私たちは、より安全で安心いただける商品・サービスを、世界中のお客様にお届けすることをお約束します。

1. お客様満足の向上

- お客様の声に真摯に耳を傾け、誠実に対応し、品質とお客様満足の向上を継続的に推進します。

2. 安全・安心

- 原材料の調達から販売までの全ての活動において、品質最優先で取り組み、安全でお客様に安心いただける商品・サービスを提供します。

3. 法令遵守

- 商品・サービスに関連する全ての法令を遵守します。

4. 情報開示

- お客様の立場に立って、正確な情報を誠実に分かりやすくお届けし、信頼いただけるよう努めます。

5. 継続的な改善

- グローバルな品質・食品安全マネジメントシステムの考え方にに基づき商品の安全を確保し、より良い品質を追求し続けます。

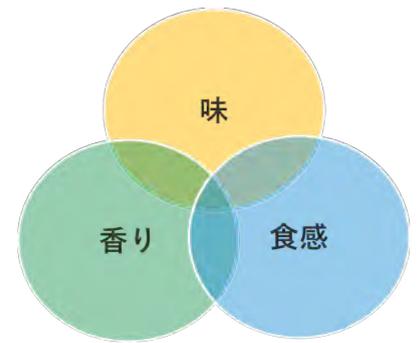
以上の項目をGlicoグループの全従業員が理解し、実行します。

制定 2020年9月

改訂 2023年1月

「おいしさ」を保証するために

今日Glico商品を召し上がったお客様が感じられた「おいしさ」、そしてこれからGlicoが発売する商品の「おいしさ」を向上させるために、商品設計部門、製造部門など全てのバリューチェーンにてお客様の声に耳を傾け、さらなる品質改良・向上につなげてまいります。また、江崎グリコのグループ品質保証部では、商品の味、香り、食感などの要素をさまざまな分析装置を用いて科学的に分析しています。これらの要素はお客様が「おいしさ」や「品質」を感じる重要なポイントであり、江崎グリコとお客様をつなぐ信頼の架け橋となります。「おいしさ」を感じるときの笑顔、そして「品質」を感じるときの安心感。その瞬間をお届けするために、私たちは分析技術の開発と向上に取り組み、常に進化し続けています。



味・香り・食感が重なり合い、お客様が笑顔になる「おいしさ」と確かな「品質」を生み出します

おいしさ品質の見える化・数値化

味の評価

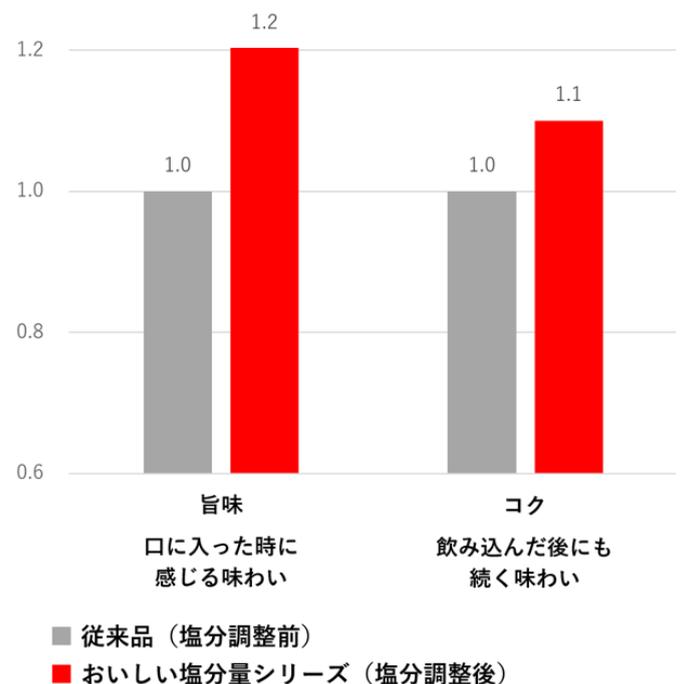
味を構成する物質は何千種類と存在し、ヒトはそれらを複数同時に感じとって「おいしさ」を評価しています。私たちはヒトの舌と同様に、さまざまな味物質を「味」として感じる事ができる味覚センサー装置を使って幅広い食品を測定しています。分析装置を使って味を数値化することで、客観的な評価を可能にし、お客様に「おいしさ」をわかりやすく伝えています。



味覚センサーを用いて「カレーZEPPIN中辛」の旨味とコクを評価しました

Glicoグループでは、WHO（世界保健機関）が推奨する「1日5g未満※」をベースに、食塩相当量「1食1.5g以下」を目指して様々なシリーズを開発しています。「カレーZEPPIN 中辛」は、本格的なおいしさそのままに、肉と野菜を丁寧に煮込んだブイヨンの風味を活かすことで、おいしく塩分を調整しています。塩分調整をしても、旨味やコクが強くなっていることを味覚センサー装置で示しています。

※成人の塩分摂取量 1日5g未満



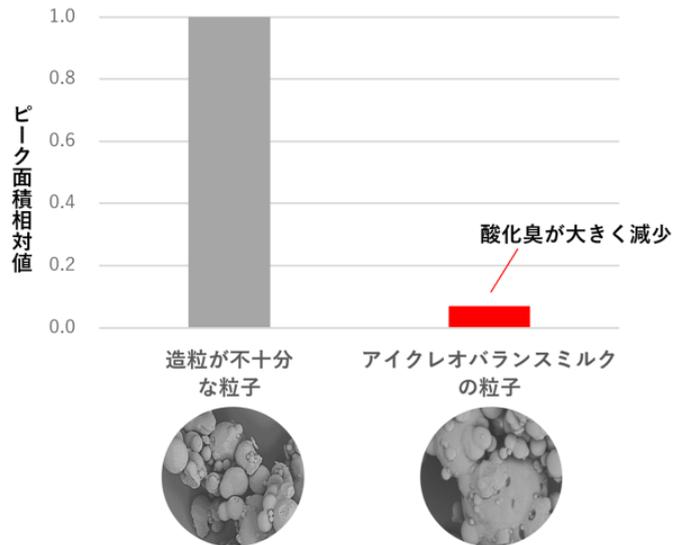
香りの評価

食品の香りはおいしさを決める重要な要素の1つです。私たちは、食品のさまざまな香りをガスクロマトグラフ質量分析計 (GC/MS) という分析装置を用いて測定しています。香りの観点から、素材本来のおいしさや保存中の香りの変化を客観的に評価することで製品開発や品質向上に役立てています。



ガスクロマトグラフ質量分析計を用いて「アイクレオバランスミルク」の酸化臭を評価しました

「アイクレオバランスミルク」は、粉の溶けやすさを追求しています。また、粒子構造の表面積を小さくすることで、酸化臭の発生を抑制しています。この装置を用いて、造粒が不十分な粉ミルクとアイクレオバランスミルクの酸化臭を比較し、酸化臭の発生が抑制されていることを確認しました。



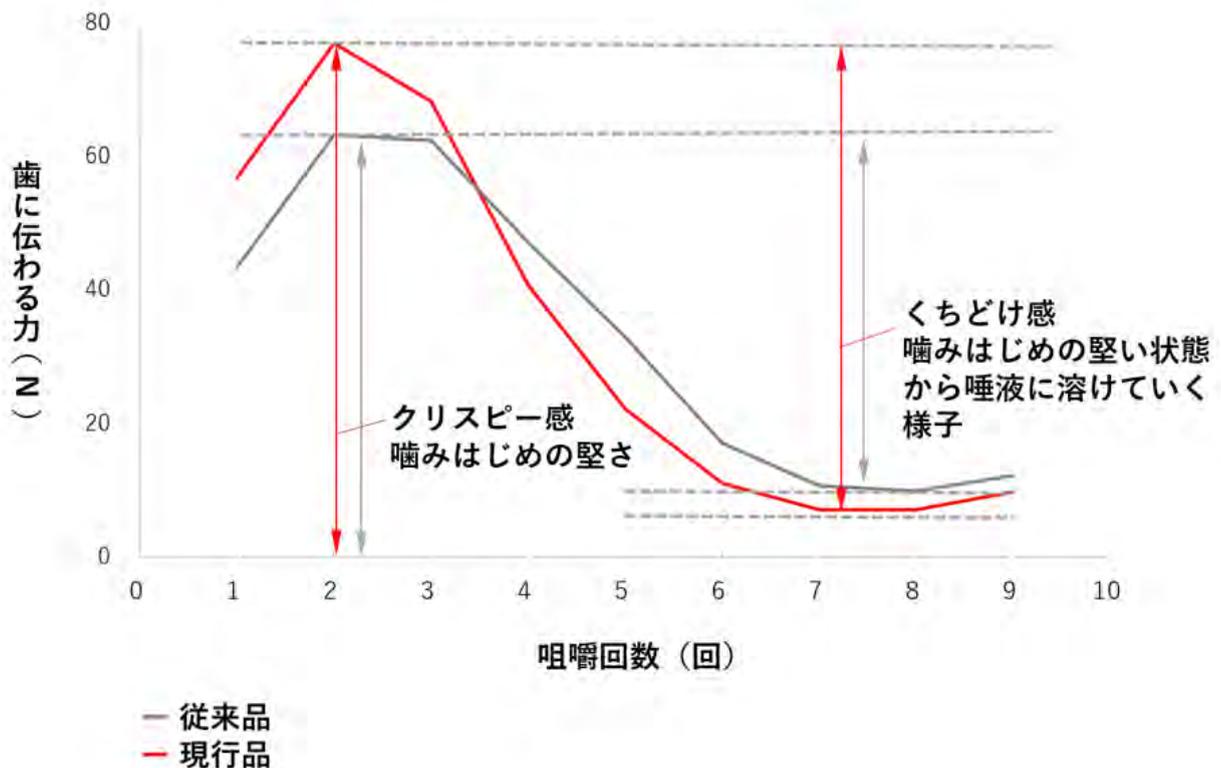
食感の評価

食品のおいしさは、味や香りだけでなく、食感も重要な要素です。商品のキャッチコピーには「クリスピー感」や「くちどけ感」といった多様な食感表現が使われています。ただし、ヒトの感覚に基づく表現だけでは主観的になりがちです。そのため、私たちはテクスチャーアナライザーなどの機器を使用して、食感を数値化することで客観的な評価をおこなっています。



テクスチャーアナライザーを用いて「プリッツ旨サラダ」のクリスピー感とくちどけ感を評価しました

Glicoが培った“食感コントロール技術”によって、クリスピー感やくちどけ感が向上し、より心地よい食感に進化したことを示しました。



【品質保証】安全・安心への取り組み

お客様に安全で安心な品質の商品をお届けする為に、法令等を遵守し、商品の設計から原材料の選定・購入、衛生的な工場での製造、温度管理された輸送・保管、販売店での鮮度管理まで、お客様が商品をお手にとられるまでの全てのステップにおいて、お客様の立場に立って、安全・安心を日々、追及してまいります。

考え方

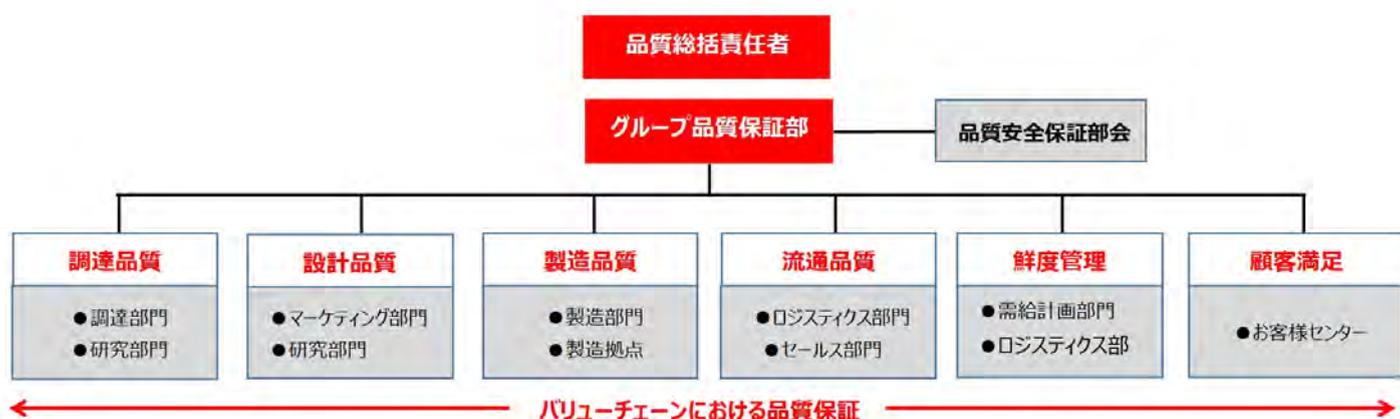
品質保証体制・取り組み

江崎グリコはお客様最優先の品質方針を基に、全社で品質向上活動に取り組んでおります。

グループ品質保証部は全社、特にバリューチェーンを担当する各部門（マーケティング部門、研究開発部門、調達部門、製造部門、ロジスティクス部門、セールス部門、グリコお客様センター）と連携し、品質保証体制の維持・向上に取り組んでいます。具体的には、以下のような取り組みを行っています。

1. 各プロセスでの品質保証に関する責任の所在を明らかにし、商品の企画開発から製造、流通、広告、販売活動を含め、お客様の手に渡るまで、全ての段階における品質保証業務が円滑に進むようにシステムの構築・改善に努めています。
2. グローバルスタンダードに合致した品質保証体制とするために、CODEX等に準拠した品質保証活動を推進しています。
3. 国内外の行政や社会の動向をキャッチし、法律や制度の改正に速やかな対応を行い食品の安全・安心に関するリスクの予測と予防的な対応を実行するために品質リスク情報管理システムを構築し運営しております。
4. 全従業員に品質最優先の文化を醸成し、実行させるためにさまざまな教育・訓練を行っています。
5. 原材料の採用、工場および倉庫の選定基準を制定し、品質監査は社内試験に合格した専門資格を有する監査員が実施しています。
6. 食品安全マネジメントシステムFSSC22000認証を製造拠点ごとに取得し、各拠点の内部監査は社内ライセンス資格を取得した有資格者が製品や製造環境による品質リスク要因を抽出し、継続的な改善を行っています。
7. お客様のご意見を商品・サービスに反映させるために、毎朝、前日までの品質に関するお客様からのお申し出内容を関係部門で確認し、品質向上に活かしています。

体制



海外拠点の品質保証

食は地域に密着したものであることから、Glicoグループでは各国の法規の順守はもちろんのこと、その国の文化やお客様の嗜好に合わせた製品をお届けすることを目指しています。しかし、食品安全や品質保証には国境はなく、Glicoグループでは日本の徹底した品質管理を全ての製品に適用して高い品質と安全性を確保しています。さらに、各国の品質担当部署と日本のグループ品質保証部が協力して、より高いレベルの品質を目指して改善を続けています。

取り組み

品質保証マネジメントシステム（Quality Assurance Management System）

江崎グリコは2020年度に「品質保証体制については、バリューチェーン全体で強化し、価値創出に取り組む」ことを決めました。これに伴い、江崎グリコはGlicoグループ品質方針を宣言し、全部門はこの品質方針を達成するために「品質価値」の創造に向けた活動を推進しています。「品質価値」の創造とは、品質トラブル再発防止活動だけでなく、おいしさ品質向上、未然防止型品質保証等を目的とした施策を計画、実行することで品質リスクの最小化を図り、お客様へ安心、安全をお届けすることで顧客満足度を高め、品質保証を「品質価値」まで高めることです。また、本社各部門は担当分野での「品質価値」に関する「品質宣言」を行い、品質価値向上活動プランを策定、実行することで品質価値の創造を実践しています。この活動は、各部門が活動内容を定期的に報告し、活動の妥当性を評価し、改善すべき課題を明確にして修正、是正を指示するPDCAサイクルの中で継続的改善を行う「品質保証マネジメントシステム（QAMS：Quality Assurance Management System）」として進めています。また、江崎グリコの品質保証全般については、毎年実施するマネジメントレビューにおいて品質保証マネジメントシステムの有効性の検証を行っています。この過程で明らかになった改善すべき課題に優先的に取り組むことでシステムを良好な状態に維持しつつ、品質価値をさらに高めることを目指しています。

品質リスク情報管理システム

Glicoグループでは、企業経営に重大な影響を及ぼす品質上のリスクを最小限に抑えるため、潜在的リスクを早期に把握し、その影響を事前に回避もしくは事後に最小化する対策を講じる未然防止型の品質保証体制の構築を目指しています。この未然防止型の品質保証体制を構築することにより、リスク（課題）が顕在化する前に「対策済み」となっている状態を目指して、①品質リスク情報を収集・特定（Risk Identification）し、②収集した情報の影響度を分析・評価（Risk Assessment）を行い、品質リスクがあると判断した場合は③リスク除去・発生防止・低減化（Risk Countermeasure）を行います。具体的には①情報が多岐・多様化している情報化社会の中で、国内外を問わず日々発信される情報の中から、Glicoグループにとって品質リスクと成り得る情報を収集します。②収集した情報がGlicoグループにとって品質リスクとなるか否かを分析（Risk Analysis）したうえで、対応の必要性を評価します。③対応が必要であると判断した場合、対策を協議し各部署が連携して対策を実行します。このサイクルを回すことによって得られた有用な情報はデータベース化することでナレッジとして蓄積し、社内の課題管理システムとして活用しています。

品質教育方針

- 品質教育は、品質文化を醸成するために、品質保証体制の基盤として実施しています。
- 品質教育は、全従業員の品質意識の向上を目的とし、継続的に実施することで「品質最優先」の意識定着を確実なものにします。
- 品質教育は、品質意識の高い人財を育成することで、「品質保証」を「品質価値」に変える製品・サービスを提供できる組織を目指します。

品質指導・監査員資格制度

Glicoグループでは、原料メーカーや包材メーカー、製造委託先の工場、物流委託先の倉庫を訪問し、品質保証体制についての監査や改善点についての指導を行っています。こうした活動が有効に機能するよう、社内資格制度を設け、資格を保有している者だけが、取引先の品質指導・監査を実施する仕組みを構築しています。この資格は、食品衛生に関する法令、Glicoグループの社内基準、FSSC22000の規格に基づく監査のチェックポイント等、必要な専門知識を習得できる学習プログラムを修了し、試験に合格した者だけに付与されるものとなっています。また、この資格には3年間の有効期間があり、更新時には再度学習プログラムの修了、試験の合格が必要となりますので、資格保有者は常に最新の知識を習得していることを要求されます。

商品取り扱い知識講座

菓子、アイスクリーム、チルド商品等Glicoグループが製造・販売する製品の 카테고리は多岐に渡ります。これらの製品の原料や製造方法をはじめ、商品特性に応じた品質管理ポイント等、セールス部門の従業員が必要とする知識を習得できるようにeラーニングシステムによる知識講座を実施しています。この講座はいつでも繰り返し学べ、セールス部門の従業員はここで学んだ知識を流通品質および鮮度管理を向上させるために活用しています。

設計品質

「設計品質」の継続的改善と「日々の製品品質」の確保

加速試験等、市場保存性を中心とするチェックを行い設計品質の継続的改善に努めています。製造段階においても、出荷前検査により設計品質通りに製造されていることを確認しています。

〈設計品質チェック項目例〉

- 風味・食感
- 外観
- 微生物
- 油脂の酸化（光・酸素）
- 温度耐性（溶け・ブルーム）
- 水分値・水分活性
- 輸送強度 等



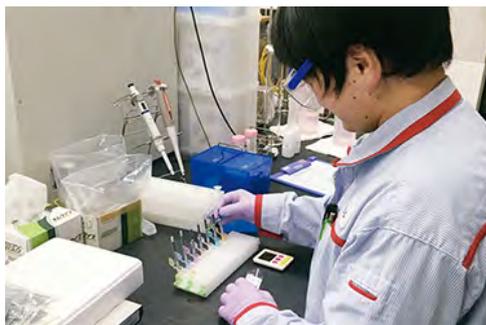
微生物検査（左）・官能検査（右）

調達品質

原材料の安全について

原材料の選定

Glicoグループ基準に合致した品質を確保できる取引先を選定し、事前に法令合致、原材料の詳細が記述された安全性を保証する「原料納入規格書」を作成し、取引先と共有することで、安全な原材料の供給が受けられる体制を整備しています。また、残留農薬、遺伝子組み換え作物、アレルギー物質等のチェックを行っています。



アレルギー検査（左）・安全性理化学検査（右）

原材料調達・納入

製造拠点単位でFSSC22000に基づき定めた食品安全マニュアルを順守しています。原材料受け入れ時には、温度、表示、外観等を厳重に確認しています。さらに、使用直前にも原材料の品質を確認の上、使用します。また、原材料には二次元バーコードを付与し、使用履歴を追跡できる仕組みを構築しています。



製造品質

製造施設・設備管理

品質基準に沿って、衛生、温度、湿度、入数過不足、包装・印刷不良等の管理や異物混入防止等に努めています。特に製造時の食品安全保証のために、海外拠点を含む全てのGlicoグループの工場※でGFSI（Global Food Safety Initiative）認証を取得し、品質価値の創造に向け、江崎グリコの製造工場は食品安全マネジメントシステムFSSC22000認証を通じて食品安全・品質保証の継続的改善に取り組んでいます。

※一部関係会社を除く

流通品質

物流事業者とともに、トレーサビリティの確保、トラブル改善、フードディフェンス等に取り組み、お客様にお届けするまでの商品の保護に努めています。倉庫での保管中も同様の手法で商品の保護に努めるとともに、適切な在庫管理により、Glicoグループ基準に合致した商品だけを市場に出荷しています。

鮮度管理

商品の鮮度管理は、セールスの重要な仕事の一つです。具体的には、日々売り場を回り、陳列状態や賞味期限の確認を行っています。また、商品を安全・安心にお店に陳列いただくために、セールス部門の従業員は商品取り扱い知識講座を通じて知識・スキルを習得しています。また、需給計画部門では販売需要予測を、ロジスティクス部門では確実に管理された製品保管・輸送を実行することにより、適切な温度で鮮度を保った管理を行っています。

顧客満足品質

品質が良いとは、「お客様が満足される商品・サービスをご提供できていること」だとGlicoグループでは考えています。お客様からお申し出いただいた声を拝聴し、お褒めの言葉だけでなく厳しいお言葉に対しては反省し、より良い商品・サービスをご提供させていただくために、全部門で共有し、改善活動を推進しております。この活動には終わりはなく、お客様のご期待にお応えできるように日々努力を重ねてまいります。

Glicoグループは、乳幼児用ミルクなどを販売しており、「Glicoグループ BMS（母乳代用品）マーケティングポリシー」に従ったマーケティング活動を推進しています。

Glicoグループ母乳代用品（BMS）マーケティングポリシー

世界保健機関（WHO）は、乳児用ミルクなどの母乳代用品の過度な広告宣伝や不適切な利用により、母乳育児が損なわれることや乳幼児の健康への悪影響を防ぐために「母乳代用品のマーケティングに関する国際規準」（以下、WHOコードという）を定めています。

私たちGlicoグループは、生後6か月間は母乳で育て、その後は適切な補完食品を母乳育児に追加して導入するというWHOの勧告を支持しています。そのため、私たちは、以下の1から6に示す指針に従い、マーケティング活動を推進してまいります。

【指針】

1. 私たちは、乳児用ミルク製品※1（以下、「対象製品」という）のマーケティングにあたり、事業を行う国・地域の法令に則るとともに、WHOコードを尊重し活動します。

※1 生後12か月頃までを対象とした製品

2. 私たちは、政府や医療機関から対象製品に関する情報提供を求められた場合、客観的な情報を提供します。

3. 私たちは、対象製品について、不特定多数に向けた販売促進活動は行いません。

4. 私たちは、医療機関、社会福祉機関や災害時支援機関等から要請があったときには協力します。

5. 私たちは、対象製品に母乳育児の優位性を表示すると共に、対象製品の安全かつ適切な使用に必要な情報を表示します。また、対象製品の利用を理想化する絵や文章は用いません。

6. 私たちは、本指針の遵守をはかるため、役職員に対し教育を実施するとともに、パートナー企業に対し本指針を尊重するよう求めます。

※本指針において「役職員」とは、Glicoグループ会社のすべての役員（取締役、監査役、執行役員等を含む）および従業員（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト従業員を含む）を意味します。

制定 2023年12月

お客様満足のために

お客様視点の課題解決

乳児用ミルクをはじめ、乳幼児や児童も対象としたさまざまな商品を販売しています。このため、品質に対するお客様の要求はハイレベルです。お客様センターでは、お客様に寄り添い、共感して、困りごとを全力で解決することを何よりも大切にしています。

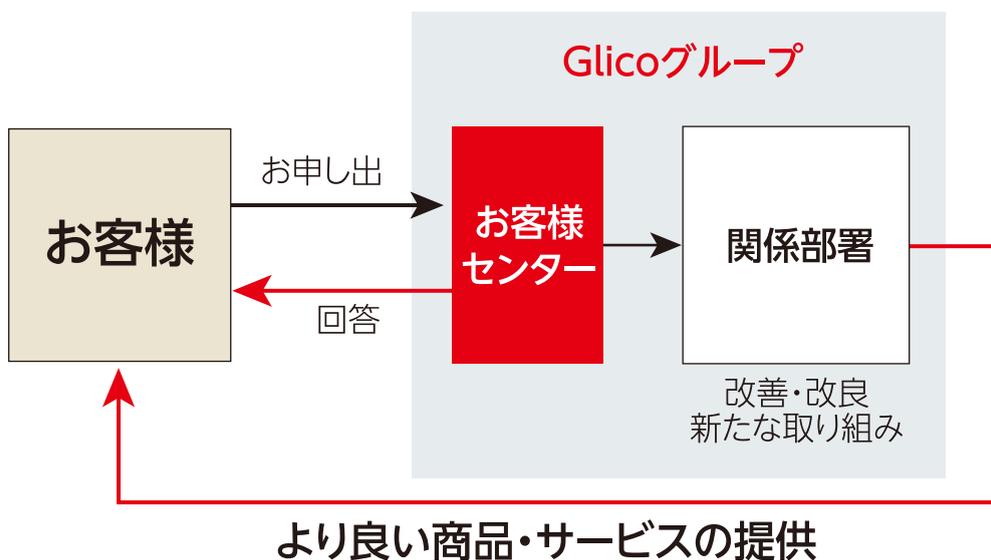
お客様センター

年間約3万件の電話やメール、手紙でのお申し出をいただいています。ご相談には迅速・丁寧かつ誠意をもって対応し、正確な情報を提供しています。

商品・サービスの改善・改良

お客様からいただいたお申し出を社内で共有し、商品・サービスの改善・改良に活かしています。また、お客様の声がかきかけとなって新たな取り組みも生まれています。

<お客様の声の活用>



自主回収件数

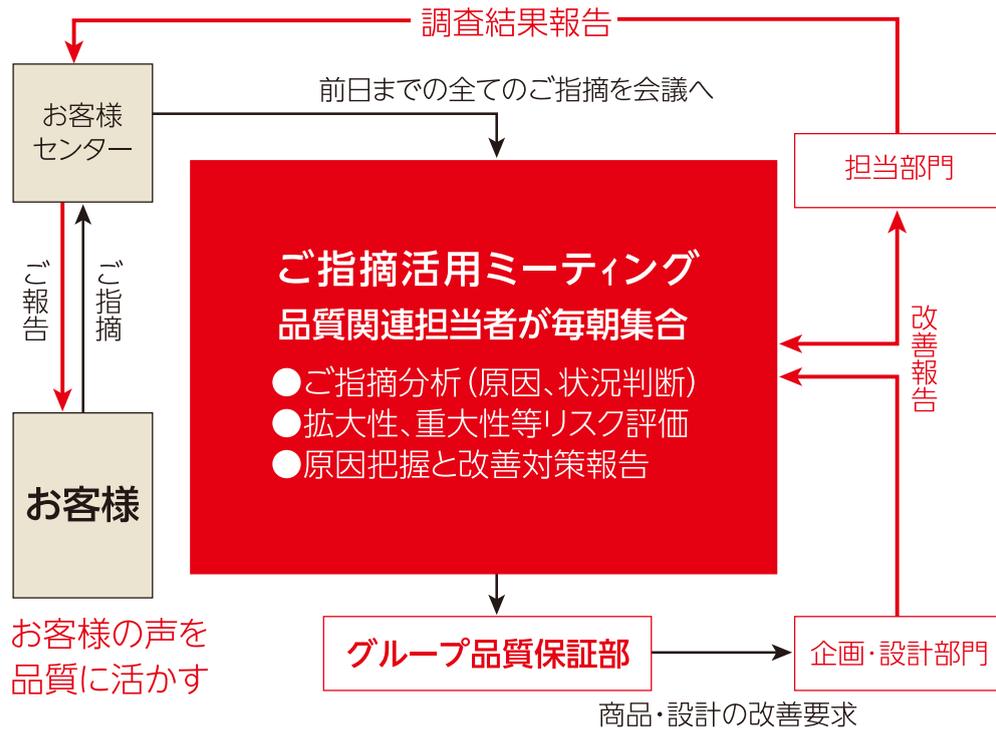
Glicoグループは、品質トラブルに対して原因究明を行い、品質向上に取り組んでいます。品質に関するトラブルが発生した場合には、グループで共有し、再発防止に努めています。

自主回収件数の推移

年	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
件数	0	2	0	0

ご指摘活用ミーティング

毎朝、品質保証部門、製造部門等の品質関係担当者が集まり、前日にお客様センターに寄せられたご指摘を精査しています。精査した内容は、製造会社、企画部門、研究部門にフィードバックし、迅速な対応を行っています。



お客様対応品質の向上

JIS Q 10002:2005（品質マネジメント-顧客満足-組織における苦情対応のための指針）への自己適合宣言を行い、お客様対応品質の向上のため日々改善を重ねています。また、電話対応の研修を実施するとともに、乳幼児へのミルクの飲ませ方、加工食品の調理方法、スポーツサプリメントの摂取方法等、多岐にわたるお問い合わせに備え、多様な知識の習得にも努めています。

<知識向上のためにコミュニケーターが所有する資格例>

- 消費生活アドバイザー
- 食品表示検定（中級）
- 電話応対技能検定（3級）
- 栄養士
- 子育てアドバイザー
- NR・サプリメントアドバイザー

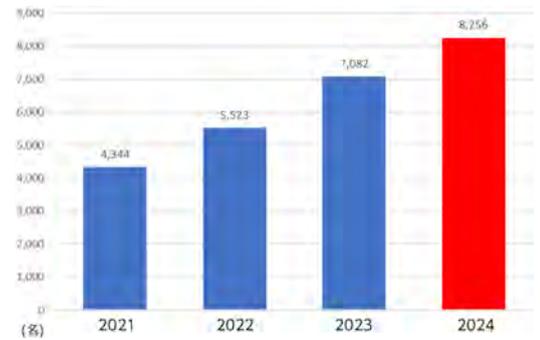
お客様センター体験研修

従業員に、“お客様と話して「心が動く・感じる」時”を提供し、お客様志向を醸成する活動を展開しています。オペレーターとしてお客様のお申し出に対応する「お客様センター体験研修」もその一つです。実際に受け応えすることで、真にお客様の気持ちに寄り添うことの大切さ等を体感し、お客様視点で品質を考える意識の向上に努めています。



お客様センター体験研修（受電研修）

2021年度以降は、オンラインでの研修を実施し、受講者数を増やしています。今後、対象を全グループ従業員に拡大していきます。



<体験研修受講者数推移> (累計)

チャットボットを活用した販売店検索システムの導入

お客様からの商品に関するお問い合わせに対し、スピーディーに回答できるよう、2020年よりチャットボットを活用した販売店検索システムを導入しました。営業時間外でもお客様自身が販売店舗を検索できるようにすることで、顧客満足度の向上を図るとともに、お客様センターの電話対応をWEBサイト上の検索にシフトさせることによる業務効率化にもつなげています。

グローバルコンタクトフォームの作成

海外各国のお客様からのお問い合わせにお応えするため、Glicoグループ共通のグローバルコンタクトフォームを作成しました。英語または事業所所在国においては現地で使用されている主な言語を用いて対応することで、お客様に寄り添い迅速に対応できるようにしました。

情報提供品質の向上

商品に関する情報をお伝えするために、商品パッケージの表示をできるだけわかりやすいものとするに努めています。商品開発時に十分な検討を行うことはもちろん、発売後も常にお客様の声に耳を傾け、迅速に改善を図っています。

すべてのお客様にわかりやすい商品表示

Glicoグループは、法令や業界基準に加え社内でも基準を設けて、すべてのお客様にわかりやすく安心してご利用いただける商品・サービスを提供することを目指しています。パッケージ表示においては、わかりやすい言葉や記号の使用、適切な色使い、多くの人が読みやすいフォント採用など、さまざまな工夫を行っています。一部商品では、カラーユニバーサルデザインへの対応や、文字の表記のみではわかりづらい部分を視覚で伝わりやすくするため、ピクトグラムの導入を進めています。



ピクトグラム事例

※順次パッケージ掲載を進めています

UCDA認証「伝わるデザイン」を国内の食品メーカーで初めて取得

江崎グリコは2023年8月、商品パッケージを刷新した「炊き込み御膳」について、一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会（UCDA）による第三者認証を国内の食品メーカーで初めて取得しました。



「炊き込み御膳 具だくさん とり五目」パッケージ切り替え前後

「炊き込み御膳」商品パッケージについては、作り方や調理時の注意表示（ケア表示）など文字情報が多く、「見やすさ、わかりやすさ、伝わりやすさ」において課題がありました。そこで、専門家と生活者からの評価を受け、「炊き込み御膳 具だくさんとり五目」のパッケージを刷新しました。デザインの「見やすさ」のみならず、ユーザーの理解度まで検証して「伝わりやすさ」を認証する、UCDA 認証「伝わるデザイン」を取得しました。

お客様への情報発信

お客様センターは、お客様においしく召し上がっていただきたいという想いから、チョコレートやカレー、食育について解説するリーフレットを発行しています。



リーフレット

安全・安心につながる情報の掲載

お客様ご自身がいつでもWEBサイトから商品の栄養成分等の情報を取得できるよう、商品ページに栄養成分表示、原材料名等の安全・安心につながる情報を積極的に掲載し、利便性と顧客満足度の向上に努めています。

商品のアレルギーに関心がある方のための「アレルギー情報検索」

アレルギー情報は、お客様のニーズが高く、かつ、健康面での緊急性が高い情報です。特に、小さいお子様が食べられるかどうかを知るために必要とされる情報です。そのため、アレルゲン物質が使用していることが一覧で確認できるよう、2024年にWEBサイト「アレルギー情報検索」を公開しました。

アレルギー物質を使用している商品を探す。

検索条件の変更

アレルギー情報検索結果 (62件)

使用しているアレルギー物質：「卵」

商品カテゴリ：「チョコレート」「スナック・ビスケット・クッキー」「バランス栄養食」「ガム・キャンディー」「アイス」「ヨーグルト・プリン・ゼリー」「飲料」「加工食品・カレー」「ベビー・育児」「百貨店・地域限定」「スポーツサプリ」

店舗による商品とは異なる場合がございます。

必ず、お手元の商品パッケージにて原材料名・栄養成分表示をご確認ください。

●：該当のアレルギー物質を含む

印刷

検索日：2024/12/10

商品	特定原材料 8品目								特定原材料に準ずるもの 20品目																				
	卵	乳成分	小麦	えび	かに	くるみ	そば	遺伝子由来成分	アーモンド	あわび	いか	いくら	オレンジ	カシューナッツ	キウイフルーツ	牛肉	ごま	さけ	さば	大豆	鶏肉	バナナ	豚肉	まつたけ	もも	やまいも	りんご	ゼラチン	
ブリッツ<ローズ上塩バター>	●	●	●																										
和ごころブリッツ<博多明太子マヨ>	●		●																	●				●					

WEBサイト「アレルギー情報検索」 (検索結果の例)

バランスのよい食生活の実現と健康づくりのための「栄養成分ナビゲーター」

WEBサイト「栄養成分ナビゲーター」は、簡単な操作で、知りたい栄養成分情報をリアルタイムで取り出すことができるシステムです。1996年に開設後、知りたい食品の栄養成分情報を手軽に取り出すことができ、専門知識がなくともわかりやすく詳しい情報が得られると、消費者はもちろん栄養士の方々にもご利用いただいております。お客様のバランスのよい食生活の実現と健康づくりのために貢献しています。



WEBサイト「栄養成分ナビゲーター」

お客様の声を活かした改善

商品の開発

『カプリコミニ<大袋>』を卵不使用規格に改善

改善後



<お客様の声>

ジャイアントカプリコには卵が入っていないのに、カプリコミニに卵が入っているのはなぜですか？ 息子がカプリコが好きなのですが、一歳なのでカプリコだと大きくて、ミニだと丁度いいサイズです。ですが卵アレルギーなのでミニだと食べられなく残念です。

<改良点>

従来のカプリコミニには、卵由来の原料が含まれていました。卵アレルギーのお子様は食べられませんでした。卵アレルギーのある多くのお客様のご要望にお応えし、2024年3月12日より規格を見直し、「卵不使用」で発売しました。

お客様から、「卵アレルギーの娘がカプリコが食べられるようになり本当に嬉しそうで、親の私もすごく嬉しくなりました。卵不使用になり本当にありがとうございました。」などお褒めの言葉をいただきました。

※アレルギーフリーではありません。

※原材料に含まれるアレルギー物資（28品目中）乳成分・小麦・大豆が含まれております。

※パッケージデザインは掲載のものと異なる場合がございます。必ず、アレルギー情報はお手元の商品パッケージにてご確認をお願いいたします。

『植物生まれのプッチンプリン』



<お客様の声>

卵・乳アレルギーのある人でも、周りのみんなとおいしく食べられるプリンはありませんか？

<改良点>

卵や乳などの動物原料を一切使用せず、植物原料で作ったプリン『植物生まれのプッチンプリン』を2020年3月から販売を開始しました。お客様からは「アレルギーの子どもに、はじめてプリンを食べさせてあげることができた」「一緒に“プッチン”できてうれしかった」などの嬉しいお声をたくさんいただきました。

※アレルギーフリーではありません。

※原材料に含まれるアレルギー物資（28品目中）大豆・アーモンドが含まれております。

※パッケージデザインは掲載のものと異なる場合がございます。必ず、アレルギー情報はお手元の商品パッケージにてご確認をお願いいたします。

アレルギー物質を含まない『セブンスターアイス』



<お客様の声>

友達と同じものを食べたいのに、自動販売機は全て乳成分入りのアイスばかりです。どうか1種類だけでも乳アレルギーの子どもでも食べられるアイスを作ってください。

<改良点>

お客様の声にお応えして、2018年5月28日より、乳成分を含まない商品の発売を開始しました。自動販売機の商品パネルにて、「原材料に含まれるアレルギー物質(28品目中) 該当なし」の表示があることを確認した上で、お買い求めください。なお、本品製造ラインでは乳成分を含む製品を製造しています。

※商品ラインナップは自動販売機により異なり、一部取り扱いのない場合があります。

お客様から「『グレープシャーベット』のアレルギー物質が含まれなくなったと知り、初めて娘に食べさせる事が出来ました。喜ぶ顔が見られて、とても嬉しかったです。ありがとうございます。」との嬉しいお声をいただきました。

パッケージデザイン・表示の改善

『ジャイアントコーン<大人の濃厚ホワイトチョコ>』パッケージデザインの変更



<お客様の声>

茶色のチョコが食べられないため、「ジャイアントコーン大人ホワイト」を購入しました。ですが、開封したら茶色のチョコが入っていてがっかりしました。パッケージを見て茶色のチョコは入っていない様に見えたので購入しましたが、パッケージにだまされた感じがしました。もっと茶色のチョコが入っていることをアピールしてほしいです。

<改良点>

パッケージの枠内表示左側の「●コーンの内面に茶色いチョコレートを使用しております。」や「(茶色いチョコでの)チョコだまり」の画像を掲載していますが、この表示がご認識できなかったようです。

2024年9月発売品より、コーンの内面とイメージのケーキに茶色いチョコレートを使用していることが一目で分かるようにデザインを変更しました。また、「●コーン内面に茶色いチョコレートを使用しています。」の表示場所も目立ちやすい正面に移動しました。

『ちょこっとプッチンプリン』 個包装にも賞味期限とアレルギー情報を記載



<お客様の声>

児童が学校にプリンを持ってきたのですが、容器に製品名しか記載がなく、アレルギーが分からないです。外袋を捨てたので、賞味期限が分かりません。できれば1個ずつに賞味期限を書いていただけたら助かります。

<改良点>

賞味期限、アレルギー情報は外袋に表示してあり、個包装には表示してありませんでした。2023年10月30日発売品からフタのデザインを見直し、個包装1個ずつに、賞味期限とアレルギー情報（卵・乳成分を含む）を表示した商品に切り替えました。

※パッケージデザインは掲載のものとは異なる場合がございます。必ず、アレルギー情報はお手元の商品パッケージにてご確認をお願いいたします。

『常備用カレー職人』 保存期間の表記をわかりやすく改善



<お客様の声>

『常備用カレー職人』の賞味期限が2022年10月と書いていますが、表に製造後5年って書いてあるから、この日から5年後までに食べたらいいのかな？

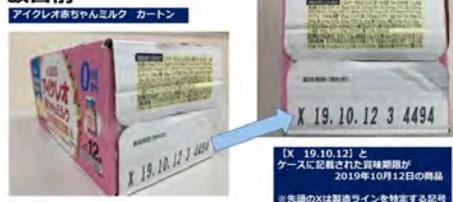
<改良点>

製造後賞味期限5年と表記されていますが、誤解されるお客様が多くおられます。5年だけが記憶に残り、購入後5年だと思われたり、別場所に記載されている賞味期限を製造日だと勘違いされたりする方がおられるため、2023年11月発売品より表記を変更しました。

パッケージ右上に「製造後 賞味期限5年6ヶ月」、右下に「製造月は賞味期限の5年6月前、賞味期限は裏面下部に記載」と記載しました。

『アイクレオ赤ちゃんミルク』ケースの賞味期限表示の紛らわしさを改善

改善前



改善後



<お客様の声>

『アイクレオ赤ちゃんミルク』をケース買いされたお客様から、【R22.02.05】と書いています。これは賞味期限ですか？Rって令和2年ですか？」とのお問合せをいただきました。賞味期限表示の先頭にHやRなど、生産ラインを特定するための英文字表記があるため、賞味期限が平成や令和などの和暦表示ではないかと誤認されたようです。

<改良点>

2023年2月より、ケースの賞味期限の表示を、賞味期限の前にHやRなどの英文字が入らないようにするとともに、スペース部分を/（スラッシュ）に変更しました。

ストローの「取り出し方」を目立つように表示（『幼児のみもの』、『100%果汁飲料』、『アーモンド効果』、『カフェオーレ』、機能性乳飲料）

改善前



改善後



<お客様の声>

『幼児りんご』のストローですが、紙パックからなかなか取れなくて、大人の力でも取れなくて、結局ハサミで切ったりするんですね。箱から取った後も、袋からストローがなかなか出にくくて、結局大人の力が必要で、子ども一人で飲めないのです。なんとかして欲しいです。

<改良点>

ストローを商品に貼り付けたまま、上から押すと容易に取り出せますが、先にストローを商品から外してしまうとストローが取り出しにくくなります。Glico商品には取り出し方の表示の無いものや、袋の「押し出す---→」の表示が小さく目立ちにくいものがありましたので、ストローの取り出し方法がわかりやすいように、袋に大きな文字で「→押し出してください→」などと押し出すことと、押し出し方向を表示し、2023年3月より順次切り替えしました。

『SUNAOクリームサンド』 「個包装」 であることがわかるように改善



<お客様の声>

今スーパーの売場にいます。『スナオ クリームサンド<アーモンド&バニラ>』のパッケージに6枚入りと書いてある。これは個包装か、もしくはまとめて入っているのかを教えてください。

<改良点>

表面は「6枚入り」のみ表示しており、箱側面に個包装写真を掲載していますが、気づきづらく、個包装かどうかをお問い合わせいただくことがあります。

2023年10月より「個包装6枚入り」と大きく表示、シズルの位置も調整し、個包装であることが分かりやすいデザインに変更しました。

『生チーズのチーズ』 パッケージ裏面の食べ方提案の表示を変更



<お客様の声>

生チーズのチーズを初めて買いました。「オーブントースターで焼きたてのおいしさ! ホイルに10枚前後のせて焼く」と裏面に書いてあります。これは、焼かないと食べられない商品なのですか?

<改良点>

裏面に大きくオーブントースターでの調理例を記載していることと、『生チーズのチーズ』と商品名に「生」がついていることもあり、焼いていない商品のように誤解されることがあるようです。

2024年2月発売品から、「ひと手間かけて」を追記し、「●そのままでも十分おいしく召し上がれます。」の注意表記を追記しました。そのままでもおいしく召し上がれますが、さらにおいしく食べる食べ方提案であることが伝わるようにしました。

『DONBURI亭』内袋（パウチ）に味名を大きく印刷

改善前



改善後



<お客様の声>

『DONBURI亭』の内袋（パウチ）の印字がわかりにくい。カタカナで、ギュー、チュウカ、などと印字があるが、字が小さく、省略して書かれているのでわかりにくいです。

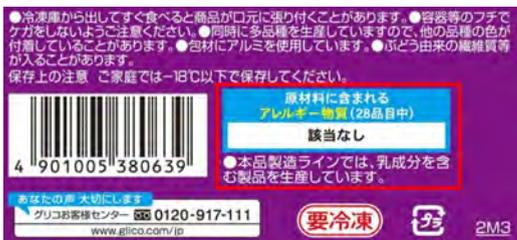
<改良点>

内袋パウチの表面に牛井は「ギュー」、中華丼は「チュウカ」など、カタカナで省略して印字しています。外装を捨てて、内袋（パウチ）の状態で保管するお客様や高齢のお客様から、中身が何か分からないとのお申し出をいただきました。

2023年5月下旬生産分から、『DONBURI亭』箱タイプの『牛井』『中華丼』、3食パックの『牛井』『中華丼』『親子丼』の内袋（パウチ）表面に、『牛井』『中華丼』など味名を大きな文字で印刷した商品へ、順次切り替えました。また、箱タイプと3食パックの内袋（パウチ）が識別できるように、3食パックの内袋（パウチ）には「お手軽サイズ」と印刷しました。

※箱タイプの『親子丼』『すき焼き丼』『カレー南蛮丼』など一部の商品には対応していません。

『アイスの実』など アレルギーマークのコンタミ表示をわかりやすく改善



<お客様の声>

アレルギー表示のところに、「該当なし」と書いてあるのですが、ラインコンタミ※1が分かりません。

<改良点>

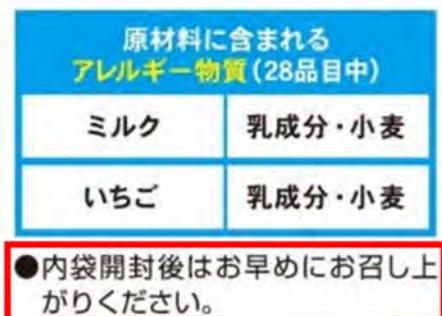
ラインコンタミも表示していましたが、アレルギー親切表示※2とラインコンタミを別々に表示していたため分かり難くなっていました。

ラインコンタミ表示をアレルギー親切表示の下にセットで表示するように変更しました。

※1 ラインコンタミ：製造ラインでのコンタミネーション注意喚起表示のことで、パッケージに「本品製造ラインでは〇〇を含む製品を生産しています。」などと表記します。「コンタミネーション」とは、原材料として使用していない場合でも、製造工場内で意図しない混入が生じることを指します。Glicoでは、特定原材料7品目のアレルギー物質を表示しています。

※2 アレルギー親切表示：製品に入っているアレルゲン（特定原材料等28品目）を原材料名欄で示すだけでなく、別枠を設けて一目で分かるようにした表示のことです。

『ビスコ』など大袋商品の賞味期限対象の明確化



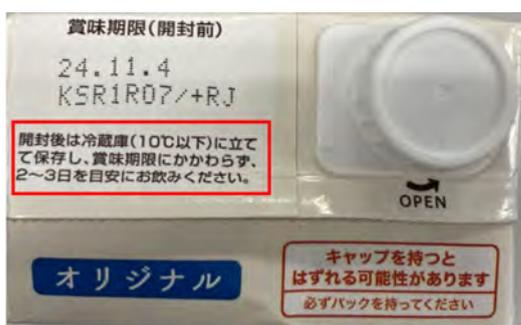
<お客様の声>

『ビスコ大袋<アソートパック>大袋』を開けても賞味期限は大丈夫ですか? 「開封後はお早めにお召し上がりください」とは、大袋、個包装の袋のどちらをさしているのですか?

<改良点>

賞味期限保証対象が内袋、外袋どちらでされているのかをわかりやすくお伝えするように、「内袋開封後」、「外袋開封後」と対象を明確に表示するようにしました。

『アーモンド効果 1000ml』開封後消費基準表示の変更



開封後の飲食日数目安を表示

<お客様の声>

『アーモンド効果1000ml』のパッケージには、「開封後はできるだけお早目にお飲みください。」と記載されていますが、何日で飲み切ったらいいですか?

<改良点>

「開封後はできるだけお早目にお飲みください。」と表示していますが、具体的な基準は表示していませんでした。このためお問い合わせを多くいただきました。未開封時の賞味期限が長いので、牛乳などのデイリーな商品とは違って、開封後も長く持つのではないかと勘違いされるお客様もおられました。

2022年3月下旬発売品から賞味期限印字欄の下に、「開封後は冷蔵庫(10℃以下)に立てて保存し、賞味期限にかかわらず、2~3日を目安にお飲みください。」と具体的な基準をパッケージに表示しました。

カレー、シチュー、ルー商品の品名を賞味期限表示と同一面に記載



商品名と賞味期限を同一面に配置

<お客様の声>

『クレアおばさんのシチュー』や『プレミアム熟カレー』のパッケージの収納を縦長方向で積み重ねて保管しています。重ねたときに一目瞭然に何の商品なのかを管理したいです。古い方から使いたいので賞味期限の面を上にして並べていますが、商品名がわからないので不便です。

<改良点>

商品名・賞味期限の配置がブランドによってバラバラになっていました。ZEPPINシリーズのみ正面デザインに対して右側側面に商品名と賞味期限が配置されていました。

2022年3月より、『プレミアム熟』シリーズ、『クレアおばさんのシチュー』シリーズも『ZEPPIN』シリーズ同様に正面デザインに対して右側面に、商品名と賞味期限を配置しました。

『DONBURI亭』『レトルトカレーLEE』アルミパウチ袋へ作り方を記載



<お客様の声>

外箱を捨ててしまいました。中のアルミの袋には作り方が書いてありません。温める時間は何分くらいですか？

<改良点>

お客様が外箱を捨ててしまっても最低限度の調理方法がわかるように、アルミパウチのデザイン変更を実施しました。作り方や中袋のアルミパウチのまま電子レンジで加熱しないように等の注意事項も記載しました。2020年1月下旬の生産品から順次切り替えました。

ルウ商品『プレミアム熟カレー』、『プレミアム熟ハヤシ』トレイ部分に賞味期限を追加



<お客様の声>

パッケージを捨ててトレイだけで保存すると、賞味期限が分かりません。トレイにも賞味期限を書いてほしい。

<改良点>

お客様のご要望にお応えして、1皿分ずつのトレイに賞味期限印字をするようにしました。食べたい分だけ使えて、アレンジレシピなどのちょっとした使い方や保存に便利な個包装の「キューブルウ」がより使いやすくなりました。また、この改善は『クリアおばさんのシチュー』シリーズ、『ZEPIN』シリーズのルウ商品の各トレイにも、拡大しました。

お客様から「個包装に賞味期限が印刷してある！ありがたいです。これから、より便利に使えます。驚きとともに感激しました。」との嬉しいお声をいただきました。

『ポッキー極細』内袋のデザインを変更



<お客様の声>

手が汚れたら嫌だと思って、袋の絵を見てチョコレートの付いていない方を開けたら、チョコレートが付いている方が出てきて手が汚れた。

<改良点>

パッケージと内袋は同じデザインでしたが、実際の中身のポッキーと向きを合わせるデザインに2016年10月生産分から変更しました。

パッケージ機能の改善

『GABA』『LIBERA』などファスナー付き商品の開けやすさを改善



<お客様の声>

『GABA』の「OPEN」の所を切って一度開けると、次に開けるのがなかなかうまくいかないです。爪を入れようとしても入らなくて、早く食べたいのにととても開けにくいです。

<改良点>

OPENと書かれた切り取り位置とファスナーとの間隔が狭いため、ファスナーをスムーズに開けられなかったようです。

2022年9月より、『メンタルバランスチョコレートGABA』は、切り取り位置、パンチ位置、ファスナーの位置を変更し、つまみやすくしました。

『LIBERA』は、ファスナー位置を2mm下げることによって開封口からファスナー上辺までの長さを4.5mm→6.5mmに変更し、つまみやすくしました。

人的資本

人事に関する基本的方針

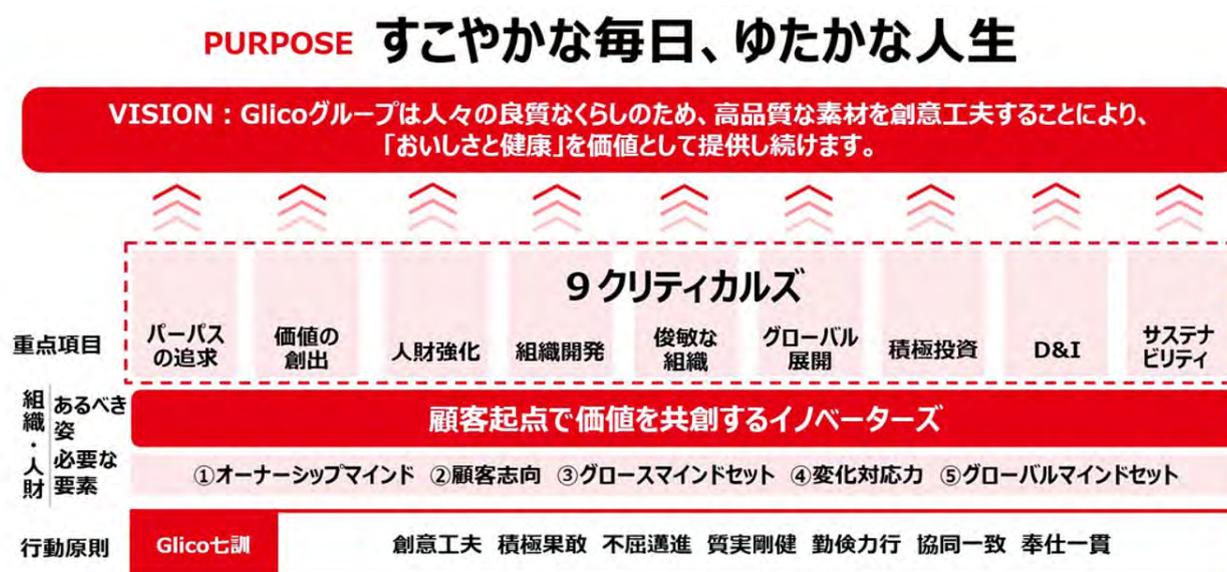
Glicoグループは、企業発展の源泉となる最大の資本は「人」であり、個々人の能力開発・育成を図り、意欲にあふれる人財が束となって変革を推し進めること、またそうした変革を推進する人財が次々と育つ企業風土を醸成することが重要であると考えています。さらに、多種多様な社会課題の解決のために、ダイバーシティ&インクルージョンにも真摯に取り組み、様々な個性を持つ従業員一人ひとりが、適切な配置や機会の提供を受けることで自身の能力や経験を生かして活躍できると考えています。こうした考え方に基づいて、社会から支持、信頼、尊敬される企業であるを通じ、Glicoグループの持続的な発展と従業員の幸福の実現を目指しています。

取り組みの全体像

Glicoグループが目指すのは、創業時から変わることなく、「食品による国民の体位向上」であり「事業を通じて社会に貢献すること」です。おいしさや健康に対する価値観と期待水準が変化するなか、Glicoグループが発展していくためには全従業員が一つになって社会課題と向き合い、お客様起点の価値を創造し続けなければなりません。

Glicoグループでは、長期経営構想の制定に際して経営理念体系を見直し、存在意義（パーパス）「すこやかな毎日、ゆたかな人生」を最上位に位置付けるとともに、ありたい会社の姿（ビジョン）として「Glicoグループは人々の良質なくらしのため、高品質な素材を創意工夫することにより『おいさと健康』を価値として提供し続けます」と決めました。

Glicoグループ 人的資本に関する取り組みの全体像



これらパーパスやビジョンを実現し、Glicoグループが持続的に成長するために重点項目「9クリティカルズ」を定義し、全ての部門ミッションと連動させて、全社を挙げて取り組んでいます。

さらにこの9クリティカルズに基づいた各部門のミッションの達成のために、組織のあるべき姿を「顧客起点で価値を共創するイノベーターズ」と決めました。ここで示す「イノベーター」とは、「内発的動機を力に前例にとらわれず、成果に向けてチャレンジする人財」と定義しました。また、あるべき人財像としては、Glicoグループにおける不変の行動指針である「七訓」を基盤としつつ、「オーナーシップマインド」、「顧客志向」、「グロースマインドセット」、「変化対応力」、「グローバルマインドセット」の5つの要素を兼ね備えた人財と決めました。

人的資本ストーリー



現行の中期経営計画では、2025年から2027年を長期経営構想の実現に向けた加速のフェーズとし、人的資本に対する取り組みを主要戦略の一つと位置付けました。Glicoグループは、この人財戦略を事業戦略、研究戦略と連動させることで長期経営構想を実現し、その先に見据えるグローバル10億人のウェルビーイングへの貢献を目指します。そのための取り組みとして、かねてより注力してきた能力開発・育成への取り組みに加え、従業員一人ひとりの「内発的動機」を原動力として、その力を成果へと結び付ける仕組みの構築に取り組みます。

具体的には、担当業務の内容や目標、学びの内容を自律的に選択できる機会を拡充します。また、チャレンジ行動や成功体験を増やすことで自己効力感を高めます。さらに、部門間の協力関係や個々の強みを生かし合うインクルーシブアクションの強化に繋がる施策を進める計画です。

また、長期経営構想を実現するための必要人財やケイパビリティの定義設定、採用・育成・配置等に関する人財計画の策定を進めます。さらに、これらの施策の実行力を高めるために、組織マネジメント力の強化や人事組織の体制の見直しを進めてまいります。

Glicoグループは、パーパスに共感・共鳴した従業員が、その「内発的動機」をもとに個々の強みを生かし合いながら期待される行動を体現し、これを組織の力として転換することで新たな価値の創造・創出や生産性の向上に結びつけることが、Glicoグループの今後の成長の大きな鍵になると考えております。

人財育成方針、社内環境整備方針

組織・人財のあるべき姿を目指す上で必要な5つの要素は、「オーナーシップマインド」、「顧客志向」、「グロースマインドセット」、「変化対応力」、「グローバルマインドセット」です。これらの能力開発のための人財開発への投資を行うとともに、能力を十分に発揮できるような社内環境整備への投資を実行し、課題に沿った各種アクションを実行、加速していきます。

◆オーナーシップマインド：従業員全員が創業者マインドを持ち、自立して行動する

Glicoグループのパーパス実現のために、全ての従業員が、「創業者マインド」をもち、それぞれの「内発的動機」をもとにお客様の「すこやかな毎日、ゆたかな人生」に貢献することを追求していきます。全ての従業員が主体的に新しい挑戦に取り組めるよう、以下の取り組みを進めております。

次世代イノベーター育成研修	起業家マインドとグローバルに通じるイノベーション創出力を目的に2019年より開始しています。今後もこうした起業家精神を育む機会を強化していきます。
---------------	---

選抜リーダーシップ研修	3つの層からメンバーを選抜して実施しています。 i. CLC (Change Leader's Camp) 研修：2014年に部門長及び部門長候補を対象に経営リテラシーやリーダーシップの獲得を主目的として開始しました。4年目以降はACLIC (Advanced Change Leader's Camp) 研修を実施しています。 ii. LDC (Leadership Development Camp) 研修：係長クラスから経営職を目指すメンバーを対象にした研修を実施しています。 iii. LLC (Leadership Learning Camp) 研修：主任クラスから係長クラスを目指すメンバーを対象とした研修を実施しています。
-------------	---

社内公募制度	従業員個々の自律的キャリア形成の促進とキャリアニーズにこたえることを目的に2010年より導入しています。
--------	--

JICA民間連携ボランティア制度への派遣	国際感覚を備えた人財の育成と同時に、異なる文化や環境の中で自ら課題を設定し、一年という限られた期間の中で持続性のある解決策を仕組み化して生み出す体験として、2016年以降、独立行政法人 国際協力機構JICA (Japan International Cooperation Agency) の民間連携ボランティア制度を活用し、社内公募による海外への従業員派遣を実施しています。
----------------------	--

社内提案制度 —Smile Box	従業員なら誰でも業務改善につながるアイデアを直接会社に提案できる制度『Smile Box』を2016年より導入しています。提案されたアイデアは社長、役員、関係部門によって検討され、従業員に返答される仕組みになっています。
-------------------	--

◆顧客志向：従業員全員が常に顧客起点の発想と、新たな価値を創造・実現できるスキルを持つ

現状の製品（モノ）起点の価値フローから、「お客様起点のバリューチェーン」に切り替えるにあたり、顧客起点の思考は一層重要度を増しており、以下の取り組みを実施しております。

デザイン思考ワークショップ	顧客視点での課題設定力、問題解決力の向上を目的に2019年より実施しています。
---------------	---

デジタルスキル学習	デジタルリテラシーの強化、デジタルを活用した新たな価値創出や業務変革等における職務遂行能力の獲得・向上を目的に2022年から全従業員を対象に順次開始しています。
-----------	--

◆グロースマインドセット：従業員全員が協同一致で「One Glico」を実践するマインドを持つ

個人及び組織で求められるアウトプットに対するコミットメントのレベルや、主体的に学ぶ意識を高めることで「個」を超えた価値を提供することを伸びしろと捉え、従業員全員がパーパス、ビジョンを理解・共鳴した上で、学び続け、グループ全体が一丸となり結果を出し切れる組織文化を目指して取り組みを進めております。

役割等級制度 管理職は2018年から、一般従業員は2022年から、従来の職能資格制度を廃止し、役割の大きさを基準に等級を設定する役割等級制度へ移行しました。

自律的な能力開発とキャリア形成 各等級あるいは営業や商品開発などの職種別に求められるスキル、知識を定義しました。各等級に求められるスキル、知識を従業員に明示することで、上司の支援のもと、従業員一人ひとりが主体的かつ計画的に自身の能力開発に取り組むと同時に、キャリア申告を通じて、自身のキャリア意向や経験・スキルについて定期的に棚卸し、自律的なキャリアの実現を促進しております。

キャリア採用 経営戦略上必要な、専門性、経験、知見、チームで課題を解決する能力等の強化施策として外部からの人財獲得を推進しています。新卒採用で優秀なポテンシャル人財を採用すると共に、多様なスキルや価値観を持つキャリア採用を積極的に行うことで、新たな視点を取り入れた商品開発やマーケティング、営業、生産活動を推進してまいります。

◆変化対応力：市場や環境の変化に常にアンテナを張り、現場、現物、現実を正確に把握しながら迅速に対応を図る

企業が成長するためには、社会の動向を見定め素早く動く「俊敏な組織」でなければなりません。従業員一人ひとりが、日常生活の中でニーズの変化や技術の動向を敏感に察知し、ビジネスチャンスに変えてアウトプットを生み出す判断力を鍛えます。Glicoグループ全体での俊敏性と判断力を高めるために、データドリブンな意思決定ができる環境整備や組織体制を整えていきます。

各部門目標への設定 各部門の目標に社会環境の変化や最新の技術トレンドを獲得するための観点を加えることで、会社全体の変化対応力の向上を図ります。

能力開発 個々の能力開発機会として、戦略策定のトレーニングや実践の機会を設けています。

◆グローバルマインドセット：従業員全員がグローバル目線で事業構想を考えることができ、また異なる意見や価値観を異質とせず受容することができる

意思決定の質を高めるためには、異文化理解の素養を高め、日常的な意思決定のプロセスにおいて当事者をインクルーシブすることが必要不可欠です。人財獲得への努力と同時に多様な人財の育成や活躍しやすい環境整備を推進しております。

海外での新卒採用 異文化理解の素養が高く、インクルージョンを力にすることができるリーダーに育成するために、当社では2007年より日本国外での採用活動を開始し、日本国外で開催される採用イベントや、キャンパスリクルーティングへ参加しています。

グローバルブランドマネジメント体制の導入 長期経営構想、中期経営計画に基づいたグローバルブランドの成長戦略・方針を策定し、その実行をリードする専門組織を設置いたしました。

ダイバーシティ&インクルージョン(D&I) 推進 D&Iへの取り組みはイノベーションを創出するとともに、組織運営においても意思決定のレベルを引き上げ、組織マネジメント力を向上させるものと捉えています。国籍や性別、キャリア、障がいの有無などに関わらず、多様な人財が適材適所で一体となって目標に向かっていける環境づくりが非常に重要であると考え、さまざまな取り組みを実施しています。

» [ダイバーシティ & インクルージョン推進ページはこちら](#)

人財育成投資

人財育成への投資を積極的に進めており、当社及び国内連結子会社における2024年の研修費用総額は、173百万円、一人あたり49千円となりました。

健康経営

Glicoグループが持続的に成長・発展し、事業を通して社会に貢献し続けるためには、Glicoグループで働く従業員自身が、心身ともに健康であり、働きがいをもっていきいきと働き続けられることが欠かせないと考えております。Glicoグループでは従業員の健康維持・増進を重要な経営課題と位置づけ、従業員自身の主体的な健康づくりを積極的に支援しております。

» [健康経営ページはこちら](#)

 [人的資本に関する詳細はこちら](#) PDF (約1.49MB)

ダイバーシティ & インクルージョン推進

考え方

Glicoグループは、多種多様な社会課題を解決するために、ダイバーシティ & インクルージョン (D&I) に真摯に取り組んでいます。私たちは、さまざまな個性を持つ従業員一人ひとりが、Glicoの存在意義 (パーパス) とありたい会社の姿 (ビジョン) の実現のために、自身の能力や経験を生かして活躍することが、新しい価値の創出の鍵を握ると考えています。また、同じ志を持つ社外の方々や組織と連携し、活動の輪を広げながら社会課題の解決に取り組む姿勢も大切にしています。

取り組み

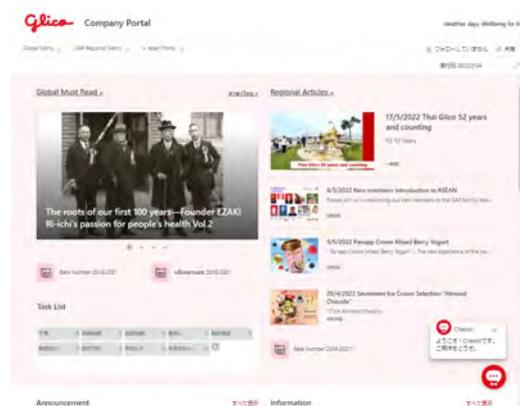
ダイバーシティ & インクルージョンの取り組み

私たちが目指すのは、多様な従業員が等しく組織の一員だと感じられるだけでなく、ステークホルダーと協働しながら、建設的な議論を交わし、前向きに切磋琢磨し、イノベーションを誘発することで社会にインパクトを与える成果を創出し続けることのできる組織です。

多様性を生かしてインクルーシブなアクションが自発的に生まれ続ける組織を目指し、「認知」を促し「行動」を促進し「文化」にしていく、というアプローチを繰り返しながら組織づくりを推進しています。特にインクルージョンは理解しにくい概念でもあるため、基礎知識の獲得から始め、行動を促し、組織の文化として定着できるように、具体的にテーマを定め、わかりやすく、行動に移しやすいコンテンツを選定し、個人及び組織のマインドセットと、日々の意思決定や業務、コミュニケーションにおける行動変容、組織単位での変革につなげていきます。

社内イントラネットの多言語化対応およびGlobal Must Read枠の構築

Glicoグループでは、国籍の違うグループ従業員全員が一体となり、目標に向かって日々の業務に取り組むことが重要と考え、インターナルコミュニケーションを推進しています。そのため、社内イントラネットを事業展開国に合わせて多言語化対応とし、経営層からのメッセージや創業のDNA等、グループ従業員が理解すべき情報はGlobal Must Read枠に掲載して発信しています。



社内イントラネット

D&I社内啓発イベントの開催

2021年からGlicoグループ横断の社内啓発としてD&Iイベントを実施しています。毎年設定したテーマの中で、一人一人がインクルーシブな言葉や行動を選択して実践するスキルを学び、行動発揮を促すことをサポートしています。

2021年から2023年にかけて、Glicoグループ横断の社内啓発として、ダイバーシティ&インクルージョンを推進する上で注力分野・枠組みに関わらず共通して必要となる啓蒙活動“D&I社内啓発イベント”を実施してきました。社員一人ひとりがインクルーシブな行動を実践し始めることで、相互に違いを受入れ、自然体でいられることに価値を見出せる環境を作り、新たな価値創造に向けたマインドセットの醸成を目指し活動を進めてきました。2024年は、さらにインクルーシブな行動を加速させ、かつGlico内外に影響の輪を広げるべく、「社会に向けたインクルーシブアクション」をテーマとし、社会課題の現場、現物、現実を知り、社会変化対応力を強化するために全社員を対象とした「CSRイベント2024」を開催しました。グローバルで約3,700名の社員が活動に参加し、自治体、学校やNPOなど地域の様々な組織とともに多くの方とふれあう中で多様な視点や考え方を理解するとともに、社員の多様性が不可欠であることを再認識し、新たな価値を創造していくための多くのヒントを得て、行動につなげていくきっかけとなりました。



D&I Event 2024

年度	フェーズ	テーマ	内容
2021	認知	無意識のバイアス（先入観や誤解）	「インクルージョンとは何か」「バイアスと上手に付き合うにはどうしたらよいか」などのD&Iの基礎知識を学ぶ
2022	行動	インクルーシブ・コミュニケーション	一人一人がインクルーシブな言葉や行動を選択するなどインクルージョンのスキルを学び、個人の行動変容をサポート
2023	行動	インクルーシブ・アクション	社内外の取り組みの好事例を学び、多様な参加者によるディスカッションにて具体的なインクルーシブ・アクションを決定
2024	行動 →文化	社会に向けたインクルーシブ・アクション	社会課題の現場、現物、現実を知り、社会変化対応力を強化する

女性の活躍推進

Glicoグループでは、イニシアチブにおけるジェンダー平等推進の観点から、女性従業員のキャリア開発研修や上司を対象とした人材育成研修等を実施し、2024年度末時点の当社及び国内連結子会社合計の女性管理職比率は6.7%です。

「くるみん」マークの認定

江崎グリコでは従来より、従業員の仕事と家庭・育児の両立のための各種施策を実施しており、2007年に厚生労働省から「くるみん」マークの認定を受けました。



「くるみん」マーク

女性キャリア開発ワークショップ、上司向けダイバーシティマネジメントセミナー

ダイバーシティ推進施策の一つとして、ライフイベントを迎える時期に差しかかる女性を対象に4日間のキャリア開発ワークショップと、その参加メンバーの上司を対象に、2日間のダイバーシティマネジメントに関するセミナーを毎年実施しております。女性従業員自身が今後のキャリアを考える重要性の理解促進と並行して、上司を対象に、部下の多様なキャリアを理解し、その活躍をサポートする方法を学ぶセミナーを実施しています。



研修の様子

再雇用の取り組み

江崎グリコ及びグリコマニュファクチャリングジャパンにおいては、従来から導入している定年後再雇用制度（シニア社員制度）について、2021年4月法改正の努力義務対応として2021年4月にシニア社員制度を改定し、最長70歳までの雇用延長を可能としました。この改定により、年齢に関係無く業績貢献できる従業員が活躍できるようにしました。また、一度退職した従業員を再雇用するカムバック制度も導入しており、現在もカムバックしている従業員が活躍しています。

障がい者雇用の取り組み

障がい者雇用について、江崎グリコでは3%以上の雇用率を目標に雇用拡大、定着促進の取り組みを推進しています。また、国内の全てのグループ会社で法定雇用率を達成することを目指し、国内グループ会社では業務の精査や適材適所の採用等を実施しています。



多様な人材が適材適所で活躍できるための施策

Glicoグループでは、多様な人材が適材適所で活躍するためにさまざまな施策を行っています。障がいのある人がその障がいの種類にかかわらず活躍できる職場を目指し、2018年10月1日には、新たな職場「スマイルファクトリー」を本社敷地内に開設しました。この職場では輸出商品のラベル貼り等を行い、外部委託してきた業務の内製化を図りました。「やりがいを感じる」「必要とされていることを実感できる」体制づくりを進めるとともに、作業場はもちろん休憩スペースにも障がいの種類にかかわらず働きやすい環境を整えています。2020年からは、メンバーの特性を活かした職務の開発として、新たにオンラインで販売される製品の詰め合わせ包装や、スマイルファクトリーの職場見学をした従業員からの様々な業務依頼を受託し、特性に応じて活躍機会を拡充させる取り組みを推進しています。

他にも、Glicoの資料館である江崎記念館では、スマイルファクトリーの管理運営を担当しているろう者の従業員が、記念館にご来訪いただいたろう者・難聴者の見学アテンドを担当することで、共通言語の手話で通訳を介さず直接ご案内が可能となり、よりGlicoを身近に感じていただくことができています。このように、それぞれの特性を活かした活躍シーンが増えています。



外国籍従業員採用の取り組み

Glicoグループでは、事業のグローバル化に伴い外国籍従業員の雇用を進めています。過去には米国、中国、韓国、スイス、タイ、ベトナムから人財を採用してきました。今後もダイバーシティ&インクルージョンの観点から、外国籍従業員の雇用を進めていきます。

多様な性への取り組み

Glicoグループでは、LGBTQ等の性的マイノリティの方（以下、「LGBTQ+」）が働きやすい職場環境に加え、全ての従業員が多様な性の形をオープンに理解し認め合う風土醸成に向け、社内セミナー研修やeラーニングによる教育等の活動、福利厚生に関する施策の検討を進めています。人権方針では、「（前略）性別、性的指向、性自認、性表現、（後略）を理由とする差別を行いません。」と明記しています。また、2021年度からは慶弔規程を一部改訂し、「慶弔金及び休暇付与」の対象を、異性であるか同性であるかを問わず、事実上婚姻と同様の関係にあると会社に届出を行った者と定義しました。LGBTQ+に加え、事実婚についても対象として認め、個人の考えや家族の形の多様化に対応しています。

江崎グリコ株式会社は、企業や団体のLGBTQ+に関する取り組みを評価する「PRIDE 指標2024」において、「ゴールド」を3年連続で受賞いたしました。Glicoグループとして「ゴールド」を受賞する企業は、江崎グリコのほか、グリコチャネルクリエイティブ株式会社、グリコ栄養食品株式会社で2年連続となり、グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社は2年連続の受賞となりました。

 [LGBTQ+の取り組み「PRIDE指標」で2年連続「ゴールド」受賞](#)
PDF (約537KB)



『Co育てPROJECT』

Glicoは『Co育てPROJECT』という子育てに関する社会課題解決プロジェクトを推進しています。

- » [『Co育てPROJECT』ページはこちら](#)
- » [「働きやすい職場づくり」詳しくはこちら](#)

働きやすい職場づくり

考え方

Glicoグループでは「ワーク（仕事）」と「ライフ（仕事以外の生活）」を分けて考えません。ライフにはワークも含まれていると広く考え、両者の質を上げる取り組みを進めています。具体的にはテレワーク制度やフレックスタイム制度、時間単位年次有給休暇制度等を導入している他、業務効率化による残業時間の削減や年次有給休暇の取得促進にも全社を挙げて取り組んでいます。

取り組み

Glicoの『Co(こ)育て』

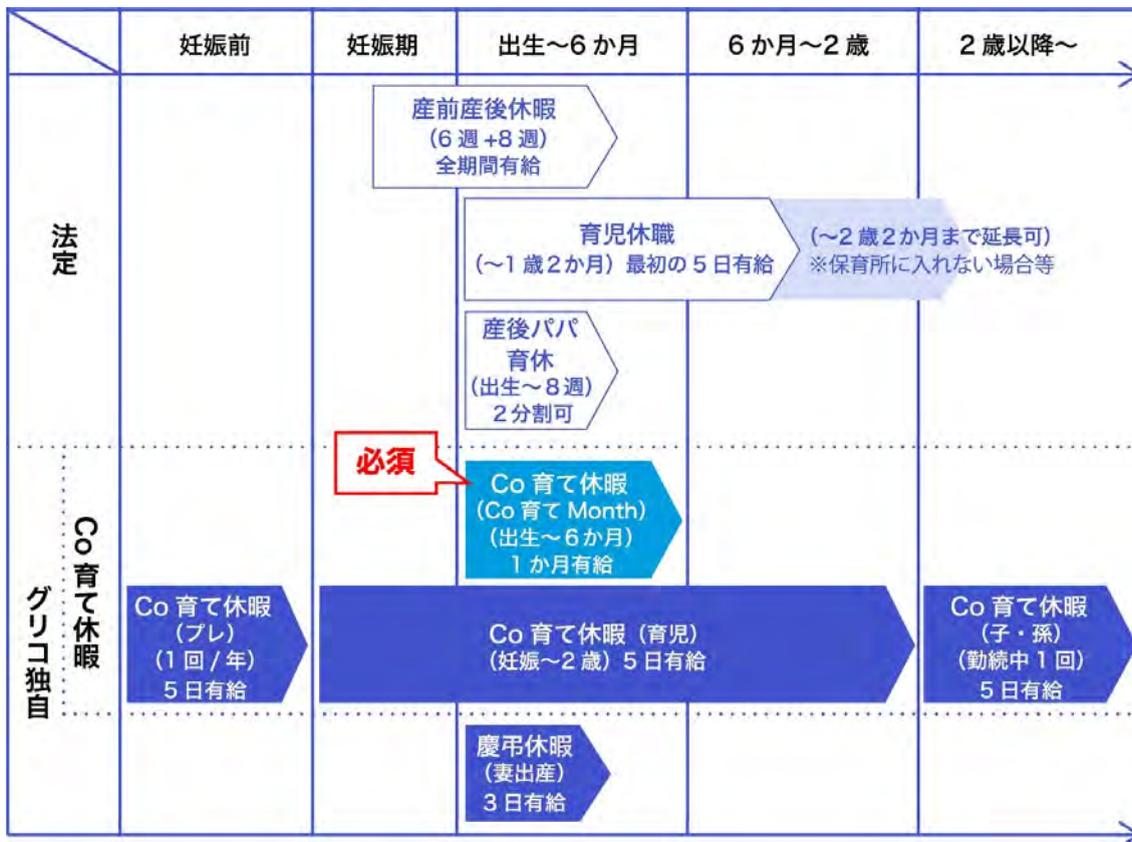
Glicoは、従業員が『Co(こ)育て』を起点に自らライフデザインを行い、多様な人財が活躍できる企業風土を目指しています。『Co育て』とは、Glicoグループが提唱する子育ての考え方で、家族のコミュニケーションを育み、父親や母親、周囲の人たちが協力して育児を行うことを目指すものです。

『Co育て』の基盤として『Co育てPROJECT』という子育てに関する社会課題解決プロジェクトを推進しています。『Co育てPROJECT』とは、子どものココロとカラダを育てる土壌として妊娠期からの子どもの発育と子育て環境に着目。新しい命を宿した瞬間からはじまる家族のカタチを『Co育て』とし、特に子どもと一番近い父母の育児が、わきあいあいと（Communication）、上手に協力しながら（Cooperation）、一緒に子どもを育てる（Coparenting）ことで、子どものココロとカラダの成長を育む世の中にしていきたいという想いのもと推進しているものです。



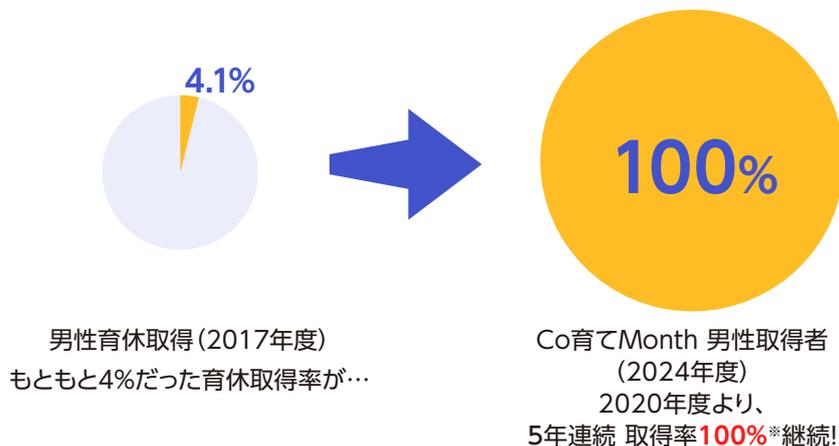
『Co育て休暇』

『Co育て休暇』は『Co育て』の取り組みの一つで、不妊治療や妊活、育児、子・孫の看護や検診、学校行事への参加のための有給休暇です。以下の4種類がありますが、このうち『Co育てMonth』は子どもの出生後6ヶ月以内に1ヶ月の休暇取得を必須とするものです。男性従業員の育児参画をさらに推進するとともに、対象者の休暇取得をきっかけにして、職場のメンバー全員が働き方についての意識と行動を見直し、生産性の向上とそれぞれのライフの充実を実現することを目指しています。



育児休業等及び育児目的休暇（『Co育てMonth』含む）の取得者数（江崎グリコ）

	男性	女性
2021年度	43名	26名
2022年度	31名	18名
2023年度	34名	25名
2024年度	44名	26名



※2020年の社内独自の休暇制度（Co育てMonth（正社員対象））を導入以降、独自制度対象者のうち育児休業または当該休暇を取得した率

ミルク購入代補助

江崎グリコは、満1歳までの子を養育する従業員を対象に、乳児用ミルクの購入代金を一部補助する制度を設けています。

子の看護等休暇

江崎グリコは、小学校3年生までの子を持つ従業員を対象に、負傷したり、疾病にかかった子の世話をしたりするため、あるいは子の疾病予防のために年次有給休暇とは別に休暇の取得を認めています。子1人あたり1年間に5日まで、子が2人以上の場合は10日まで取得できます。

従業員向け保育施設『こどもぴあ保育園 神戸』

子育て世代の従業員が安心して働ける職場環境を整備する一環として、2019年4月、神戸工場の敷地内に従業員向け保育施設『こどもぴあ保育園 神戸』を開園しました。276㎡の敷地内には171㎡の園庭を備え、子どもが遊びに専念できるさまざまな運動プログラムを用意しています。工場の操業に合わせ、土曜・日曜・祝日も開園しています。



ふれあうココロ、いきるチカラ
こどもぴあ保育園
KOBE

ユニ・チャーム×Glicoコラボ 企業向け両親学級『みんなの育休研修』

粉ミルク・液体ミルクの『アイクレオ』を製造する江崎グリコと、紙おむつ「ムーニー」などを製造するユニ・チャームが手を取り、企業で従事しているプレパママ従業員に向けて、企業内で実施するオリジナル両親学級『みんなの育休研修』の無償提供を開始しました。日本は、育児先進国と比較し、男性の家事・育児時間が少ないと言われます。2022年4月から改正育児・介護休業法が順次施行され、子どもの出生直後に父親が休みを取りやすくなる「産後パパ育休（出生時育児休業）」などが新たに設けられました。研修では、産休や育休の取得予定者などを対象に、男性育児の必要性と影響、育児で負担の大きい“授乳”“睡眠”“排泄”の方法などについて、当社の栄養士・子供心理カウンセラーなどの話を交えて紹介しています。多くの企業様、官公庁様に受講いただき、育休取得の後押しになったとの反響をいただいています。



「国連グローバル・コンパクト2021年リーダーズサミット」への登壇

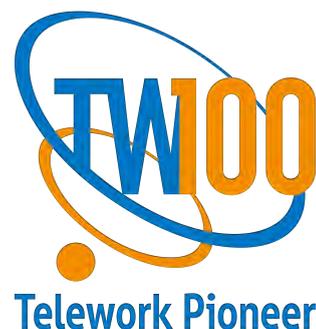
国連グローバル・コンパクト2021年リーダーズ・サミットは、国連事務総長をはじめ、世界中のリーダー達がスピーカーとして登壇し、SDGs加速のために議論するオンラインサミットです。Glicoグループでは、2019年に国連グローバル・コンパクトに署名し、持続可能な社会の実現に向けて、さらなる貢献を目指し取り組んできました。2019年に当社で始動した『Co育てPROJECT』は、パートナーや周りの家族が協力して子育ての課題に社内外で取り組むプロジェクトです。この度、『Co育てPROJECT』が“Gender equality”取り組みの1つとして評価され、リーダーズサミットにて、当社取り組みについてご紹介しました。



各種制度

「テレワーク先駆者百選 総務大臣賞」を受賞

江崎グリコは、総務省が主催する令和2年度「テレワーク先駆者百選」において、最高位となる「総務大臣賞」を受賞しています。2015年から、在宅勤務による育児介護従事者の両立支援にも取り組み、障がい者の就業支援や天候災害時における従業員の安全確保の観点でも有効活用している点等を評価いただき、受賞となりました。



年次有給休暇

江崎グリコでは、土曜・日曜・祝日が休みの完全週休2日制にするとともに、年間で最大20日の年次有給休暇を付与（前年未使用分は繰り越し分として上乘せ）しています。

労働時間や休日、年次休暇の取得状況

	年間休日	所定労働時間	所定外労働時間 (1人・年当たり)	年次有給休暇 取得平均日数	年次有給休暇 取得率
2021年度	124日	1867.75時間	308.3時間	13.2日	70.9%
2022年度	125日	1844.50時間	313.1時間	13.76日	73.5%
2023年度	126日	1867.80時間	308.0時間	14.3日	75.8%
2024年度	126日	1852.25時間	323.9時間	14.6日	77.8%

※2024年度の対象期間は、2023年12月11日～2024年12月31日。2023年度以前の対象期間は、12月11日～翌年12月10日。

その他の制度

制度	概要
テレワーク制度	従業員の自律的・効率的な働き方の促進による業務効率化とワークライフバランスの向上を目的とした、会社以外の場所で勤務できる制度
勤務地特約制度	従業員の持続的な能力発揮と高い組織活力の実現を目的として、勤務地を特約する制度
ボランティア休暇制度	従業員が、甚大な自然災害が発生した地域における「ボランティア活動」に従事する際に、保存休暇を活用できる制度
裁判員休暇制度	裁判員として裁判所に行った日は、年次有給休暇とは別に休暇が付与される制度
半年次有給休暇制度	半日単位で年次有給休暇を取得できる制度
時間単位年次有給休暇制度	時間単位で年次有給休暇を取得できる制度
フレックスタイム制度	効率的な時間活用を目的として、各人が勤務時間を自主的に選択できる制度
サテライト・オフィス制度	営業拠点が遠隔地の場合等、長距離通勤を解消するため事務所を借り上げ、営業スタッフが活用する制度
妊娠、出産、育児に関する諸制度	<ul style="list-style-type: none"> ● Co育てMonth ● Co育て休暇 ● 妊婦の時差勤務 ● 通院時間の保障 ● 妊娠中面談 ● 育児休職前面談 ● 産前産後休暇（出産休暇） ● 出産祝金 ● 出産育児一時金 ● 産前産後休暇中の社会保険料の免除 ● 出産に伴い高額な保険診療が必要な場合の補助 ● 家族手当 ● 産後復職前面談 ● 育児休職 ● 粉ミルク費用補助 ● 育児休業給付金 ● 育児短時間勤務 ● 子の看護休暇 ● 所定外労働・休日出勤の免除・制限、深夜業の制限 ● 勤務地特約制度
介護に関する諸制度	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護休職 ● 介護休業給付金 ● 介護別居手当 ● 介護短時間勤務 ● 介護休暇 ● 所定外労働・休日出勤の免除・制限、深夜業の制限 ● 勤務地特約制度

Glicoグループ 健康経営



Glicoグループが持続的に成長・発展し、事業を通して社会に貢献し続けるためには、Glicoグループで働く従業員自身が、心身ともに健康であり、働きがいをもっていきいきと働き続けられることが欠かせないと考えています。従って、Glicoグループでは従業員の健康維持・増進を重要な経営課題と位置づけ、従業員自身の主体的な健康づくりを積極的に支援しています。そして、働き方改革や業務効率化、生産性やエンゲージメントの改善・向上、ダイバーシティ&インクルージョンといった他の組織的課題とも連動して中長期的な視点で健康経営を体系的に推進しています。

Glicoらしい健康経営により、ココロもカラダも健康な従業員が多様な個性を引き出し合い、Glicoの「存在意義（パーパス）」と「ありたい会社の姿（ビジョン）」の実現を目指すことで、イノベティブなアイデアやチャレンジを生み出し、自社の健康課題はもちろん、社会の健康課題解決に貢献していきます。

Glicoグループ 健康経営宣言

Glicoグループは、「すこやかな毎日、ゆたかな人生」の実現に向け、「人々の良質な暮らしのため、高品質な素材を創意工夫することにより、『おいしさと健康』を価値として提供し続ける」ことを目指しています。

この実践のためには、多様な社員が共有する目的のために協同一致し、創意工夫によって能力を発揮し、高い生産性を保つことが重要です。

そしてこの源泉は、社員自身が心身ともにすこやかな毎日を送るように努めることにあります。

このような考えに基づき、Glicoグループは全員一丸となって健康経営を推進し、社員一人ひとりが健康保持・増進に取り組みます。

2022年9月1日
江崎グリコ株式会社
代表取締役社長 江崎 悦朗

Glicoグループ 健康経営推進体制

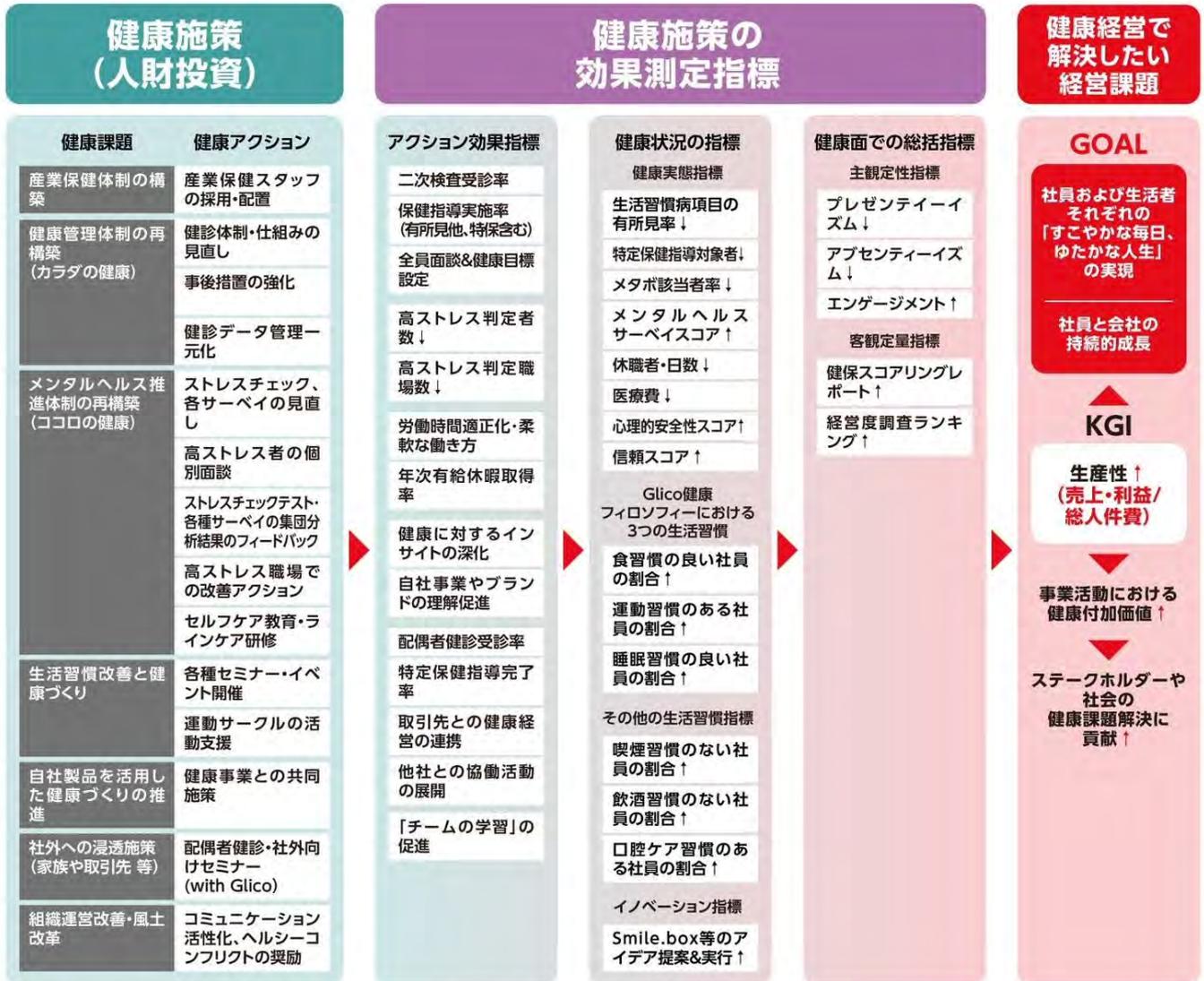


※グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社、グリコチャンネルクリエイト株式会社、グリコ栄養食品株式会社、中部グリコ栄食株式会社、関西フローズン株式会社、東北フローズン株式会社

Glicoグループでは、経営トップの健康経営宣言に基づき、全員一丸で健康経営を推進するために、各職場に健康推進リーダーを配置し、彼らを中心に主体的に健康づくりに取り組んでいます。また、会社と健康保険組合、ユニオン、産業保健スタッフが緊密に連携することで、健康経営施策の企画、検討、実行、効果検証といったPDCAを推進しています。

Glicoグループ 健康経営戦略マップ

私たちは事業を通じて社会に貢献し続けることで「存在意義（パーパス）」と「ありたい会社の姿（ビジョン）」の実現を目指しています。そのためには従業員一人一人の成長を通じた会社の持続的発展が欠かせません。健康経営を推進するにあたっては、KGI（Key Goal Indicator）を生産性の向上とし、KPI（Key Performance Indicator）にはプレゼンティーズムとアブセンティーズムの低減、エンゲージメントの向上を設定しました。これらの指標に直接的に影響する、より客観的な定量データとして有所見率の減少や休職日数の低減、良い生活習慣を維持する従業員の増加、組織の心理的安全性や信頼スコアの向上などもアウトカム指標として組み込み、そのプロセスとなるセミナーやワークショップ、イベント等の参加率や満足度・理解度をアウトプット指標に位置付けました。この戦略マップに基づいて、従業員には改めて健康経営に取り組む目的やPDCAする指標、各種施策の意図を説明・対話し、理解浸透を図るとともに、経営層とは課題認識や取り組みの進捗状況について定期的に共有・意見交換を行っています。健康投資管理会計ガイドラインに基づき当社の経営課題・健康指標を整理した健康経営戦略マップを策定し、健康経営を推進しています。



※健康投資管理会計ガイドラインに基づき当社の経営課題・健康指標を整理しています。

具体的な取り組み

【社内取り組み】

全社で健康経営を推進するにあたり、Glico健康経営宣言を制定し社内に周知し、健康の基本となる3つの側面（運動・栄養・睡眠）から、まずは自身の状態を理解し、必要な知識を身につけ、健康行動を実践・習慣化するというサイクルを繰り返していくという方針を定めています。

社員自身が、当社の存在意義（パーパス）である『すこやかな毎日、ゆたかな人生』を実現していることを目指しています。

<ヘルスリテラシー向上のための施策>

この方針に基づき、Glicoグループ全社共通で毎月健康テーマを設定し、それに基づき保健師が作成したマンスリー・ヘルス・ニュースを発刊し健康情報を届けています。

2024年度、2025年度実施内容

- 保健師が企画したラインケア・セルフケア研修を全社員向けに実施し、メンタルヘルスの正しい理解を持ってもらえるように努めるとともに、不調を感じたときには気軽に相談できる場があることを周知しています。それぞれの研修受講率 96.6%、97.2%となりました。
- 当社産業医による『ライフステージごとの女性の体調の変化、かかりやすい病気についてとその対策』について分かりやすく伝えるセミナーを全社員向けに実施し、受講率は2.5%となりました。
- 当社産業医と保健師、SUNAO冷凍パスタ開発担当の健康イノベーション事業部と共に「適正糖質※セミナー～血糖値を適正に保つための生活習慣について学びましょう～」を開催しました。血糖値上昇の仕組みや、血糖値の改善につながる食生活の見直し方、おいしさと適正糖質を両立するブランド「SUNAO（スナオ）」商品のこだわりを伝えるセミナーを全社員向けに実施しました。

※一般社団法人「食・楽・健康協会」は1食で摂取する糖質量を20～40g、間食では10g以下にする「適正糖質」を提唱しています。



<主体的な健康づくりの促進>

健康行動の実践と習慣化のために、日々の歩数や食事内容、睡眠の質・時間を記録できるヘルスケアアプリを導入しています。また、主体的な健康づくりを促進する従業員にインセンティブポイントを付与、年間の累計ポイント上位者を表彰する制度を設けています。これらの取組みを職場で周知し、従業員に健康づくりの知識やノウハウを伝え、指導する健康推進リーダーを配置しており、より高いヘルスリテラシーを身につけてもらうために、日本健康マスター検定の受検費用補助を行っています。（2023年3月時点：日本健康マスター検定取得者 ベーシック/300名、エキスパート/243名、普及認定講師/9名）

2024年度実施内容

全社でウォーキングイベントを実施しました。期間中の1日当たりの平均歩数8,000歩以上を目標としており、イベント期間中の平均歩数は1日あたり8,091歩を達成しました。期間中は昼休みや業務時間後を利用し、医療職による歩き方のコツのレクチャーや各地の健康推進リーダーが企画した”みんなと一緒に歩く、リアル体験会”、ウォーキング中の身近な風景を応募するフォトコンテストを実施しました。



<産業保健体制の拡充>

2023年から産業保健体制（常勤産業医3名・保健師10名体制）に向けて拡充・整備に取り組んでおり、社内の専門家が社員一人ひとりに寄り添った専門的なサポートを提供して予防・保健活動を推進しています。これにより、二次検査受診勧奨や健康診断後の事後措置や長時間勤務者対応、休職者支援を拡充させています。健康データプラットフォームを導入し、Glicoグループ全体の各種健康データの集約・一元管理を実現しました。今後、その統計分析を通して健康実態を明らかにし、注力施策へ反映させていきます。また、本社（大阪府大阪市）と品川オフィス（東京都港区）には「健康相談室」を設置し、産業医・保健師が常駐し、フィジカル・メンタル面での相談があれば、気軽に立ち寄れる相談室となっています。また、保健師専用のホットラインのメール窓口も設置し、いつでも・どこからでも守秘前提で相談できるルートも確保しています。これらの相談窓口では、自身の体調面や仕事の悩みの他、同僚やご家族（育児・介護）のことも相談可能としています。

<健康診断項目の見直しと保健指導の拡充>

最新のエビデンスと指針に基づき法定外健診項目の一部について実施年齢と実施頻度を見直し、未対策の重要な疾患領域に対して新規の項目を追加しました。また、事後措置としての保健指導対象者を拡充しました。これらを通して、健康管理の基本となる健康診断を通じた予防施策を強化しました。

<生産性やエンゲージメント改善・向上の施策>

医療費のような定量データに表れない組織の健康状態やプレゼンティーズムの把握を目的として「心理的安全性」と「信頼」にフォーカスした当社独自のアンケート調査を実施しています。法定のストレスチェックの集団分析結果と合わせて分析し、相互信頼・エンゲージメントを高め、イノベーションを起こしやすい組織風土を醸成するために職場風土・運営を改善するアクションを職場毎に策定しPDCAを実行しています。

<ダイバーシティ&インクルージョンの促進>

Glicoグループでは、従業員が多様な個性を引き出し合い、自身の能力や経験を生かして活躍することが、イノベティブなアイデアやチャレンジを生み出し、新しい価値の創出の鍵を握ると考え、ダイバーシティ&インクルージョンに真摯に取り組んでいます。

<就業時間中の喫煙禁止、卒煙支援の実施>

喫煙習慣は「循環器疾患」「呼吸器疾患」「がん」「歯周病」等さまざまな疾患のリスクを高めることが分かっており、喫煙習慣のない家族や他の従業員、取引先等関係者の皆様に二次喫煙（受動喫煙）や三次喫煙のリスクが懸念されることから、2019年1月より就業時間中の喫煙禁止を就業ルールに決めました。2025年度は卒煙に興味がある方が無理なく参加できるよう、卒煙体験コースから完全卒煙コースまで4つのレベルで開催しています。参加者には禁煙補助薬の無償提供や、チャレンジ期間中の医療職によるコンディションチェックや相談会等を実施し、「卒煙」に取り組む方を全力でサポートしています。

<健康づくりとパフォーマンス向上のためのメニュー提供の実施>

継続的な日々のパフォーマンス（生産性）向上をコンセプトに本社の食堂を運営しています。生活習慣病予防を考慮したメニューや地産地消野菜の利用、化学調味料不使用の出汁を使い「糖質・集中力・ストレス・疲労・減塩」をテーマとした5種類の定食とカレーを日替わりで楽しむことができます。自社製品を使ったメニュー提供や、健康サポートイベントも開催しており、パフォーマンス向上のベースとなる健康づくりに役立っています。

また、当社の健康経営を社外にも広めるため法人向けのお弁当宅配サービス『SUNAOデリバリー』を始めており、本社の食堂で作ったお弁当を提供しています。



2024年度実施内容

本社食堂にて、健康イベント（野菜摂取量と血管年齢の測定実施）を行い、318名が参加しました。栄養士によるアドバイスを実施したほか、イベント期間中は食物繊維やビタミンが豊富なメニューを提供しました。2025年度は本社以外にも全国の拠点で実施する予定です。



【対外取り組み】

Glicoグループでは、お客様の「すこやかな毎日、ゆたかな人生」の実現をサポートするため、「適正糖質」※に関する健康啓発活動やレシピの開発を行い、収録した冊子を医療施設などで配布しています。また、タンサ（短鎖）脂肪酸についてより多くの方に知っていただくためのイベントの実施や、健康な生活習慣づくりをサポートするプロジェクト「GOOD LIFE CIRCLE」を新たに始めました。

※一般社団法人「食・楽・健康協会」は1食で摂取する糖質量を20～40g、間食では10g以下にする「適正糖質」を提唱しています。

■大阪府の府庁食堂にて「適正糖質」が体験できるメニューの販売 ■道頓堀グリコサインにて糖尿病に関する情報発信



■体験型食育イベント「食育ワクワクEXPO in 無印良品 グランフロント大阪」への参加



他にも、オフィスグリコのサービスを導入いただいている企業様の健康経営サポートとして、健康づくりの基礎的なポイントを知っていただくための健康セミナーも実施しています。また、自社を超えた健康増進に関する取り組みとして、取引先における安全衛生や健康経営等の取り組みについてセルフ・アセスメントしていただく調査票への回答をお願いし、サプライチェーン全体の健康増進に対する取り組み状況の把握に努めています。また、取引先の健康課題や要望に基づいて健康増進施策を共同で実施するなど、自社を超えて社会の健康に寄与できる取り組みを展開しています。

社会からの評価

『健康経営優良法人2025 (大規模法人部門) ホワイト500』に5年連続認定

2018年より本格的に推進してきた健康経営の取り組みが評価され、江崎グリコが2021年から引き続き5年連続で経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人 ホワイト500」に認定されました。



『スポーツエールカンパニー』に5年連続認定

ウォーキングウォーキングイベントやオンラインヨガ教室の定期開催に加え、1週間に1時間以上の運動を行うサークルの活動を支援していることが評価され、江崎グリコ株式会社が2021年から引き続き5年連続認定されました。さらに、5回以上の認定のため、「ブロンズ認定」を取得しました。また、グループ会社のグリコマニュファクチャリングジャパン株式会社、グリコチャンネルクリエイティブ株式会社、グリコ栄養食品株式会社、中部グリコ栄食株式会社、関西フローズン株式会社についてもスポーツ庁より認定されました。



健康経営データ集

※健康投資管理会計ガイドラインに基づき当社の経営課題・健康指標を整理しました。

		2021/10	2022/10	2023/10	2024/10	2025/10 目標		
アウトカム (最終指標)	主観指標	プレゼンティーズム (%) ※1	25.0	25.0	21.9	20.8%		
		アブゼンティーズム (日) ※2	1.35	0.89	1.24	1.86		
		エンゲージメント ※3	51	50	50	52		
	客観指標	健康経営度調査ランキング(位)	101-150	1-50	101-150	251-300	151-200	
		健診受診率 (%)	100	100	100	100	100	
		喫煙率 (%)	19.0	12.4	13.65		10.0	
		二次検査受診率 (%)	26.7	61.3	92.2			
		特定保健指導実施率 (%)	-	76.0	79.2			
		有所見者 (%) 血圧		8.7	8.7	7.6		7.0
			血糖	7.7	7.7	7.6		7.0
			脂質 (LDL)	14.9	14.9	12.9		12.0
		適正体重保持率 (%)	-	75.6	75.2			
		運動習慣良好率 (%)	-	45.6	53.0	53.7		
		平均歩数(歩)	5,094	5,346	6,587	6,906		
		ストレスチェック受検率 (%)	単体での算出なし	単体での算出なし	94.9	98.7		
		高ストレス判定者率 (%)	単体での算出なし	単体での算出なし	8.1	8.7		
		有休消化率 (%)	70.9	73.5	71.7	73.2		
傷病による退職者数 (人)	39	28	35	30				
アウトプット (中間指標)	DAU (%) ※4	37.0	37.0	31.8	21.5			
	ウォーキングイベント参加率 (%)	39.8	35.8	40.6	31.3			

※1 SPQ (Single-Item Presenteeism Question 東大1項目版) にて算出

※江崎グリコの数値

※2 (保存休暇使用日数+欠勤日数+休職日数(特別休職日数含む))/全社員数にて算出

※3 2023年度以前の数値はユトレヒト・ワーク・エンゲージメント尺度をベースにしたサーベイにて算出(点数)

2024年度以降の数値はストレスチェックのワーク・エンゲージメントの数値(偏差値)

※4 当社が導入しているヘルスケアアプリに1日に1回以上利用している人の割合を算出

考え方

グループ安全衛生方針

Glicoグループでは、「Glicoグループ安全衛生方針」（2018年4月SCM本部制定）のもと、事業所ごとに安全衛生委員会を設置し、労働安全衛生の各種活動に取り組んでいます。2018年から「機械設備の安全化」と「安全キーパーソンの育成」を注力課題に掲げ、Glicoグループ生産部門の共通取り組みとして、SCM本部・グリコマニュファクチャリングジャパン各工場が協働して推進しています。

取り組み

機械設備の安全化

リスクアセスメントの手法をもとに現在、機械設備への「挟まれ・巻き込まれ事故ゼロ」を目標に、リスク・ハザードの特定と評価ならびに設備ハード面へのアプローチを重視した安全対策を徹底して進めています。また、工場へ新設備を導入する際のリスクアセスメント・安全審査も2019年に再整備を行い、強化しています。

安全キーパーソンの育成

中央労働災害防止協会と連携し、リスクアセスメントおよび危険予知トレーニング（KYT）に関する講習会、2023年の安全法令改正で義務化された職長教育の受講など、工場現場において安全衛生活動の核となるキーパーソンの育成を進めています。労働安全衛生の教育体系を整備し、必要な安全衛生教育や講習に体系的かつ計画的に取り組んでいます。

労働災害の防止

Glicoグループの製造現場では、安全・衛生活動を徹底し、安全・安心な職場づくりに努めています。朝礼等での安全呼称、KY（危険予知）活動、5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）活動を通じて従業員の怪我を防止し、安全で明るく健康的な職場を目指しています。2020年度～2024年度は、いずれも生命に関わる重大事故は発生しておらず、労働災害による死亡者数は0名です。

セールス部門における交通安全取り組み

セールス活動の移動手段である営業車の事故防止にも取り組んでいます。自動ブレーキ・コーナーセンサー等の安全装置の充実した車両の導入、ドライブレコーダー搭載といったハード面のほか、運転中に電話に出ないよう携帯電話の「運転集中モード」の設定義務化、乗車前・乗車後のアルコールチェック、安全運転コンクールの実施、新入社員のドライバーズ講習義務化や運転に特化したOJT等、安全運転教育にも重点的に取り組んでいます。

AED導入

職場での急な心停止といった事態に備え、AED（自動対外式除細動器）の導入を進めています。本社、大阪梅田オフィス、品川オフィス、各統括支店、グリコマニュファクチャリングジャパン全工場に設置しました。

運動機能の維持・向上を目的とした運動啓発

日本国内の少子高齢化に伴い、工場契約従業員の平均年齢も上昇傾向にあることから、運動機能の維持・向上を目的として、主に下肢機能の定期測定、並びに機能低下を予防するための運動啓発を2019年よりスタートしました。健康で生き活きと働くことができる安全な職場環境づくりに今後も継続して取り組みます。

考え方

Glicoグループ人権方針の策定・プロセス

Glicoグループでは、事業を展開する上で、役職員のみならず、全てのステークホルダーの人権を尊重することが重要であると考えています。

この考えの下、Glicoグループはこれまでも「Glicoグループ行動規範」に基づき人権を守る活動を行ってきましたが、この度、その考えをさらに進めて、グローバルスタンダードである2011年の国連人権理事会で承認された「ビジネスと人権に関する指導原則」に則した「Glicoグループ人権方針」を策定し、これに準拠した人権尊重を進めることにしました。

「Glicoグループ人権方針」は、2019年8月にグループ内に横断的なプロジェクトチームを発足させ、各担当部門がグローバル企業に求められる広範な人権課題への理解を深め検討を行う一方で、グループ外の専門家からもアドバイスをいただきながら、グローバル企業としての責任を果たすべき指針として策定されました。

本方針に基づき、役職員のみならず、全てのステークホルダーの人権を尊重するために、Glicoグループでは、サプライヤー等のビジネスパートナーを含むバリューチェーンの皆さまにも「Glicoグループ人権方針」への理解と支持を求めています。

Glicoグループ人権方針

Glicoグループはグローバルに事業を展開するうえで、役職員（※）のみならず、全てのステークホルダーの人権を尊重することが重要であると考えています。こうした考えに基づき、この「Glicoグループ人権方針」において基本的人権の尊重に関するGlicoグループの取り組み方針を定め、役職員によって遵守してまいります。併せて、「Glicoグループ行動規範」の中でも、役職員一人ひとりが基本的人権を尊重することを宣言しています。

さらに、Glicoグループとして、サプライヤー等のビジネスパートナーを含むバリューチェーンの皆様にも本方針への理解と支持を求めていくものです。

これをもって、持続可能な社会を実現するための模範となるよう、取り組めます。

※本方針において「役職員」とは、Glicoグループの取締役、監査役、執行役員および従業員（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト社員を含む）を意味します。

1. 人権の尊重

1) Glicoグループは、「国際人権章典（世界人権宣言と国際人権規約）」「労働における基本原則及び権利に関するILO宣言」といった人権に関する国際規範や「ビジネスと人権に関する指導原則」を支持します。また、Glicoグループの親会社である江崎グリコ株式会社は、国連グローバル・コンパクトに署名をしており、Glicoグループ全体でその10原則を支持しています。

2) Glicoグループは、事業活動を行う全ての国・地域において、自らの活動に関連する法令・ルールを理解し、これらを遵守します。万が一、同国または同地域の法規制が国際的な人権規範と一致しない場合、相反する場合、或いは同国または同地域において人権に関する法規制が存在しない場合は、国際的な人権の原則を尊重するための方法を追求します。

2. 事業活動に関わる重要領域

1) Glicoグループは、自身による研究開発・調達・商品やサービスの提供をはじめとする全ての事業活動が、潜在的にまたは実際に人権へ影響を及ぼす可能性のあることを認識しています。

2) Glicoグループは、事業活動に関連する以下の取り組みが、人権尊重の重要な要素であると認識し、同取り組みを推進し実行していきます。なお、これらの取り組みは、Glicoグループの事業活動が大きな影響力を持つ領域から推進します。

(a) 労働における基本原則および権利に反する「強制労働」および「児童労働」を容認せず、これらを利用しません。

(b) 年齢、性別、性的指向、性自認、性表現、障がいの有無、信条、人種、国籍、民族、宗教および社会的身分その他の状況を理由とする差別を行いません。

(c) 各国・各地域で働く一人ひとりが多様な個性や能力を発揮し成長することができるよう、適正な労働環境の確保に努めます。

(d) 各国・地域の法規制等に基づく結社の自由と団体交渉権等について労働者の権利を尊重します。

3. 人権デューデリジェンスの実施

1) Glicoグループは、自らによって、またはサプライヤー等のビジネスパートナーを含むバリューチェーンにおいて、人権侵害を起こさず、また人権侵害を助長しないように努めます。加えて、国連が定める「ビジネスと人権に関する指導原則」に従って、その事業活動に関係する人権への負の影響を特定し予防または軽減を目的とした検証を継続的にを行います。

2) Glicoグループまたはバリューチェーンにおいて人権侵害を引き起こした場合、または、それを助長したことが明らかになった場合に、適切かつ効果的な救済措置を講じ、どのように対処したかを伝えるプロセスの構築に取り組みます。

3) Glicoグループは、自身の事業活動が実際にまたは潜在的に及ぼす人権への負の影響について、関連するステークホルダーを認識し、人権への影響に適切に対応していくために、ステークホルダーからの視点が必要であることを考えています。Glicoグループは、ステークホルダーの皆様の意見に誠意をもって耳を傾け、適切なタイミングで事業活動に関連する人権課題を共有していきます。

4. お問い合わせ窓口

1) Glicoグループでは、其々の国や地域の法令・ルールまたはGlicoグループ人権方針をはじめとするグループ内規程に違反する可能性を認識した役職員やそれを疑う役職員が、不利益を被る危険を恐れることなく会社に真摯な懸念を伝えることのできる内部通報窓口の重要性を認識しております。その一環として、Glicoコンプライアンスホットラインのグローバルでの設置を進めており、人権に関係する報告や内部通報を行った役職員に対して如何なる不利益な取扱いも行いません。

2) Glicoグループでは、お客様をはじめとする外部のステークホルダーの方々からのご指摘や助言に対し、人権の問題に関するお問い合わせ窓口を設置し、それらを真摯に受けとめ、人権問題への取り組みをはじめとする事業活動の向上に生かします。

5. 啓発活動

Glicoグループは、人権に関する各項目につき、役職員の意識を向上させるための啓発を行います。また、ビジネスパートナーにも同様の啓発を期待します。

6. モニタリングと報告

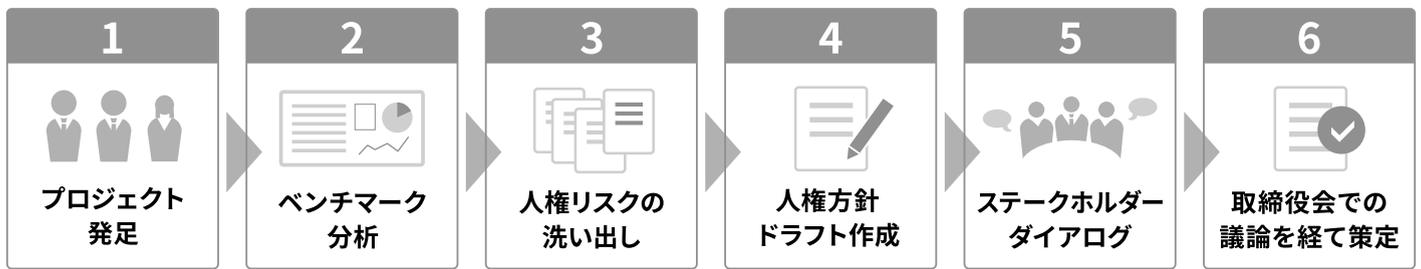
Glicoグループは、このGlicoグループ人権方針の遵守状況を継続的にモニタリングし、必要に応じて、遵守状況の改善に努めます。Glicoグループは、モニタリングにより特定された問題やそれへの対応等、必要な情報は、WEBサイトやCSR報告書等を通じて、定期的の開示をしていきます。

7. 責任者

このGlicoグループ人権方針におけるコミットメントの実現およびそれに向けた取り組みに関するGlicoグループでの監督責任は、江崎グリコ株式会社の代表取締役社長が担います。

制定 2020年7月

改訂 2023年9月



①プロジェクト発足

2019年8月にグループ内に、グローバルで横断的なプロジェクトチームのメンバーによる人権方針策定プロジェクトを発足しました。



②ベンチマーク分析

専門家のアドバイスを得ながら、国内外の先行企業の人権への取り組み状況を確認し、取り組むべき事例等の理解を深めました。



③人権リスクの洗い出し

専門家のアドバイスを得ながら、製造業に関連し、かつGlicoグループが事業や調達を行う地域で想定される人権上のリスクの洗い出しました。



④人権方針ドラフト作成

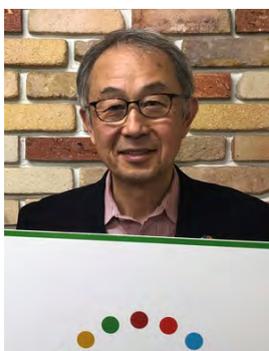
「指導原則」他に準拠し、各事業に照らし対処すべき人権課題や長期的な取り組みへのコミット等を盛り込んだ人権方針のドラフトを作成しました。



⑤ステークホルダーダイアログ

人権課題への取り組みに関わる有識者とプロジェクトメンバーでダイアログを行い、人権方針についてアドバイスをいただき、本方針に取り入れました。フィードバックは以下の通りです。有識者とは継続的に対話を通じた関係を構築予定です。

<ご意見をいただいたステークホルダー>



認定NPO法人国際協力NGOセンター (JANIC) 事務局長
グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事
若林 秀樹 氏



認定NPO法人ACE事務局長／共同創業者
白木 朋子 氏

項目	主なフィードバック
0. 前文	<ul style="list-style-type: none"> ・過去をなぞるだけでなく未来を見据えて、新たなチャレンジがあると良い。 ・事業活動に限らず、人権侵害のない持続可能な社会構築に貢献する旨を宣言することを推奨する。
3. 人権デューデリジェンスの実施	人権デューデリジェンスの目的は、人権方針策定から、モニタリング、救済、ステークホルダー・エンゲージメント、開示までを含めた一連の継続的な取り組みである。表現を工夫すべきである。
4. お問い合わせ窓口	社内外のステークホルダーから人権侵害を通報できる仕組みを構築するのみならず、情報開示まで行うことが重要である。
5. 啓発活動	啓発活動においては、役職員一人一人が人権課題の危険性を理解し、自ら行動を起こせるようになるのが重要である。



2020年4月人権課題への取り組みに関わる有識者とプロジェクトメンバーとのテレビ会議を通じたダイアログを実施



⑥取締役会での議論を経て策定

「指導原則」に準拠し、取締役会での議論を経て、策定しました。

取り組み

従業員の人権を守るための取り組み

Glicoグループの役員・従業員一人ひとりによる法令違反や社内規程への違反行為の未然防止と早期発見を目的として、「Glicoコンプライアンスホットライン」を設けています。違反またはその疑いを発見した者は、自身が不利益を被る危険を懸念することなく会社に通報することができます。通報に対しては、経営陣から独立した調査機関が調査・対応します。実名通報、匿名通報、半匿名通報の3つのパターンがあり、Glicoグループにおけるパート・アルバイト等を含む全ての役員・従業員が利用可能です。

人権に関する社内啓発

Glicoグループ全従業員を対象に、「人権」に関するグローバルスタンダードや基礎知識を習得し、「Glicoグループ人権方針」への理解をより深め、実践に移していただくことを目的とした人権eラーニングを実施しています。

人権に配慮した原材料の調達

グローバルに事業活動を行うGlicoグループでは、GlicoグループのCSRの考え方にに基づき、「バリューチェーンを通じて、人権尊重・腐敗防止・競争法等を遵守することにより、付加価値の高い事業活動を推進する」ことを目標に掲げ、人権に配慮した調達を推進しています。

考え方

公正取引基本方針

グローバルに事業活動を行うGlicoグループでは、GlicoグループのCSRの考え方に基づき、「バリューチェーンを通じて、人権尊重・腐敗防止・競争法等を遵守することにより、付加価値の高い事業活動を推進する」ことを目標に掲げています。それを実現するため、ISO26000および国連グローバル・コンパクトをもとにGlicoグループが公正取引において配慮すべき課題を明確にしたうえで、「Glicoグループ公正取引基本方針」を策定し、2019年4月に発効しました。

Glicoグループ公正取引基本方針

私たちは、当社グループのみならず、バリューチェーンにおいて、各国法令を遵守するとともに以下事項の実現を目指すことにより、高い倫理観に基づく持続的で付加価値の高いグローバルな事業活動を推進します。

1. 労働における基本的原則及び権利に反する「強制労働」及び「児童労働」、「雇用及び職業における差別」を排除・撤廃すること。
2. 公務員や政治家はもちろんのこと、ビジネスパートナーとの適切な関係を保ち、また、役職員による利益相反取引を避ける等、あらゆる形態での腐敗を防止すること。
3. カルテル、談合等の自由な競争を阻害するあらゆる行為に関与せず、お客様へ安心・安全で質の高い商品やサービスを提供することを第一に、市場にて適切な競争を行うこと。
4. 資産の有形・無形を問わず、第三者が保有する正当な財産権を尊重した活動を行うこと。
5. 上記各項目につき、関係者との間で互いに意識を向上させ、以って、問題発生の未然防止と顕在化した問題への迅速で適切な対応を実現すること。

調達方針

Glicoグループは、事業を通じて社会に貢献し続けるために「Glicoグループ行動規範」を定めています。また、さらなる企業価値向上と社会課題解決への取り組みを推進するため、2019年11月に国連グローバル・コンパクトに署名しました。これを受けて、2016年3月に制定した「購買基本方針」を見直し、グローバルイニシアティブに準拠した新たな方針として「Glicoグループ調達方針」を定めました。

Glicoグループの調達活動においては、本方針を遵守し、お取引先様等のビジネスパートナーを含むバリューチェーンの皆様にも理解と支持を求めています。

Glicoグループ調達方針

Glicoグループは、お客様へ安全・安心な商品・サービスを提供するために、法令を遵守し、公正かつ透明性をもった高い倫理観により、お取引先様とともに国連グローバル・コンパクトの定める「人権」・「労働基準」・「環境」・「腐敗防止」の4分野10の原則に配慮した調達活動を実施することを目的として、本方針を制定します。

1. 私たちは、「Glicoグループ公正取引基本方針」に準拠し、関係各国の法令のもと公正・公平で透明な調達活動を実施します。お取引先様とは適切な関係を保ち、互恵取引等、あらゆる形態での腐敗を防止します。
2. 私たちは、「Glicoグループ人権方針」に準拠し、人権に関する国際規範を支持・尊重した上で、強制労働、児童労働、あらゆる差別等の人権侵害を排除した調達活動を推進します。
3. 私たちは、「Glicoグループ環境方針」に準拠し、環境に配慮し、持続可能な社会の実現に向けた調達活動を実施します。
4. 私たちは、「Glicoグループ品質方針」に準拠し、お客様にとっての「おいしさと健康」に繋がる高品質な原材料の探索と確保に向けて、品質最優先の調達活動を実施します。
5. 私たちは、品質をはじめとする調達対象の価値を適正に評価し、納期、安定供給などを加えた総合的な判断により、お取引先様の選定を行います。お取引先様に対し、公正・公平な参入機会を提供し、サプライチェーン全体での多様性を尊重します。
6. 私たちは、購買取引を通じて知り得たお取引先様の機密情報を守秘します。また第三者の知的財産権などの権利を侵害しません。

江崎グリコ株式会社
SCM本部長

制定 2020年12月
改訂 2023年 1月

お取引先様向け調達ガイドライン

Glicoグループは、「Glicoグループ調達方針」を遵守した調達活動を推進しております。つきましては、お取引先様におかれましては下記調達ガイドライン項目を実行いただけますようお願いいたします。

お取引先様向け調達ガイドライン

Glicoグループは、調達活動の中で国連グローバル・コンパクトの定める「人権」「労働基準」「環境」「腐敗防止」の4分野10の原則を支持、実践することで企業価値を高め、お取引先様と協働で社会へ貢献してまいります。全ての取引先様は当ガイドラインを貴社内で周知いただき、遵守に向けた取り組みをお願いいたします。

1. 内部統制や専任のCSR推進体制の整備等によりコーポレートガバナンスが確立できていること。
2. 人権に関する主な国際的枠組み及び規範^{※1}を遵守しており、いかなる差別や人権侵害を禁止していること。
3. 労働に関する主な国際的枠組み及び規範^{※2}を遵守しており、「適正な賃金・労働時間」「非人道的な扱い」「強制労働」「児童労働」「不法労働」等を認めないことにより、労働者に安全で健全な労働環境を整えていること。また、従業員の心身の健康の把握・管理を適切に行うこと。
4. 環境に関する主な国際的枠組み及び規範^{※3}を遵守しており、持続可能な社会の実現に向けて「温室効果ガスの削減」「資源エネルギーの効率的活用」「廃棄物の削減」「水の有効利用」「森林破壊の抑止」「生物多様性の尊重」「動物福祉」等に取り組んでいること。また、環境マネジメントシステムを構築・運用していること。
5. 公正な企業活動に関する主な国際的枠組み及び規範^{※4}を遵守しており、「反社会的勢力との関係排除」「あらゆる形態での腐敗防止」「不正取引防止」等に取り組んでいること。また、お取引先様に対し、公正・公平な参入機会を提供し、サプライチェーン全体での多様性を尊重していること。
6. 品質・安全性に関する主な国際的枠組み及び規範^{※5}を遵守しており、原材料、輸送の品質及び安全性を確保していること。また、研究開発・マーケティングは責任をもって実施され、事業継続計画(BCP)を整備とあわせて、製品の安定供給に対する措置を用意すること。
7. 事業活動を通じて得た情報を適切に管理・保護し、コンピュータ・ネットワーク上の脅威に対する防御策を講じていること。また機密情報や個人情報も適正に管理すること。
8. 貴社のみならずサプライチェーンを通してCSR調達を実践し、社会的責任を果たすこと。
9. 地域社会との取り組みにより持続可能な社会の発展に取り組んでいること。

※1 国連グローバル・コンパクトの10原則、世界人権宣言等

※2 国連グローバル・コンパクトの10原則、ILO中核的労働基準等

※3 国連グローバル・コンパクトの10原則、パリ協定等

※4 国連グローバル・コンパクトの10原則、腐敗防止に関する国連条約等

※5 ISO90001、HACCP等

制定 2020年12月

取り組み

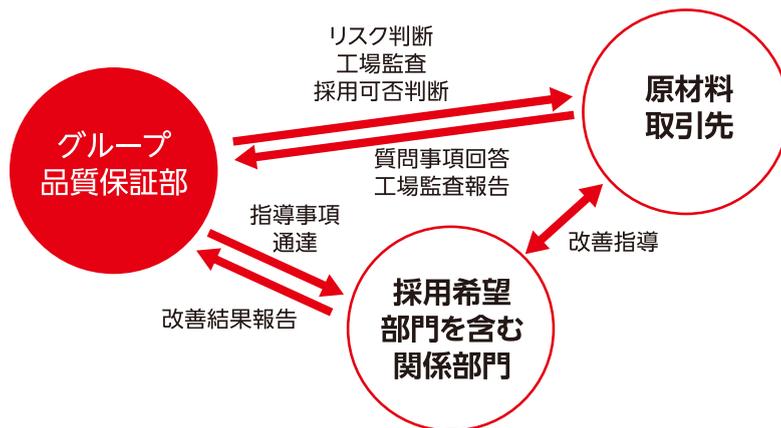
公正・公平な取引の徹底

Glicoグループのパートナーとしてともに歩んでいただく取引先に対し、Glicoグループが目指す高い倫理観に基づく持続的で付加価値の高いグローバルな事業活動に賛同していただくため、Glicoグループが適切と考える条件を取り決めた「取引基本契約書」を締結し、これに基づく取引を行っています。Glicoグループでは、公正な評価・選定や公平な競争機会を基盤に、国内外の法令に則った公正・公平な取引を行うとともに、取引先との信頼関係の強化に努めています。

安全・安心管理の徹底

グループ品質保証部が中心となり、取引を希望する部門と取引先を連携し、サプライチェーン全体で安全・安心な調達を実現する体制を整えています。

安全・安心管理体制図



取引先との管理システムの共有

「製品情報システム」や「原料納入規格書システム」といった品質管理に関わるシステムの表記統一を図るとともに、今後は、「品質管理プログラム」に統合し、一貫した品質管理体制を構築することを目指しています。また、取引先と協力し、トレーサビリティのデジタル化に取り組んでいます。2019年4月までに取引先から納品される原材料へのバーコードラベルの貼付を必須化しました。さらにバーコードラベルのQRコードへの切り替えも完了しており、引き続きトレーサビリティ向上への取り組みを推進していきます。

コンプライアンス

Glicoグループは、自社はもちろん、取引先に対しても事業活動を行っている国・地域の法令遵守と倫理的行動を求めています。

独禁法の遵守

「独禁法遵守ポリシー」を策定し、国内外のGlicoグループ各社において独禁法教育を実施しています。グループ調達部等を通じて取引先にも遵法活動を求めています。

贈収賄防止の取り組み

「公正取引基本方針」に基づいて公人・役人・取引相手との金品の授受による不適切な取引や癒着を排除するため、国内外のGlicoグループ各社において、適切な贈収賄防止規程を整備し、従業員教育を実施しています。

CSR調達

Glicoグループでは、環境や人権に配慮して事業活動を行う取引先からの調達を推進しています。

<持続可能な調達に関するコミットメント>

カカオの調達について

Glicoグループは、「Glicoグループ調達方針」に基づき、カカオの調達について以下の通りコミットします。

【コミットメント】

Glicoグループは、カカオが抱えている社会課題（児童労働、農家の貧困、森林伐採など）に配慮し、持続可能な方法で生産されたカカオの調達を推進します。

【主な取り組み】

- Glicoグループは、2021-2022年クロープ以降、購入ルートを通じて生産者に支援を行っているカカオ豆の購入率を100%としています。
- そのうちガーナでGlicoがカカオ豆を購入しているAssin South郡の村において以下4つの現地支援プログラムを独自で実行します。
 1. Child Labor Free Zone（CLFZ）認定要件に準じた児童労働予防・改善の仕組みを構築します。
 2. 現在学校に通えていない子供たちが学校に通える環境を整備します。
 3. 基礎インフラを整備するための支援を継続的に行い、人々のより良い生活の実現を目指します。
 4. 肥料提供・営農指導を継続的に行い、農家の生産性と収入の向上を目指します。
- カカオの調達における取り組みについては、CSRレポート上で適宜報告します。

制定 2022年4月

改定 2024年8月

パーム油の調達について

Glicoグループは、「Glicoグループ調達方針」に基づき、パーム油の調達について以下の通りコミットします。

【コミットメント】

Glicoグループは、パーム油が抱えている社会課題（環境破壊、農園労働者の人権問題、先住民の土地強奪や紛争、泥炭地開発など）に配慮し、持続可能な方法で生産されたパーム油の調達を推進します。

【主な取り組み】

- 第三者認証団体への加盟
当社は2019年度にRSPO※に加盟しました。RSPO認証を受けたパーム油の購入を推進するとともに、社内関連部門によりRSPOサプライチェーン認証を取得することで、持続的な調達に取り組みます。
- 第三者認証パーム油の使用
ポッキーとビスコについては2021年にRSPO認証油（Mass Balanceモデル）の使用をすでに開始しており、2025年末までにグループ会社で生産する全ての商品に同モデルを展開します。
- パーム油の調達における取り組みについては、CSRレポート上で適宜報告します。

※ RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil 持続可能なパーム油のための円卓会議）

制定 2022年4月

プラスチックの調達について

Glicoグループは、「Glicoグループ調達方針」に基づき、プラスチックの調達について以下の通りコミットします。

【コミットメント】

Glicoグループは、資源循環社会の実現のため、容器包装材の減量化をはじめ、環境負荷の少ない素材やリサイクル処理しやすい包材の採用など、4R※の実行により環境に配慮したプラスチックの調達を推進します。

【主な取り組み】

- 「Glicoグループ環境ビジョン2050」に則り、2024年末までに1WAY（石化由来）プラスチックを25%削減（2017年比）、2030年末までに100%リサイクル可能素材への転換、2050年末までに100%リサイクル原料の使用を目指します。
- すでに製品付属のストローや「セブンティーンアイス」のスティックの一部をバイオマスプラスチックに転換するなど、環境配慮型素材の導入を進めています。
- プラスチックの調達における取り組みについては、CSRレポート上で適宜報告します。

※ 4R（Reduce=削減、Reuse=再使用、Recycle=再生利用、Replace=置換）

制定 2022年4月

紙の調達について

Glicoグループは、「Glicoグループ調達方針」に基づき、紙の調達について以下の通りコミットします。

【コミットメント】

Glicoグループは持続可能な森林活用・保全のため、紙の使用量削減や第三者認証紙への置換など、4R※1の実行により環境に配慮した紙の調達を推進します。

【主な取り組み】

- 「Glicoグループ環境ビジョン2050」に則り、2030年末までに森林認証紙（FSC※2やPEFC※3など）への100%切り替えを目指します。
- 社内ペーパーレス化の推進により、2017年から2020年にかけて約80%（36トン相当）のコピー用紙を削減しました。会社案内、製品パンフレットもすでにペーパーレス化しております。
- 紙の調達における取り組みについては、CSRレポート上で適宜報告します。

※1 4R（Reduce=削減、Reuse=再使用、Recycle=再生利用、Replace=置換）

※2 FSC（Forest Stewardship Council=森林管理協議会）

※3 PEFC（Programme for the Endorsement of Forest Certification Schemes =森林認証プログラム）

制定 2022年4月

環境や人権に配慮した原材料の調達

安全・安心はもちろん、環境や人権にも配慮した調達を推進しています。

カカオ豆調達の取り組み

購入ルートを通じて農家に対する支援を行っているカカオ豆の調達を推進しています。2021年の購入分より、当該カカオ豆の調達比率は100%となっています。さらに、2022年に「カカオの調達について」のコミットメントを発表するとともに、以下の活動を行いました。

● 1) 児童労働予防・改善の取り組み

2023年に引き続き、ガーナAssin Fosu地区認定NPO法人ACEと連携して以下の取り組みを行いました。

1. 対象16村（2023年までは対象15村としておりましたが、対象村の児童が通学する学校のある隣接1村でも活動が不可欠であると判断し、同村への支援も活動に追加しました）において実施した基礎調査の結果を踏まえ、特に児童労働のリスクが高いと判断された4村へのフォローアップを継続するとともに、同エリア内の新たな4村を加えてガーナ政府の「児童労働フリーゾーン(CLFZ)」ガイドラインに基づき、児童労働を予防・是正する仕組みの構築を進めました。各村にて啓発ワークショップや世帯登録を実施するとともに、村の住民から構成される子ども保護委員会（CCPC）を設置してモニタリングを実施しました。これらの活動を通じて、児童労働を含むリスクのある子ども157人を特定し、そのうち一部の貧困家庭の子どもに学用品の無償支給などの是正措置を提供しました。
2. 対象村を管轄する自治体（郡）の行政関係者やカカオ購買企業、NGO等を対象としたセミナーを開催し、経験共有と能力強化を図るとともに、連携に向けた協議を行いました。また、郡の社会福祉や教育の関係機関と、コミュニティ支援のための連携体制の強化を図りました。



プロジェクトで学用品を受け取った子どもたち

● 2) カカオ生産者・コミュニティの支援

コミットメントに基づき、ガーナのAssin Fosu地区で立花商店と連携し、2024年に自社独自の取り組みとして以下を行いました。

1. 生産者コミュニティへの井戸とポンプの提供（2024年度1基、1村/累計3基、2村）
2. 生産者への選定トレーニングの提供（16村）
3. 生産者へのバイオ炭（土壌改良剤）生産トレーニング及び必要機材の提供（16村）
4. 生産者からの買い取り価格上乘せ

● 3) 業界の取り組みとの連携

2022年より業界の活動と連携する取り組みを開始しました。

1. 開発途上国におけるサステイナブル・カカオ・プラットフォームへの参加（独立行政法人 国際協力機構（JICA）主催）
2. 「児童労働の撤廃に向けたセクター別アクション」賛同（同プラットフォームの「児童労働分科会」策定）



コミュニティに提供した井戸（左）・バイオ炭生産トレーニングの様子（右）

パーム油調達への取り組み

2019年にRSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil持続可能なパーム油のための円卓会議）に加盟し、RSPO認証を受けたパーム油の購入を推進しています。2025年末までに国内および海外のGlicoグループ工場で生産する商品に使用しているパーム油脂使用原料は全て同認証を受けたものとなる予定です。

	2021年度	2022年度	2023年度
RSPO認証パーム油の割合（%）※	8	33	36

※国内および海外のGlicoグループの工場調達する油脂原料に占める認証パーム油の割合

コーヒー豆調達への取り組み

コーヒー豆の生産地におけるサプライチェーンの環境・社会の持続性に対する配慮から、第三者認証を取得した指定農園・指定生産者団体から調達しています。

1. ブラジルの農園では、自然環境に関する教育や自然保護活動を通じて、自然の重要性を伝えるプログラムを実施しています。
2. ベトナムの農園では、コーヒーの木へのダメージを軽減させる為にシェードツリー（直射日光を防ぐための背の高い樹木）を植えています。これにより土壌の乾燥を防ぎ、灌漑（かんがい）用水の使用量の削減につながっています。



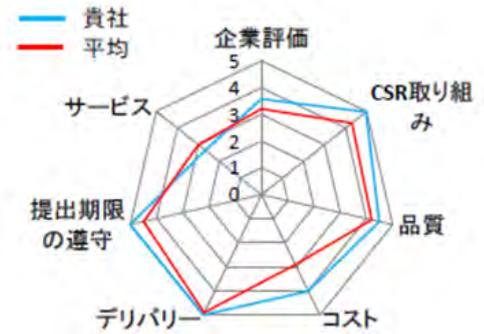
ブラジルでの植樹プロジェクト

取引先の評価

公正・公平な取引に対する取引先の評価

江崎グリコでは、「Glicoグループ調達方針」に沿って公正・公平な取引が行われているかを確認・検証するために、年1回、調達部門による自己評価、および取引先による調達部門への評価を実施しています。

新規取引先の選定にあたっては、経営、CSRへの取り組み、品質、コスト、納期、サービス等について評価し、最適な取引先を選定しています。既存の取引先に対しても、年1回、同項目について取引先およびGlicoグループが公正・公平に評価を行っています。



取引先調査の結果例

取引先とのコミュニケーション

Glicoグループでは、「お取引先様向け調達ガイドライン」の周知・徹底を図るとともに、Webツールを活用した説明会実施等のコミュニケーションを通じて取引先とのパートナーシップを強化しています。



江崎グリコ「お取引先説明会」の様子

地域貢献

考え方

Glicoグループは事業活動を通じて、人々の健康増進への貢献と、経済・福祉・文化の発展に努めています。さらに、事業拠点等の地域住民・自治体との対話により課題やニーズを適切に把握し、経済・福祉・文化面の社会活動支援、事業活動で培った知見や技術を活用した教育支援、を通じて、地域社会の課題解決を目指しています。

人々の健康への貢献

「すこやかな毎日、ゆたかな人生」を存在意義（パーパス）に掲げる食品企業として、Glicoグループが持つ資源の他、外部の知見も取り入れ、健康づくりに寄与するさまざまな活動を展開しています。

スポーツを通じた、子どもたちのすこやかな成長支援

アスリートによるキッズスポーツ教室

所属アスリートと共に、スポーツを通じて子どもたちのすこやかな成長に寄り添い、ココロとカラダの健康づくりをサポートする活動に取り組んでいます。近年では、プロゴルファー西智子選手によるキッズゴルフ教室を開催し、地域の子どもたちへゴルフ（スポーツ）の楽しさを知ってもらい、子どもたちの成長の支援を実施しました。



キッズゴルフ教室に参加した子どもたち

「TAKUMA KIDS KART CHALLENGE」

一人でも多くの子どもたちに、「モータースポーツの楽しさ」を体験してもらい、夢をもつ大切さ、挑戦する楽しさを伝えていきたいという思いで、レーシングドライバー佐藤琢磨選手のプロジェクト「TAKUMA KIDS KART CHALLENGE」を2014年からサポートしています。このプロジェクトでは、カート初心者からレース経験のある小学生を対象として全国のサーキットの協力のもと講習会や予選会を実施し、その中から優秀な子どもたちを集め、琢磨選手が直接指導を行うアカデミーをサポートしています。

2024年は、全国25か所でタイムトライアルレースによる予選大会を開催し、1,576名が参加。その中の上位94名によるFINAL大会を、栃木県のモビリティリゾートもてぎで開催しました。FINAL大会では、佐藤琢磨選手によるアドバイスのもと、真剣勝負のタイムトライアルを実施。勝ち抜いた上位8名は、後日『TAKUMA KIDS KART ACADEMY』に招かれ、さらなるスキル向上に向けて、佐藤琢磨選手による直接指導と模擬レースを受講しました。また、2020年から、『TAKUMA KIDS KART CHALLENGE』で優秀な成績を収めた子どもたちに、レーシングドライバーへの第一歩をサポートするスカラシップなどのプログラムも行っています。



『TAKUMA KIDS KART CHALLENGE』の様子

清水エスパルス アカデミーサポート 『Glico Challenge Tour』

2014年より、サッカーチーム「清水エスパルス」が運営するアカデミーの育成支援として『Glico Challenge Tour』という海外遠征プログラムをサポートしています。海外遠征先で世界的な強豪チームと対戦することで、子どもたちのスキルアップと世界に向けた挑戦を支援してきました。

2024年はU-14選手19名がスペイン・バルセロナ遠征に参加し、FCバルセロナやレアル・マドリードCFといった強豪クラブと「Glico CUP 2024」大会で対戦し、世界レベルの技術と異文化の体験により、各選手の学びと成長に繋がりました。



Glico CUP 2024に参加したエスパルスジュニアユース選手

久光スプリングス アカデミーサポート 『Glico ジャンプアップチャレンジ』

Glicoは、女子バレーボールチームSAGA久光スプリングスが運営するスプリングスアカデミーの理念「子供の豊かな成長を育む」に賛同し、子どもたちへのバレーボール教室「Glico ジャンプアップチャレンジ」をサポートしています。2024年は、アカデミー生徒を対象に神戸ホームゲーム会場で開催し、エキシビションマッチやバレーボールのスキルUPメニューに加え、成長期の子どもたちに必要な栄養講習会を実施しました。



Glicoジャンプアップチャレンジに参加したスプリングスアカデミーの子どもたち

今後もさまざまなアスリートとともに、スポーツを通じて子どもたちのすこやかな成長に寄り添い、ココロとカラダの健康づくりをサポートしていきます。

パラスポーツを通じた健康への貢献

グリコ パラゴルフ選手権（世界ランキング対応試合）

GlicoはNPO法人日本障害者ゴルフ協会（通称：DGA）が主催する、世界障害者ゴルフランキング（WR4GD）対象のゴルフ選手権の開催をサポートしています。2024年4月には第1回となる「グリコ パラゴルフ選手権」が沖縄県名護市のカヌチャゴルフクラブで開催されました。アジアで3番目の世界ランキング対象試合として、海外からも世界ランカーが参加しており、競技性の高い大会として注目を集めています。

これからもパラスポーツ選手の活躍の場を支援することで、スポーツの発展と人々の健康に貢献します。



「第1回グリコ パラゴルフ選手権」の様子

教育支援

体験を通じた独自の教育支援

Glicoグループでは、創業者・江崎利一の「食べることと遊ぶことは子どもの二大天職である」という企業哲学のもとに、グループが持つさまざまな資源を活用し、独自の教育支援活動を行っています。

工場見学施設『グリコピア』

訪れた方々がGlicoグループの商品や食文化について楽しく学べる工場見学施設として、『グリコピア神戸』（兵庫県）、『グリコピア・イースト』（埼玉県）、『グリコピアCHIBA』（千葉県）を開設しています。各施設では、併設された工場で製造している『ポッキー』や『プリッツ』、『パピコ』や『セブンティーンアイス』の製造工程の見学や、デジタル空間でオリジナルのお菓子づくりやクイズに挑戦する体験等、地域のお客様をはじめ、多くの方々に「見る・楽しむ・学ぶ」を体感していただいています。



グリコピア神戸（左）・グリコピアCHIBA（右）

キッズニア甲子園で、本格的なショコラティエ体験を提供

江崎グリコは、KCJ GROUP 株式会社が企画・運営する子どもの職業・社会体験施設「キッズニア甲子園」（兵庫県西宮市）において、オフィシャルスポンサーとして「チョコレート工房（Chocolate Factory）」パピリオンをオープンしました。このパピリオンは、おいしいチョコレートを追求し続ける江崎グリコとKCJ GROUPが考案したアクティビティです。チョコレートができるまでの工程を学び、子どもたちの自由な発想でピエス・モンテを作り上げるショコラティエ体験を通じて、チョコレートの奥深さを五感で体感する機会を提供します。



プログラミング教育支援『GLICODE®（グリコード）』

Glicoグループでは、プログラミング教育を通じ、皆様の知的健康に貢献していきたいと考えています。おいしいおかしを食べながら楽しく遊び、学ぶことができる『GLICODE®（グリコード）』や『GLICODE MAKER』は、小学校教育にもご利用いただいております。また、プログラミングの指導をされる先生方のお手伝いができればと、2017年以降、授業で使用するキットを作成し、応募いただいた先生方にお配りしました。さらに、2022年12月からは「授業教材コンテンツパック」としてWEB上に公開し、ダウンロードできるようにしました。

また、衛生上の観点から直接『Pocky』を扱うことが難しい現場でもご利用しやすいように、2023年10月に並べた『Pocky』をカメラで読み込む「カメラモード」に加えて、アプリ上でポッキーを動かす「タッチモード」を搭載しました。

さらに、全国の小学校で広く導入されているChromebookでご利用いただけるように、2023年12月にChromebook版のアプリをリリースしました。



キャリア教育による次世代育成

創業以来、子どもたちのすこやかな成長を願ってきたGlicoグループでは、子ども達への教育支援にも取り組んでいます。こうした活動を通じて、環境問題・キャリア形成に対する関心を喚起し、地域の次世代を担う子どもたちの育成に携わっています。

小学生へ出張授業

プログラミングの基本的な考え方を学べる『GLICODE®（グリコード）』や、近年世界的に問題となっている環境課題への取り組み、Glicoの各職場を題材としたキャリア教育や、日々の食について考える機会を持ってもらうよう、クイズを盛り込んだ食育等、さまざまなプログラムを全国の小学校や学童教室等を中心に実施しています。



中高生への出張授業

一部、中学校や高校からのニーズに応じた出張授業等も行っています。主に2日間程度のプログラムを構成し、Glicoの事業内容等の紹介から、テーマに沿った形での講義を行います。それを受けて、生徒側で考えた意見・アイデアをレポートにまとめて提出してもらい、後日フィードバックすることで、仕事の一連の流れや、喜び・大変さを疑似体験してもらいます。



コミュニティ支援

Glicoグループでは、全国各地で清掃や防犯等のボランティア活動を実施するほか、復興や防災、行政による福祉活動の支援を行っています。

グリコワゴンが笑顔をお届ける活動を継続展開

「日本中においしさと健康、ワクワクと笑顔をお届けしたい。」そんな想いを乗せてグリコワゴンは2010年から走り出しました。2011年の東日本大震災以降は、被災地の訪問活動も含め、子どもたちのすこやかな成長に寄り添い、笑顔をお届ける活動を継続しています。

=近年の主な活動=

- 2023年3月「2代目グリコワゴン」が稼働開始
- 2023年9月東日本大震災の被災地である福島県白河市で行われた音楽イベント「風とロック芋煮会2023」に参加
- 2024年8月令和6年能登半島地震の被災地である石川県輪島市内の幼稚園、保育園を訪問
- 2024年9月東日本大震災の被災地である福島県郡山市で行われた音楽イベント「風とロック芋煮会2024」に参加

グリコワゴンは、子どもたちのすこやかな成長と家族のつながりを支え、笑顔をお届けることで、広く社会に貢献する活動を続けていきます。



2代目グリコワゴンが輪島市の保育園と幼稚園に訪問した様子

道頓堀グリコサインで公共広告を実施

2024年3月、大阪府南警察署より公共広告への協力要請があり、道頓堀グリコサインで交通安全のためのメッセージ配信を実施しました。大阪府は自転車ヘルメット着用率向上が課題で、「自転車用ヘルメットをかぶりましょう 大阪府南警察署」、「心と時間にゆとりをもち、安全運転を！ 大阪府南警察署」の2つのメッセージを期間限定で配信しました。今後も道頓堀グリコサインを通じて、安心・安全な社会づくりに貢献いたします。



道頓堀グリコサインにて道頓堀グリコサインで「糖尿病」の現状を発信

Glico グループは「World Diabetes Day（世界糖尿病デー）」の取り組みへ参画すると共に、糖尿病への関心を持つきっかけづくりを行なっています。2024年11月、道頓堀グリコサインで「World Diabetes Day（世界糖尿病デー）」を応援する特別映像を期間限定で放映しました。今後もこのような取り組みを通じて、より多くの方が糖尿病について関心を持ち、糖尿病について考えるきっかけとしていただけることを目指します。



自治体との連携協定の締結

地域社会の課題に対し、その解決に向けて連携・協働を図る枠組みとして、自治体と包括連携協定を結んでいます。

■Glicoグループとして協定を締結した自治体

兵庫県神戸市、埼玉県北本市、東京都渋谷区、奈良県三宅町、大阪府、大阪府寝屋川市、奈良県斑鳩町、鳥根県飯南町、滋賀県湖南市、佐賀県、大阪府泉大津市、岐阜県大野町、北海道、岐阜県安八町

(締結年月順、2024年12月時点)

事業所周辺の清掃活動を展開

Glicoグループではこれまでも全国各地で地域自治体の清掃活動に参加してきましたが、もっと主体的で「Glicoらしい」活動にできないかと考え、コロナ禍には、リモートワークでもチーム単位で実施できるような清掃活動や、や、出社に戻ってからは、仲間とコミュニケーションを取りながらウォーキング要素も取り込んだ清掃活動を、事業所周辺で実施しています。



各事業所で実施した清掃活動

災害被災地でのボランティア活動

災害発生時に事業所周辺の復興作業に従業員が積極的に参加できるよう、支援の仕組みを整備しました。この仕組みを活用して、各地域近隣で勤務する従業員がボランティア活動に参加しています。

地域社会と協働した防災訓練の実施

地域の方々の安全確保に協力することは、地域貢献活動の中でも重要であると考えています。本社がある大阪市西淀川区は、海拔ゼロメートル地帯のため、周辺河川が決壊した際には、甚大な水害被害発生が予想されています。そのため、Glicoグループは有事の際にスムーズに対応できるよう、西淀川区が行う広域防災訓練への参加や、近隣保育園の避難訓練受け入れ等を実施しています。



Glicoグループ本社敷地内の体育館を使用して避難訓練を実施する近隣保育園の児童と先生

「バイグリコ」社会課題解決につながる団体支援

Glicoグループ（国内）では、従業員が自社商品を購入する「バイグリコ」活動を、1980年から継続して実施しています。バイグリコは、自社の売上貢献はもちろん、地域経済にも貢献する活動として、全従業員で取り組んでいます。近年では、自社商品購入点数をポイント化し、そのポイントを資金として地域貢献活動を行っています。2022年度以降は、「健康」「食」「子ども」テーマで社会課題解決に取り組んでいる団体様への支援を実施しています。

2024年度は能登半島地震の復旧・復興を目的として、Glicoグループ従業員向けに、石川県内で栽培されているブランド芋「五郎島金時」を使用した、地元ポッキー「ポッキー<五郎島金時>」の購入を募り、その売上の一部を石川県に寄付する活動を行いました。今後も継続して様々な支援活動を行っていきます。



タイで子どもたちへ資源再利用の手作りノートを配布

ASEANの地域統括拠点であるGlico Asia Pacific（以下、GAP）では、ASEAN各国で積極的に地域貢献につながるCSR活動を展開しています。GAP傘下の一つであるThai Glicoでは、資源の効率的な活用を促進するとともに、地域貢献を目的に、片面使用済みの紙を再利用して約1,200冊のノートを手作りで制作しました。これは、23,000枚以上の紙が再利用されたことに相当します。従業員は、この制作工程における、紙の仕分け・裁断・製本・環境にやさしい表紙デザイン作成、までの全工程を通じて、サステナビリティの意識をより一層高めることができました。これらの手作りノートはThai Glicoの工場周辺の学校の生徒に手渡しされ、子どもたちの学習を支える一助になる事を願っています。



使用済みの紙からノートの作成に取り組む従業員（左）・ノートを手渡しで受け取ったタイの子どもたち（右）

佐賀県地域振興取り組み「牛乳マルシェ」への参加

グリコマニュファクチャリングジャパン佐賀工場・江崎グリコでは、「JAさが・さぎんコネク」¹と連携し、牛乳月間（6月）・牛乳の日（6月1日）にあわせて、佐賀県産牛乳の消費拡大を目的とした地域振興の取り組みを実施しています。

2024年5月に行われた、入場者2,000人規模のイベント「牛乳マルシェ」に参加しました。JAさが・地元の酪農家の方々と協力し、乳製品のPRや販売を行いました。今後も、酪農家の方や酪農関連機関と連携しながら、佐賀県産の牛乳消費拡大に貢献する活動を継続してきます。



乳製品PRの様子

成人式で北本市とのコラボレーション

埼玉県北本市の成人式実行委員から、成人式の活性化のために地域企業とのコラボレーションをしたいというご要望をいただき、2020年1月から、グリコマンユファクチャリングジャパン北本工場で製造している製品を活用した、新成人記念品をご提供しています。2025年1月の成人式は、北本市ゆるキャラの「とまちゃん」をデザインした手提げ袋にジャイアントポッキーを入れ、お渡ししました。



北本市ゆるキャラの「とまちゃん」をデザインしたジャイアントポッキー

糖質に関する健康啓発イベントの開催

グリコマンユファクチャリングジャパン兵庫工場は、所在地の三木市と健康協定を結び、糖質に関する健康啓発イベントを行っています。2024年5月に開催したイベントでは、糖質セミナー・糖質測定体験・SUNAO（糖質オフアイス）の試食をおこない、約150人の方に参加頂きました。同SUNAOブランドにお菓子があることや、糖質測定体験をおこない適正な糖質量を知って頂く事で、健康意識向上につながるイベントを今後も開催していきます。



セミナーの様子

協賛活動

基本方針

人々のココロとカラダの健康や次世代を担う子どもたちのすこやかな成長に貢献したいという想いをもとに、文化及びスポーツ協賛活動に取り組んでいます。

主な広告協賛先

- 劇団四季 大阪四季劇場
- ビルボードライブ
- スマイルグリコパーク（楽天モバイルパーク宮城）
- ゴルフトーナメント「3大ナショナルオープン」
 - 日本オープンゴルフ選手権
 - 日本女子オープンゴルフ選手権
 - 日本シニアオープンゴルフ選手権

主なスポーツ協賛選手

- レーシングドライバー 佐藤 琢磨選手
- プロゴルファー 西 智子選手
- テニスプレイヤー 越智 真選手
- テニスプレイヤー 上杉 海斗選手

公益財団法人 母子健康協会への支援

創業者・江崎利一が、私財を投じて1934年に創設した公益財団法人母子健康協会の活動を江崎グリコは援助しています。公益財団法人母子健康協会は、子どもの心身の健康増進や疾病の予防とその治療に役立つ小児医学研究への助成を中心事業とし、乳幼児のすこやかな成長に関する情報を掲載した機関紙「ふたば」の発行、小児の健康と育児をテーマにしたシンポジウムを開催する等の多彩な活動を行っています。



事業活動の基盤

持続的成長に向けた経営基盤の強化に取り組みます。

コーポレート・ガバナンス

考え方

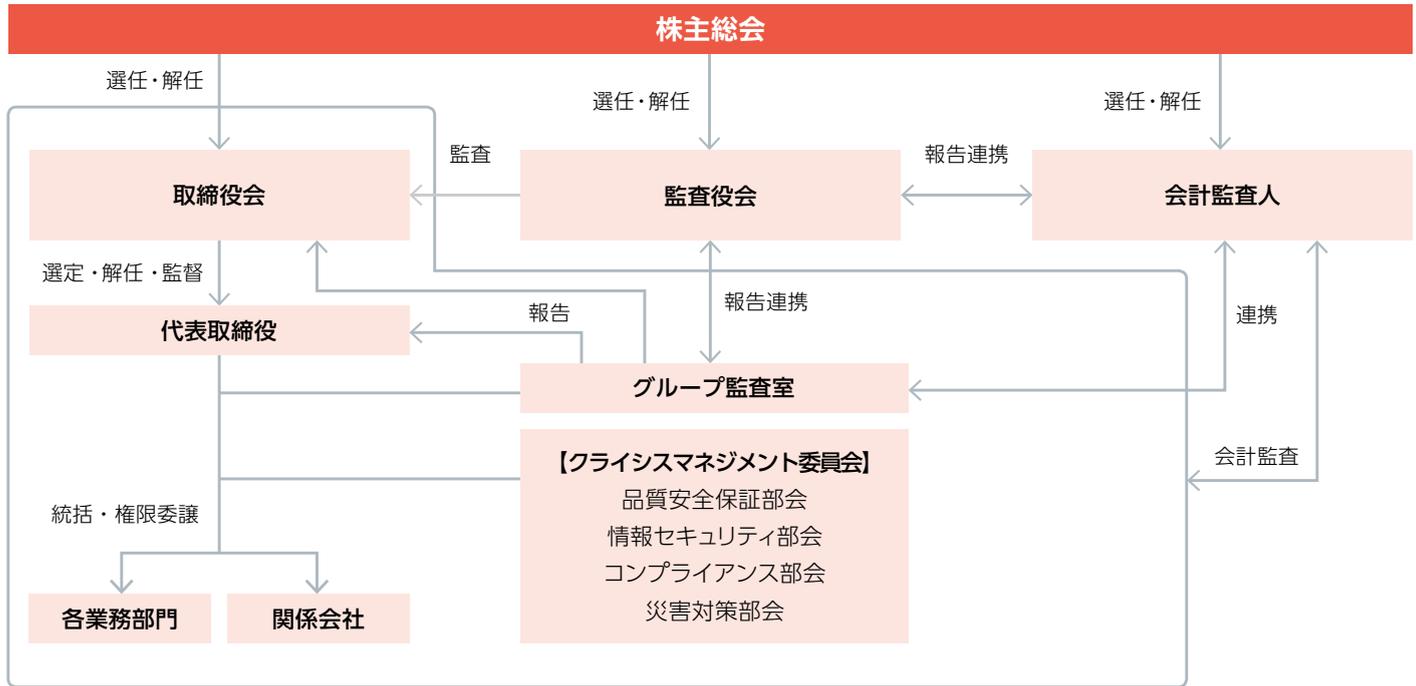
Glicoグループは、企業理念に基づき、持続的に成長すること、中長期的な企業価値を向上させること、および経営の透明性・効率性を向上させることを目的に、次の基本方針に則り、コーポレート・ガバナンス体制の継続的な充実に取り組みます。

基本方針

1. 株主の皆様のご権利の尊重・平等性の確保に努めます。
2. 株主の皆様を含む当社のステークホルダー（お客様、取引先、債権者、地域社会、将来世代、従業員等）との適切な協働に努め、良好・円滑な関係を構築します。
3. 会社情報の適切な情報開示と透明性を確保します。
4. 透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うため、取締役会の役割・責務の適切な遂行に努めます。
5. 株主の皆様との建設的な対話に努めます。

体制

最高意思決定機関である株主総会の下、重要な業務執行に関する意思決定および各部門（関係会社を含む）による業務執行の監督を行う取締役会、および取締役会の職務執行を監視・監督する監査役会を中心としたコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。本体制により、取締役会における経営の意思決定機能、および業務執行を管理・監督する機能が充実するとともに、経営効率の向上、的確かつ戦略的な経営判断が可能となっています。



コーポレート・ガバナンス体制図

取締役会

取締役会は、取締役8名（うち社外取締役4名、2024年12月31日時点）で構成されており、原則として毎月1回開催され、法令・定款に定められた事項や業務執行に関する重要事項等の審議・決定を行っています。

またGlicoグループは執行役員制度を採用しており、業務監督機能と業務執行機能の分担を明確にするとともに、迅速な意思決定および業務執行の充実を期しています。

監査役会

監査役会は、監査役5名（うち社外監査役3名、2024年12月31日時点）によって運営されています。各監査役は取締役会をはじめとする社内の会議に積極的に参加し、取締役の業務執行に関する監査を行っています。

内部統制

経営の透明性・効率性を向上させ、以て持続的な成長を図るため、「内部統制システムに関する基本方針」を制定し、同方針に基づく内部統制システムを構築し、業務の適正を確保しています。

< 内部統制システムに関する基本方針 >

当社は、会社法及び会社法施行規則に基づき、当社及び当社の子会社（以下「グループ会社」という。）の取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制（以下「内部統制システム」という。）の整備に関する基本方針を以下のとおり定める。

1. 当社及びグループ会社の取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ① 当社及びグループ会社の業務執行が適正かつ健全に行われるため、取締役会は実効性のある「内部統制システム」の構築と法令及び定款等の遵守体制の確立に努める。
- ② 法令遵守、企業倫理を確立するための具体的な行動規範としてGlicoグループ「行動規範」を制定し、当社及びグループ会社の取締役はこれを遵守する。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、取締役会の議事録、決裁資料、その他取締役の職務の執行に係る重要な情報を文書又は電磁的媒体に記録し、法令等に従い適正に保存、管理する。

3. 当社及びグループ会社における損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① 当社は、当社及びグループ会社の業務執行に係る各種リスクの予防及び迅速かつ確な対処を行うため、戦略的かつ全社的なリスクマネジメント体制を整備・運用する。まず、リスク対応に関する規程を制定のうえ、代表取締役社長の直下に「クライスマネジメント委員会」を設置している。不測の事態が発生した場合には、直ちに対応策を協議して事態の収拾、解決にあたる。
- ② 「グループ監査室」（「5」「④」の項に定義する。）にて各部門における損失にかかわるリスク管理の状況を定期的に監査し、その結果を会長および社長に報告するほか、必要に応じて各部門の担当役員及び監査役に報告する。

4. 当社及びグループ会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ① 当社及びグループ会社は、職務権限及び意思決定に関する社内規程を定め、職務の執行が適正かつ効率的に行われることを確保する体制を構築する。
- ② 取締役会を毎月1回開催するほか、執行役員制度を採用し、迅速な意思決定及び業務執行の充実を期する。

5. 当社及びグループ会社の使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ① 法令遵守、企業倫理を確立するための具体的な行動規範としてGlicoグループ「行動規範」を制定し、当社及びグループ会社の使用人に適用する。
- ② 「クライスマネジメント委員会」のもと、当社及びグループ会社の使用人が利用可能な内部通報制度として「Glicoコンプライアンスホットライン」を設置し、法令等及び社内規程に対する違反等の未然防止及び早期発見のための体制を構築する。
- ③ 「クライスマネジメント委員会」の中に「コンプライアンス部会」を設置し、職務の執行における重大な法令違反の発生を防止する体制を確立する。
- ④ 内部監査部門として会長直轄とする「グループ監査室」を設置し、当社及びグループ会社における内部統制の有効性と妥当性を確認する。

6. 当社及びグループ会社における業務の適正を確保するための体制

- ① グループ会社における業務の適正を確保するため、グループ会社に対し経営状況その他の重要な情報について、当社への定期的な報告を義務付ける。
- ② グループ会社における職務権限及び意思決定に関する基準を定め、グループ会社における職務の執行が適正かつ効率的に行われることを確保する体制を構築する。
- ③ グループ会社におけるコンプライアンスを推進するため、「コンプライアンス部会」が中心となり、法令・社内規程遵守の状況の把握、コンプライアンス研修等、必要な措置を講ずる体制を構築する。
- ④ 法令等及び社内規程に対する違反等の未然防止及び早期発見のため、グループ会社においても内部通報制度である「Glicoコンプライアンスホットライン」の利用を促進する。

7.監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びに当該使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性に関する事項

- ①監査役会がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合には、若干名で構成される「監査役室」を置く。
- ②「監査役室」に所属する使用人の取締役からの独立性を確保するため、当該使用人の任命、異動等の人事権に関わる事項の決定等については、監査役会の事前の同意を得る。
- ③「監査役室」に所属する使用人は、業務の執行にかかる役職を兼務しないこととし、もっぱら監査役の指揮命令に従わなければならない。

8.当社及びグループ会社の取締役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が当社監査役に報告をするための体制

- ①当社及びグループ会社の取締役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者は、当社監査役から職務の執行に関し報告を求められたときは、速やかに適切な報告を行う。
- ②当社は、当社及びグループ会社の取締役及び使用人が職務の執行に関し、重大な法令・定款違反、若しくは不正行為の事実、又は当社若しくはグループ会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を知ったときには、速やかに当社監査役に報告する体制を構築する。
- ③「グループ監査室」、「クライシスマネジメント委員会」等は、当社監査役に対して定期的に当社及びグループ会社における内部監査、内部通報の状況等を報告する。
- ④当社監査役へ報告を行った当社及びグループ会社の取締役及び使用人に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止する。

9.その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ①監査役の求めに応じ、必要な情報を提供し、各種会議への監査役の出席を確保する。
- ②監査役の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務は、職務の執行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに処理する。

10.反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及び体制整備について

当社は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切の関係を遮断するとともに、これら反社会的勢力に対しては、弁護士や警察等の外部専門機関と緊密に連携し、毅然とした姿勢で対応する。

11.本方針の改定は取締役会の決議を持って実施する

内部監査および監査役監査について

内部監査および監査役監査の組織は、内部監査専門部署であるグループ監査室および5名の監査役で構成されています。グループ監査室は、監査役及び会計監査人との間でそれぞれ監査計画及び監査経過、監査結果の報告や助言、意見交換などを実施し相互連携を図ることにより、内部監査の実効性と効率性、財務報告に係る内部統制の有効性と妥当性を確認しております。内部統制全般に係る業務監査の結果は、会長、社長、取締役会及び監査役会に定期的に報告し、内部監査の実効性の確保に取り組んでおります。

監査役は、期初に策定した監査計画に基づき、業務全般にわたる監査を実施しています。監査役は取締役会に常時出席することはもとより常勤監査役は社内の重要会議にも積極的に出席し、法令違反や定款違反、株主利益を侵害する事実の有無について重点的に監査しています。

会計監査人は、監査計画および監査経過について監査役と年4回の意見交換を行い、相互連携を図りながら監査を行っています。会計監査人による監査結果の報告には、監査役およびグループ財務責任者が出席しています。さらに重要な関係会社については、会社法監査を監査法人に委託しています。

社外取締役および社外監査役について

社外取締役は4名、社外監査役は3名（2024年12月31日時点）です。社外役員を選任するための独立性に関する基準または方針について特段の定めはありませんが、選任にあたっては、証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にし、社会的経験・知見から独立的な立場でGlicoグループの経営に資する人選を行っています。

社外取締役は、取締役会での議案審議にあたって適宜質問や意見表明を行うことを通じて取締役会の活性化を図るとともに、経営監視機能としての役割を果たしていると判断しています。

リスクマネジメント

以下の目的を実現するため、社長直轄のクライシスマネジメント委員会を設置し、グループのリスクマネジメントに繋がる事項に関する方針決定、クライシスへの対応、およびそれらに関する一切の事項を把握し審議のうえ施策の立案・実行を行っています。

1. グループにおけるリスクを把握するとともに、法令および各種ルール等の遵守についてグループ内において周知徹底し、以て、リスクの顕在化によるクライシスの発生を未然に防ぎ、万が一発生した場合に生じる負の影響を最小限に抑えるための策を講じることに努める。
2. 発生したクライシスにつき、それによって生じる損害を含む負の影響を最小限に抑えるとともに、当該クライシスによる危機状態からの早期の脱出および回復を図ることに努める。

また、グループのリスクマネジメントの効果的な実現のため、同委員会直下の下部組織として、コンプライアンス部会、品質安全保証部会、情報セキュリティ部会、災害対策部会の4つの部会を設け、それぞれ以下の活動を行っています。

1. コンプライアンス部会：Glicoグループ各社における必要な社内規程の整備および法令・社内規程遵守の周知徹底と実践の励行を含むグループ全体でのコンプライアンスの推進
2. 品質安全保証部会：お客様の安全・安心を最優先として全ての製品とサービスを提供するための品質保証活動の強化
3. 情報セキュリティ部会：グループにおける情報セキュリティの推進および情報漏洩を含む各種事故等の発生防止
4. 災害対策部会：事業継続計画（Business Continuity Plan（BCP））の策定および実行体制の整備（BCPの周知・教育・訓練を含む）

さらに重大事案発生時には、同委員会とは別に緊急危機対策本部を設置することとしています。

コンプライアンス

考え方

Glicoグループは、ビジネス上の競争力を維持・強化するためだけでなく、企業としての持続可能性（サステナビリティ）向上を通じて社会を支えていくために、法令や会社のルール、倫理や道徳といった社会規範を守る「コンプライアンス」が必要不可欠と考え、その実現に真摯に取り組んでいきます。

取り組み

社長直轄のクライシスマネジメント委員会を構成する部会の一つであるコンプライアンス部会が中心となって、Glicoグループ各社において必要な社内規程を整備するとともに、法令・社内規程遵守の周知徹底と実践の励行および必要な教育・研修を実施し、グループ全体でコンプライアンスを推進しています。

贈収賄防止の取り組み

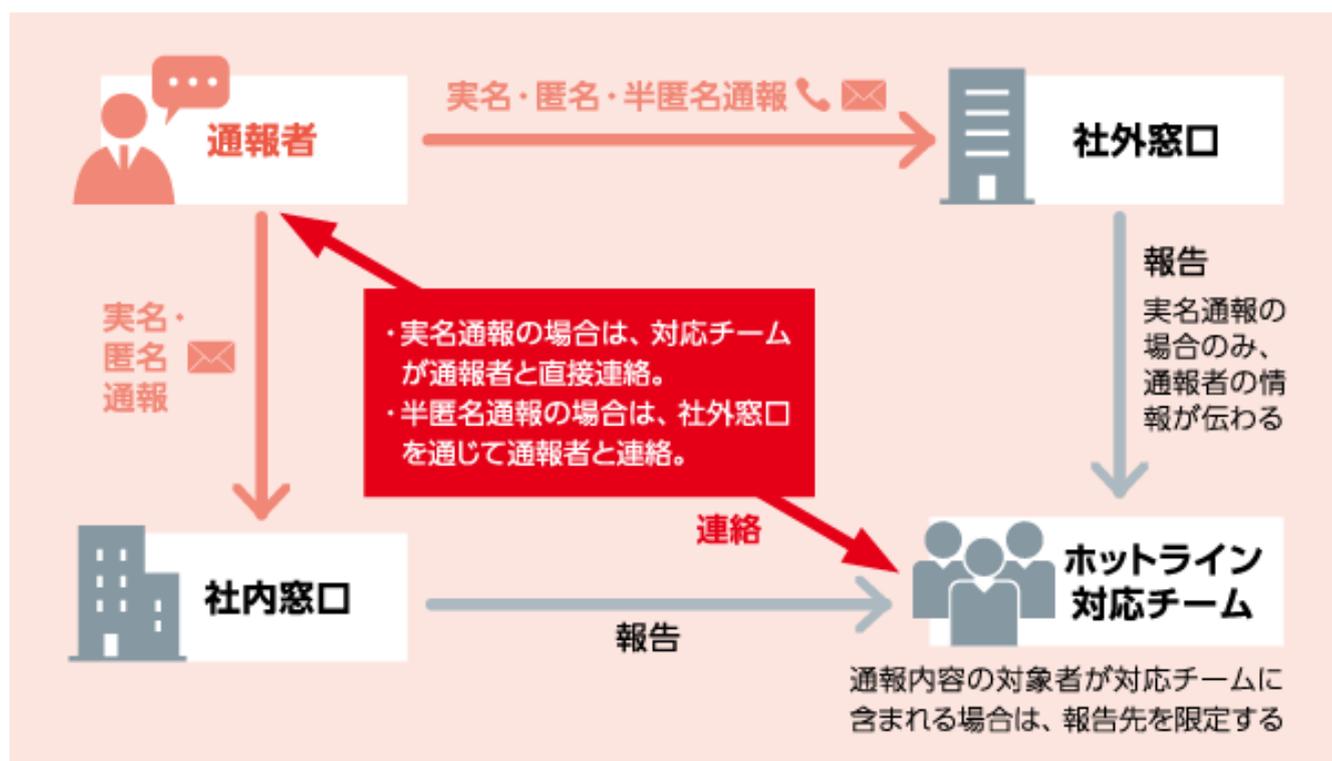
国内外のGlicoグループ各社において、適切な贈収賄防止規程を整備し、従業員教育を実施しています。

個人情報保護関連の取り組み

昨今の各国・地域における個人情報保護法令の厳格化に対応すべく、国内外のGlicoグループ会社を対象としたお客様向けプライバシーポリシーを再整備し公表しているほか、Glicoグループ会社において個人情報を適切に取り扱うための各種取り組みを進めています。

Glicoコンプライアンスホットライン

Glicoグループの役員・従業員一人ひとりによる法令違反や社内規程への違反行為の未然防止と早期発見を目的として、「Glicoコンプライアンスホットライン」を設けています。違反またはその疑いを発見した者は、自身が不利益を被る危険を懸念することなく会社に通報することができます。通報に対しては、中立的な社内機関が中心となって調査・対応します。実名通報、匿名通報、半匿名通報の3つのパターンがあり、Glicoグループにおけるパート・アルバイト等を含む全ての役員・従業員が利用可能です。



外部イニシアティブへの参画

国連グローバル・コンパクト

国連グローバル・コンパクト（以下、国連GC）とは、各企業・団体が責任あるリーダーシップを発揮しつつ、社会の良き一員として行動し、世界の持続可能な成長を実現するための取り組みです。国連GCは、「人権」・「労働基準」・「環境」・「腐敗防止」の4分野で10の原則を示しており、企業に対してそれらの原則を支持し、遵守するよう求めています。江崎グリコは2019年10月16日に国連GCに署名しており、持続可能な循環型社会の実現を目指して、国連GCの掲げる原則の実現につながる取り組みを進めています。



国連グローバル・コンパクトの4分野10原則

【人権】	原則1：人権擁護の支持と尊重 原則2：人権侵害への非加担
【労働】	原則3：結社の自由と団体交渉権の承認 原則4：強制労働の排除 原則5：児童労働の実効的な廃止 原則6：雇用と職業の差別撤廃
【環境】	原則7：環境問題の予防的アプローチ 原則8：環境に対する責任のイニシアティブ 原則9：環境にやさしい技術の開発と普及
【腐敗防止】	原則10：強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取り組み

食環境整備推進のための産学官連携共同研究プロジェクト

江崎グリコは、2023年9月、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所（NIBIOHN）と、食品会社6社と連携し、「食環境整備推進のための産学官等連携共同研究プロジェクト」を始動しました。「人生100年時代」を見据えて、健康寿命の延伸を実現するためには、産学官が一体となって食環境を整えることが必要です。本プロジェクトでは、健康への意識が高い人だけでなく、すべての人が、意識せず自然に健康になれる食環境モデルを構築することを目指します。

プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025

江崎グリコは、2023年6月、公益財団法人世界自然保護基金ジャパン(以下、WWFジャパン)が掲げる「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025」に参画しました。容器包装や使い捨てプラスチックによる海洋を含む環境汚染と気候変動の課題に対し、持続可能な社会の実現を目指します。



開発途上国におけるサステイナブル・カカオ・プラットフォーム

江崎グリコは、2023年1月、国際協力機構（JICA）が事務局を務める「開発途上国におけるサステイナブル・カカオ・プラットフォーム」への会員登録と、「児童労働の撤廃に向けたセクター別アクション」への賛同を表明しました。会員同士の協働によるアクションの実践を通じて、カカオ産業における児童労働撤廃に向けた取り組みを加速します。



CSRレポート2025に関するアンケートにご協力ください 

アンケートサイトへリンクします。

<https://www.dff.jp/enquete/activeEnq/GLICO>



江崎グリコ株式会社

www.glico.com/jp/